

琵琶湖博物館 年報

第 18 号

2013 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2014 年 12 月

---

# ごあいさつ

---

2011年に「新琵琶湖博物館の創造」の旗印を掲げ、リニューアルの宣言をしてから2013年度は2年目にあたります。博物館に「新琵琶湖博物館準備室」が設置されて新たな人員も配置され、博物館内の体制も刷新されました。リニューアルに向けての2013年度の最大の仕事は、「新琵琶湖博物館創造基本計画」の策定でありました。これは県民ワークショップやリニューアルに関するアンケートなど実施し、県民の理解を深めると同時に開館以来の新たな研究蓄積や新知見を盛り込んだ「湖と人間」の新しい共存関係を築いた社会の実現、いわば『湖をめぐる博物館の「森」の誕生』をキー・コンセプトにした基本計画です。新たな博物館の創造は、琵琶湖博物館のハードやソフトのリニューアルだけではなく、この創造を支える琵琶湖博物館の構成員自身の考え方や研究もリニューアルすることによって、よりよいものになると思います。

リニューアルへの仕事の比重が増えてきていることは事実ではありますが、博物館の通常の仕事である研究的業務や事業的業務（資料収集・整理・研究、研究を背景にした展示など）も着実に行っております。それはこの年報の「I 博物館機能の強化」の各項目をみていただければわかります。「1. 資料が活用できる博物館」では、琵琶湖博物館の資料点数も90万点を超えました。優れた資料あつての博物館ですから、将来には収蔵庫の増築も考えていかねばなりません。「2. 研究を進めて活かせる博物館」では、特筆に値しますが文部科学省の科学研究費の採択件数は非常に高く、学術研究がリニューアルに繋がる礎になるよう努めています。「3. 新たな参加と発見ができる博物館」においては主として展示関係の活動が記されています。2013年度には「生きものがたり ―生物多様性 湖国から 世界から―」という琵琶湖博物館らしい企画展示が開催され好評を博しました。また橋本忠太郎氏の植物標本約2万点が寄贈されたことを記念して、ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎―植物研究にかけた情熱―」が開催され、長年かけて整理した郷土の貴重な資料を展示公開できたことは感慨深いものです。

今まで述べてきたことは琵琶湖博物館の活動の氷山の一角に過ぎません。博物館の年報は年度毎の活動記録であると同時に、博物館の社会的責任の説明でもあります。琵琶湖博物館の活動を積極的に支援してくださっている多くの方々に、厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも積極的なご意見・ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月 3日

滋賀県立琵琶湖博物館  
館長 篠原 徹

# 目 次

ごあいさつ	1
<b>I 博物館機能の強化</b>	
<b>1 資料が活用できる博物館</b>	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 資料の活用	9
(3) 資料保管	13
<b>2 研究を進めて活かせる博物館</b>	
研究調査活動	
(1) 総合研究	16
(2) 共同研究	16
(3) 専門研究	17
(4) 研究審査委員会	18
(5) 研究助成を受けた研究	18
(6) 研究員の受け入れ	20
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	21
(2) 新琵琶湖学セミナー	25
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	26
研究交流	
(1) 国際協定	27
(2) 海外活動	27
(3) 試験研究機関の連絡活動	29
<b>3 新たな参加と発見ができる博物館</b>	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	30
(2) 企画展示・水族企画展示	33
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	37
(4) 集う・使う・創る 新空間	40
展示交流	
(1) フロアーターク	41
(2) ディスカバリールームのイベント	41
(3) 展示交流員と話そう	42
博物館連携	
(1) 滋賀県ミュージアム活性化事業	43
(2) 滋賀県博物館協議会	43
<b>4 体験と交流を促す博物館</b>	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	45
(2) 講座	46
(3) 体験教室	47
(4) 体験学習	49

学校連携	
(1) 学校団体	50
(2) 教育指導者等研修	54
(3) 学校サテライト博物館事業	56
研修・実習	
(1) 国際交流	57
(2) 博物館実習	60
<b>5 対話と応援ができる博物館</b>	
利用者による博物館利用	
(1) フィールドレポーター	61
(2) はしかけ制度	62
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	75
(2) 地域での支援活動	76
(3) 質問対応	77
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	78
(2) 環境学習の交流の場づくり	79
情報発信活動	
(1) 地域発見！参加型移動博物館	82
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	83
(3) 印刷物	84
<b>II 新琵琶湖博物館の創造</b>	86
<b>III 環境の整備</b>	
<b>1 拠点としての施設整備</b>	
(1) 利用者用施設の整備	88
(2) 情報システムの整備	88
(3) 来館者アンケート調査	88
<b>2 柔軟な運営組織</b>	
(1) 組織	91
(2) 職員	92
<b>3 社会的支援と新しい経営</b>	
(1) 利用状況（2013年度入館者数）	95
(2) 広報活動	97
(3) 予算	113
<b>4 存在基盤の確立</b>	
(1) 琵琶湖博物館協議会	114
(2) 企画・計画	114
<b>IV 2013年度をふり返って</b>	
<b>1 研究部</b>	116
<b>2 事業部</b>	116
<b>3 総務部</b>	117

# I 博物館機能の強化

## 1 資料が活用できる博物館

### 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。以下に2013年度の資料整備および利活用状況を示す。

### (1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2013年度末現在で、博物館登録資料は469,713で、収蔵概数は900,909となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

### 1) 収蔵資料数

2014年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2013年度登録数	2013年度受入総数
地学	43,314	51,800	627	688
動物	106,933	319,896	846	8,672
植物	84,418	188,114	110	21,534
微生物	0	70,869	0	210
水族（生体）	19,123	19,123	29,732	29,732
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2	206	0	1
民俗	6,721	6,770	0	0
環境	0	45箱と765	0	0
図書	128,900と 4,536タイトル	139,800	6,073と 362タイトル	6,111と 362タイトル
映像	75,766	101,700	0	0
合計	469,713	900,909	37,750	67,310

【各分野別の詳細】

地学標本	2013年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	520	0	0	0	647	647		31,070	32,100
岩石・鉱物	1	0	0	0	1	1		8,538	12,000
堆積物	106	0	0	0	40	40		2,455	6,400
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	627	0	0	0	688	688		43,314	51,800

動物標本	2013年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	229	16	3	0	210	229		3,086	3,429	
内 訳	哺乳類骨格標本	58	0	0	0	58	58		809	809
	哺乳類剥製標本	0	0	0	0	0	0		8	11
	哺乳類(その他)	149	0	0	0	149	149		643	988
	鳥類骨格標本	2	2	0	0	0	2	骨格標本2点	232	232
	鳥類乾燥標本(巢、卵、レプリカ等含む)	19	14	3	0	2	19	仮剥製標本提供2点、採集14点、足跡石膏型標本3点	937	937
	爬虫類骨格標本	1	0	0	0	1	1		35	36
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		5	3
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		23	40
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		23	2
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		6	6
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		351	351
	両生類(その他)	0	0	0	0	0	0		14	14
魚類（淡水魚類）	584	0	0	0	10	10		54,907	84,435	
内 訳	乾燥骨格およびアクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,677	2,677
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を維持管理、データベースの修正などをおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	584	0	0	0	10	10	新規に提供された標本および前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ584件を新規登録した	48,507	78,035
昆虫	0	19	5,519	0	2,201	7,739		34,610	202,748	
内 訳	昆虫液浸標本	0	0	0	0	0	0	今年度は新たに受け入れた資料はなかった。以前に寄贈された資料を整理し、登録できる状態にする作業を進めている	12,495	31,046
	昆虫乾燥標本	0	19	5,519	0	2,201	7,739	村山コレクション32,396点の登録作業。滋賀県産等2,220点の標本を作成した	22,115	171,702
貝類	33	0	33	0	371	404		14,330	16,589	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	4	3	0	283	290		0	12,695	
小 計	846	39	5,558	0	3,075	8,672		106,933	319,896	

植物標本	2013年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	110	0	21,533	0	1	21,534	標本受入・登録・ラベル貼付・ 収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	84,418	187,936
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	110	0	21,533	0	1	21,534		84,418	188,114

微生物標本	2013年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	3,612
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	203
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,582
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	23,908
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	27,080
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	179	0	0	0	0	選定後に受入予定	0	13,682
微小生物動画ファイル	0	31	0	0	0	0	再生機器不調のため、今年度の データ整理が未終了（来年度に 計上予定）	0	802
小 計	0	210	0	0	0	0		0	70,869

水族資料 (生体)	2013年度							累 積		
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物	19,816	2,030	35	5,642	12,109	19,816		17,101	17,101	
内 訳	魚類	19,787	2,003	33	5,642	12,109	19,787		17,052	17,052
	両生類	26	26	0	0	0	26		14	14
	爬虫類	2	1	1	0	0	2		27	27
	鳥類	1	0	1	0	0	1		8	8
無脊椎動物	9,916	8,218	919	595	184	9,916		2,022	2,022	
内 訳	昆虫類	711	525	2	0	184	711		242	242
	貝類	1,014	384	35	595	0	1,014		650	650
	甲殻類	7,639	6,757	882	0	0	7,639		969	969
	環形動物	552	552	0	0	0	552		161	161
小 計	29,732	10,248	954	6,237	12,293	29,732		19,123	19,123	

考古資料	2013年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
粟津貝塚剥ぎ取り資料	0	0		0	6
瀬田唐橋資料	0	0		0	3
阿弥陀寺瓦(コンテナ数)	0	0		0	21(箱)
小 計	0	0		0	1,429箱と392点

歴史資料	2013年度					累 積		
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	大津百艘船仲間木村忠兵衛家文書の整理を行っている	2	161
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	38
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		2	206

民俗資料	2013年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,588	2,589
二次資料(木造船模型)	0	0	0		0	41
小 計	0	0	0		6,721	6,770

環境資料	2013年度				累 積		
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0	0		0	72
生活用具類	0	0	0	0		0	34
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	0	0	0		0	45箱と765

図書資料	2013年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	2,775	109	2,611	2,720	その他、館外利用サービスとして開架図書10,000冊、雑誌67件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検64,000点、ニュースレターの整理、図書装備約2,700冊	78,100	87,200
文献	3,298	93	3,298	3,391		50,800	52,600
雑誌	362タイトル (うち新規320タイトル)	65タイトル	297タイトル	362タイトル		(*)4,536 タイトル	
小 計	6,073と 362タイトル	202と 65タイトル	5,909と 297タイトル	6,111と 362タイトル		128,900と 4,536タイトル	139,800

(\*)博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2013年度						累 積		
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	琵琶湖文化館写真資料 PDF 化5,267件、琵琶湖文化館ネガのスキャン3,994件、大橋コレクション スキャン3,994件	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	8,769
小 計	0	0	0	0	0	0		75,766	101,700

## 2) 寄贈者および提供者

敬称省略(点数)

### 【地学資料】

岡村喜明(299) 平川動物公園(1) 石田志朗(40) 増尾はづき(171) 北田 稔(1)  
川口 貢(94) 清水大吉郎(11) 神谷英利(1)



【動物標本】

鳥類乾燥標本：寺尾尚純 (1) 国際湖沼環境委員会 (1) 岡村喜明 (3)  
 昆虫乾燥標本：小野克己 (9580) 五味和重 (506) 武田 滋 (1975) 谷中憲弘 (1)  
 中川 優 (15) 久保隆弘 (1) 北川友直 (1) 北川友直・K.Nakanishi (1)  
 中西海斗 (1) 宮田 彬 (11) 山本康博 (11) 山本由里子 (198) 遠藤真樹 (3)  
 桐村信行 (2) 山口陽大 (3) 秋山廣光 (3) 石田未基 (2) 中井克樹 (1)  
 中野英幸 (3) 鶴岡有香 (1) 南 尊演 (1)  
 魚類液浸標本：中川雅博 (10) 酒井治巳 (11)  
 貝類標本：酒井治巳 (33) 水資源機構 (371)  
 小型生物：Koji Kojima (1) 五十嵐敬司 (164) 石田未基 (2) 浦部美佐子 (1) 小池 憲 (1)  
 鈴木隆仁 (2) 関慎太郎 (1) 西野真知子 (不明) 布村 昇 (86) 宮本知子 (1)  
 山本充孝 (1) 佐藤拓哉 (21) 吉田 宏 (2) 草加伸吾 (1) 北川友直

【植物標本】

さく葉標本：橋本 正 (21, 533) 森田景二 (1)

【水族資料】

脊椎動物 (魚類)：宍道湖自然館 (3) 滋賀県水産試験場 (40) さいたま水族館 (30)  
 無脊椎動物 (昆虫類)：宍道湖自然館 (2)

【図書資料】

掛谷英子 (1206) 上西 実 (802) 日本考古学協会 (1) 川那部浩哉 (844) 國分政子 (395)  
 村田 源 (15) 石田志朗 (11) 志岐常正 (8) 山口隆雄 (2) 尾池和夫 (1) 岡村喜明 (1)  
 木下 一 (1) 河野光子 (1) 小泉 誠 (1) 近藤 學 (1) 千地万造 (1) 辰巳 勝 (4)  
 西風建楠 (1) 西川 勝 (1) 丸山啓志 (1) 宮田 彬 (1) 吉安克彦 (1) 横井隆幸 (1)  
 マルバの会 (1)

3) 購入資料

資料分野	資料名	点数	資料形態	内容等
歴史資料	花園院宸記 卷3 1、3 3 (第二十二回配本)	1件 (1点)	古文書 (レプリカ)	

4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
<b>日本産魚類</b>		
<b>コイ科</b>		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	225
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	118
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	103
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	33
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	85
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	100
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	100
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	200
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	100
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	12

種 名	学 名	個体数
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	130
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	92
<b>ドジョウ科</b>		
アユモドキ	<i>Parabotia curta</i>	186
<b>メダカ科</b>		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	400
<b>トゲウオ科</b>		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	6
<b>ハゼ科</b>		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	30
<b>ドンコ科</b>		
ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>	60
<b>サケ科</b>		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou</i> subsp.	9, 119
<b>外国産魚類</b>		
<b>コイ科</b>		
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	100
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	160
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	100
<b>メダカ科</b>		
ランプリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicanus</i>	397
<b>カワスズメ科</b>		
ネオランプロログス・オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	119
ジュリドクロミス・オルナータス	<i>Julidochromis ornatus</i>	7
レピディオランプロログス・アテナアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	60
アウロノクラノス・デウィンディ	<i>Aulonocranus dewindli</i>	32
<b>昆虫類</b>		
タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	129
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	55

## (2) 資料の活用

### 1) 資料情報の公開

2013年度には電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち」が、従来は展示企画3回分の公開であったところを5回分の公開へと内容を増強した。

### 2) 資料の貸出（研究依頼を含む）

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	28	九州大学水産実験所	キクチヒナモロコ 1点 台湾産ヒナモロコ 1点	ヒナモロコの系統地理学的研究
5	10	長浜市長浜城歴史博物館	丸子船実物大断面、丸子船模型、カジ、カッシャ等 計12点	企画展で展示のため
5	26	読売新聞事業開発部	メリジオナリス臼歯 1点	マンモス「YUMA」展展示のため

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
6	5	野洲市歴史民俗資料館	唐橋遺跡出土資料無文銀銭1点、和鏡1点、金属器4点、銭貨38点、銀銭写真2点	テーマ展で展示のため
6	7	豊橋市自然博物館	クチベニマイマイ模型1点 マイマイカブリヘッド1点 ヤコンオサムシヘッド1点	特別展で展示のため
6	8	天草市立御所浦白亜紀資料館	哺乳類化石レプリカ6点、哺乳類化石実物2点、昆虫化石8点、魚化石139点、両生類化石3点、爬虫類・鳥類化石271点	特別展で展示のため
6	15	島根県立宍道湖自然館ゴビウス	ビワコオオナマズ(生体)1個体 イワトコナマズ(生体)1個体	特別展で展示のため
6	21	滋賀県立安土城考古博物館	モジ、コイタツベ、モンドリ等計74点	特別展で展示のため
6	25	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	魚類標本11点、食品レプリカ7点、漁具3点	企画展で展示のため
7	17	草津市役所環境課	クマゼミ、ヒグラシ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ 各1点計6点	「草津市セミ調査」にかかる観察会で利用
8	16	野洲市歴史民俗資料館	近江・畿内名勝図巻1点 琵琶湖真景図1点	秋季企画展で展示・図録広報物掲載のため
11	6	滋賀県立安土城考古博物館	松原内湖遺跡木製短甲1点	企画展で展示のため
11	12	Hanyang University	ケンミジンコ類(Acanthocyclops属)7点	記載論文執筆のため
12	2	多賀町立文化財センター・多賀町立博物館	大橋宇三郎コレクション写真パネル計247点	企画展で展示のため
12	12	宮島水族館	ワタカ(生体)10個体	干支展で展示のため
1	25	滋賀県立安土城考古博物館	唐橋遺跡出土無文銀銭1点 唐橋遺跡出土和同開珎12点	特別展で展示のため
3	4	吉安 裕	鱗翅目昆虫4点	滋賀県の鱗翅目昆虫相の解明に関する研究のため

### 3) 資料の譲与

<水族>

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	24	海の中道海洋生態科学館	ヒナモロコ 10個体	DNA解析に用いるため
4	28	九州大学水産実験所	キクチヒナモロコ鰭 5点	ヒナモロコの系統地理学的研究
7	5	生物学研究所	ビワヨシノボリ 20個体 オウミヨシノボリ 20個体	ヨシノボリ属魚類の分類学的研究のため
7	24	葛西臨海水族園	ゼニタナゴ 40個体	希少魚の生息域外保全実施のため
9	29	三重県立博物館	ユリカモメ(冷凍標本)1個体	剥製標本として展示のため
3	12	宮島水族館	ワタカ 10個体	干支展で展示のため

### 4) 特別観覧

<映像資料・静止画>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	5	松田 真平	キマダラルリツバメ標本写真計3点	日本鱗翅学会誌「蝶と蛾」論文への掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	5	滋賀県商工観光労働部観光交流局	前野コレクション 1点 古谷コレクション 1点	知事講演資料として使用
4	12	(株)ポプラ社	マゴイ 1点	図鑑「ポプラディア大図鑑 WANDA 魚」への掲載
4	18	滋賀県広報課	丸子船 1点	県政広報誌「滋賀プラスワン」5・6月号に掲載
4	22	国立科学博物館地学研究部	愛知川化石林写真 1点	企画展パネルに使用
4	26	小森 千賀子	モツゴ、タイリクバラタナゴ等 計15点	琵琶湖疏水学習紙芝居に使用
4	28	愛荘町教育委員会	C 展示室 農村の暮らしと自然 1点	愛荘町社会科郷土読本に掲載
5	2	(株)小学館出版局	追いさで漁の写真 1点 タツベ漁の写真 1点	小学館 NEO ぽけっと「水辺の生物」に掲載
5	22	(株)ジータ	ビワコオオナマズ 1点 イワトコナマズ 1点 ナマズ 1点	「でかナマズ攻略MOOK」に掲載
5	24	滋賀県総務部財政課	ビワマス 1点	「財政事業」表紙写真に掲載
5	24	瀬田川流域観光協会	近江名所図屏風 1点、湊はん志やう画像 1点、近江の写真(瀬田唐橋) 16点、近江八景図 1点 計19点	勢多唐橋東西大綱引合戦開催における唐橋の歴史紹介に使用
6	11	日田市立博物館	植物化石写真 1点、淡水貝類化石写真1点ほか 計88点	企画展パネルおよびチラシに使用のため
6	23	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	魚類写真、湖魚料理写真他 計12点	企画展パネルに使用のため
7	12	(株)東阪企画	マイマイカブリ 1点	BS 日テレ「ぶらぶら美術・博物館」内で使用
7	14	みんなで作る自然史博物館 香川	ゲンゴロウブナ 1点	企画展パネルに使用のため
7	14	折尾 佐和子	バイカル湖写真 1点 タンガニーカ湖写真 1点	関西テレビ「よーいドン」内で使用
7	24	NHK 大阪放送局	ハリヨ 1点 ハリヨとイトヨの交雑種 1点	NHK ニュース番組内で使用
7	24	毎日放送	ブルーギル 1点	毎日放送「ちちんぷいぷい」内で使用
7	26	滋賀県総合政策部企画調整課	ビワマス、ニゴロブナ、アブラヒガイ等 7点 前野コレクション 1点	県広報誌「Re-DISCOVER まるごと体感琵琶湖」に掲載
8	10	野洲市歴史民俗資料館	災害写真 4点 藤村コレクション 12点	企画展パネルおよび広報に使用のため
8	11	国立科学博物館地学研究部	愛知川化石林写真 1点	企画展パネルに使用
8	15	日本文教出版(株)	ビワコオオナマズ 1点 前野コレクション 1点	「大阪市学校教育 ICT 活用事業」への教材として
8	15	(株)ザイオン	オオクチバス 1点 ブルーギル 1点 カムルチー 1点	日本テレビ「月曜から夜ふかし」内で使用
9	10	朝日新聞大津総局	災害写真 2点	県流域治水推進条例にかかる記事への掲載
9	18	中日新聞教育報道部	ニゴロブナ 1点 ホンモロコ 1点	中日新聞「中日どこでもウィークリー」内への掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
9	18	公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構	北上する北湖画像 1点	散策ブックへの掲載
10	30	(株)日企	ホンモロコ 1点	日本テレビ「ザ・鉄腕!DASH!」内で使用
11	8	滋賀県立大学地域共生センター	大橋コレクション 4点	CSR/地域情報誌「MOH通信」42号に掲載
12	12	水元公園サービスセンター	スジエビ、ツチフキ、トウヨシノボリ他 8点	都立水元公園内水生植物センターにおけるパネル展示に使用
12	14	彦根辻番所の会	大橋コレクション 15点	足軽辻番所サロン内で使用
12	16	国際湖沼環境委員会	ビワコオオナマズほか 計10点	海外向け琵琶湖情報発信ツール製作事業 映像作品「Lake Biwa For it's sustainable future～」内で使用
12	18	高島市役所政策部	ニゴロブナ未成魚 1点	広報たかしま1月号に掲載
12	18	東京書籍(株)	古琵琶湖層はぎとり標本 1点	教科書「新編 新しい理科」(第6学年)への掲載
12	20	(株)JEUGIA カルチャー事業部	ニゴロブナ未成魚 1点 丸子船 1点 ふなずし 1点	カルチャースクール受講募集チラシに掲載
12	23	国際湖沼環境委員会	カイツブリ、キンクロハジロほか 19点	海外向け琵琶湖情報発信ツール製作事業 出版物「Lake Biwa Guidebook」に掲載
1	20	米原市上野区	大橋コレクション 732点	字史に使用する写真選定のため
1	30	小森 千賀子	モツゴ、タイリクバラタナゴ等 計15点	琵琶湖疏水学習紙芝居に使用
1	30	滋賀県農政水産部農村振興課	琵琶湖の魚写真 77点	ゆりかご水田の取り組みに関わる啓発資料に使用
1	30	滋賀県文化財保護協会	蒸籠 1点	体験学習時の解説資料として使用
2	5	読売テレビ	琵琶湖八珍の魚貝類 8点	街頭インタビュー用の写真として使用
2	23	奈良県景観・環境総合センター	コイ	調査研究発表の資料として使用
2	23	滋賀県水産試験場	ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、カネヒラ他9点	農林水産試験研究広報啓発事業におけるパネル展示に使用
3	3	農山漁村文化協会	前野コレクション 1点 イサザ、ホンモロコ、アリアゲギバチ、ネコギギ、アカザ 計5点	書籍「ナマズ」に掲載
3	20	(株)コクヨ工業滋賀	ビワコオオナマズ 1点	ヨシ紙使用ノート「オオナマズ」のPRポップに使用
3	20	学校図書(株)第二編集部	地学収蔵庫内写真 1点	中学校理科教科書「科学1」に掲載

<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
5	4	滋賀県立安土城考古博物館	モジ、コイタツベ、モンドリ等 計77点	特別展図録に掲載のため
5	16	長浜市長浜城歴史博物館	カジ、カッシャ、イカリ等 10点	企画展「丸子船～江戸時代の琵琶湖舟運～」のチラシ、ポスター、広報資料、解説書に使用
6	17	栗田 喜久 (九州大学大学院附属水産実験所)	魚類液浸標本 ハス 37点	ハスの形態変異に関する研究のため

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
9	8	酒井 成司	村山修一蝶類コレクション タイプ標本 11点	シジミチョウ類の分類学的研究のため
9	26	藤井 俊夫 (兵庫県立人と自然の博物館)	ツメクサ類標本 35点	ツメクサ類の近畿地方における分布図作成のため
11	12	寶 馨 (京都大学防災研究所)	琵琶湖・淀川アトラスデータ	淀川の古水文を解析するための水文モデルへの入力データ
2	24	吉安 裕	鱗翅目昆虫標本 100点	滋賀県の鱗翅目相の解明に関する研究のため

## 5) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開している。2013年度には、歴史資料2件の貸出状況を公開した。

資料分野	貸出先	資料内容	利用目的
歴史資料	長浜市長浜城歴史博物館	淡海録 巻六 (写本・江戸時代中期)	企画展 「丸子船～江戸時代の琵琶湖舟運～」 2013年6月7日(金)～7月15日(月・祝)
歴史資料	野洲市歴史民俗博物館 (銅鐸博物館)	近江・畿内名勝図巻 一巻 琵琶湖真景図 一巻	開館25周年記念企画展 「野洲川の歴史と文化」 2013年10月5日(土)～11月24日(日)

## 6) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。2013年度には以下の論文が公表された。

Abe, H., Nishiumi, I. and Inoue-Maruyama, M. (2013) Tandem Duplications in the C-terminal Domain of the Mesotocin Receptor Exclusively Identified Among East Eurasian Thrushes. *Journal of Molecular Evolution*, 77 : 260-267. (鳥類標本シロハラ活用)

Gunji, M., Fujita, M. and Higuchi, H. (2013) Function of head-bobbing behavior in diving little grebes. *Journal of Comparative Physiology A*, 199 : 703-709. (鳥類飼育生体カイツブリ活用)

### (3) 資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査など、総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

2013年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。特に映像収蔵庫の湿度が不安定であったため、7～9月に除湿器を用いて除湿を行った。収蔵環境のモニタリングとしては、きめ細かな空気環境の把握を行うため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握なども行った。また、全館規模の空調設備のシステム更新工事に伴い、温湿度記録システムやデータ抽出方法の見直しと調整を行った。

## 1) 収蔵庫空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・ 時間ごとに計測し、全データを保存。 ・ 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・ 収蔵庫の清掃：月 1 回原則として第 1 金曜日に実施 ・ 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週 1 回実施
特別清掃	年 4 回の特別清掃の実施(トラックヤード、前室等、害虫の増加場所を対象とした)
生物環境調査	年 3 回の生物環境調査 ・ 2013 年 6 月 14 日～6 月 28 日 昆虫トラップ調査 244 カ所(設置・回収・分析) ・ 2013 年 10 月 18 日～11 月 1 日 昆虫トラップ調査 244 カ所(設置・回収・分析) ・ 2014 年 2 月 28 日～3 月 14 日 昆虫トラップ調査 244 カ所(設置・回収・分析) * 当館の IPM 基準値 ・ 虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種(チャタテムシ)の個体数(捕獲指数)が 1

## 2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理(IPM)と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップ調査の結果等を踏まえ、収蔵庫内のチャタテムシ発生源になりやすい資料等の燻蒸を行っている。

大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸 4 回と酸化エチレン(エキヒューム S)による燻蒸 3 回を実施した。小型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる処理を随時行っている。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

## 3) 資料収蔵環境改善プロジェクト

ここ数年、施設・設備の老朽化のせいか、収蔵庫の温湿度が安定しなかったり、収蔵庫空間に発生した虫の管理に苦慮することが増えてきている。それに対して、問題が発生するごとに関係担当者や業者が対症療法的な処理を行ってきたが、このままでは安定的な資料の維持管理に支障をきたすのではないかと強い問題意識が生じてきた。そこで、この問題に総合的に取り組むために、問題・対処を担当者だけでなく、広く情報提供・共有し、専門家を入れて、その改善提案を出していただき、今後の取り組みの礎にしようという「資料収蔵環境改善プロジェクト」を 2013 年 9 月に立ち上げた。

このプロジェクトでは、資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案のとりまとめを行い、平成 25 年度中に報告書としてまとめることを目標とした。資料整理の担当者だけでなく施設設備に関わる業者も含めて全職員の今もっている情報・知恵を結集し、さらに専門家の力も借りて、問題を先送りせず今できることをつなげて今後の実践に活かせる提案をまとめることに焦点を絞った。その結果、まず現状における博物館資料の維持管理上の問題点を

1. 決まりごとの周知徹底や関係者間の情報共有の不足
2. 各収蔵庫の温湿度管理への苦慮
3. 収蔵庫空間に発生した生物の対応への苦慮
4. 収蔵庫空間での漏水
5. 設計上、構造上の問題
6. 施設・設備の老朽化

の6項目に整理し、これを踏まえて「IPM、保存科学」「施設・設備」の各々の立場の専門家からの改善提案を得た。そして、それを踏まえて改善提案を「すぐに出来ること」「数年で出来ること」「大規模な変更をと  
もなうこと」の3レベルに分けて整理することができた。

今後は、この成果を踏まえて実際の改善活動を如何にして進めていくかが課題となる。



## 2 研究を進めて活かせる博物館

### 研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であればあるほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2013年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。

#### (1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次のような総合研究1件を行った。

- ・琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明

代表者：高橋啓一，研究期間：2011～2015年度

#### (2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として、以下の共同研究11件を行った。

- ・太湖における水田環境の機能解明と民俗・考古基礎資料整備

代表者：楊平，研究期間：2011～2014年度

- ・定期サンプリングによる湖内におけるピワマスの基礎的生態情報の取得

代表者：桑原雅之，研究期間：2011～2013年度

- ・針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明

代表者：山川千代美，研究期間：2011～2013年度

- ・侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究

代表者：中井克樹，研究期間：2011～2013年度

- ・2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究

代表者：河瀬直幹，研究期間：2012～2014年度

- ・古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～

代表者：大塚泰介，研究期間：2012～2016年度

- ・「人をつなぐ人材」を軸とした戦略的博物館学への展開

代表者：戸田孝，研究期間：2012～2015年度

- ・X線CT画像を使ったシガゾウの分類学的再検討

代表者：高橋啓一，研究期間：2013～2015年度

- ・微小な生物の飼育技術開発および展示方法

代表者：松田征也，研究期間：2013～2015年度

- ・スレ症を目的とした塩水浴の治療メカニズムの解明

代表者：菅原和宏，研究期間：2013～2014年度

- ・琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究－I

代表者：藤岡康弘，研究期間：2013～2016年度

### (3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

#### <申請専門研究>

- ・琵琶湖集水域における古墳時代首長の領域と地域性（用田政晴）
- ・日本中世史は「種」を問題とすることができるかー社会史から環境史への挑戦ー（橋本道範）
- ・琵琶湖周辺における縄文時代以降の定量的植生復元に向けた基礎的研究ー花粉分析データの収集と定量的復元のための手法の検討（林 竜馬）
- ・過疎集落と他出先市街地における二地域居住の実態の解明（大久保実香）

#### <専門研究>

#### 環境史研究領域担当

- ・古琵琶湖層群産から新しく発見された魚類頭骨化石の形態解析（高橋啓一）
- ・堅田湖成立期の高島地域の堆積環境解析（里口保文）
- ・滋賀県高島市安曇川河床の古琵琶湖層群産足跡化石に伴う植物化石群（山川千代美）
- ・住民の防災意識向上に繋げる教育プログラムに関する検討（井関明子）
- ・農村地域における水と暮らしに関する環境社会学的研究（楊 平）
- ・揚水機に関する基礎的研究ー既往研究および使用事例の整理ー（老 文子）

#### 生態系研究領域担当

##### （基礎地域研究班）

- ・寄生性甲殻類および魚類の寄生虫に関する研究（マーク ジョセフ グライガー）
- ・カワウの巣の昆虫相に関する研究（八尋克郎）
- ・希少淡水魚における性決定について（松田征也）
- ・*Apocarchesium*属を中心としたツリガネムシ類の系統解析（楠岡 泰）
- ・森林伐採後の硝酸形成と琵琶湖の水質に影響する環境条件の解明（草加伸吾）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ属*Dolichopus*の分類学的研究（榎永一宏）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）

##### （応用地域研究班）

- ・魚類を中心とした琵琶湖固有種の生態等に関する研究（藤岡康弘）
- ・琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究（桑原雅之）
- ・生態系機能としての鳥類の養分輸送機能の検討（亀田佳代子）
- ・琵琶湖の湖底地形に関する研究（芳賀裕樹）
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・里山と琵琶湖と人の暮らしのつながり、薪の利用を通して（安福俊幸）
- ・水田地帯の排水路における生態系保全の基礎的調査（水谷 智）
- ・アユの寄生虫2種の季節動態と生物標識としての可能性（菅原和宏）

#### 博物館学研究領域担当

- ・水田における珪藻の環境指標性の研究（大塚泰介）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・イチョウウキゴケの有性生殖の可能性とそのメカニズム（芦谷美奈子）
- ・地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像（中藤容子）
- ・学校の学習カリキュラムと博物館での体験学習（蜂屋正雄）
- ・琵琶湖博物館を活用した学習プログラムの開発（藤橋和弘）
- ・琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究（金尾滋史）

- ・カヤ場管理の変化に伴う草地の量的、空間配置の変容および影響（澤邊久美子）

#### (4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 教授・施設長
宮崎 信之	東京大学 名誉教授
西 源二郎	東京都葛西臨海水族館 園長
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
水本 邦彦	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
石崎 富治	滋賀県総合教育センター 主査
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
中鹿 哲	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

#### (5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

篠原 徹

- ・科学研究費補助金（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究代表者（2013～2015年度）

高橋啓一

- ・笹川科学研究助成 実践研究部門「博物館、市民、民間が連携した持続的資料調査の実践」研究代表者（2013年度）

里口保文

- ・科学研究費補助金（基盤 C）「日本周辺の海域と陸域の鮮新-更新統を統合した標準年代モデルの確立」研究代表者（2013～2015年度）

橋本道範

- ・科学研究費補助金（基盤 C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」研究代表者（2011～2014年度）
- ・科学研究費補助金（基盤 B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討」研究分担者（2012～2015年度）

楊 平

- ・科学研究費補助金（基盤 C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究代表者（2010～2014年度）
- ・科学研究費補助金（基盤 C）「「貯蔵」と「加工」から見る東南アジア農耕導入期の野生植物食利用の実態とその変遷」研究分担者（2012～2014年度）
- ・科学研究費補助金（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究分担者（2013～2016年度）

老 文子

- ・科学研究費補助金（若手 B）「複数絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究」研究代表者（2010～2013年度）

林 竜馬

- ・科学研究費補助金（若手 B）「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」研究代表者（2013～2016年度）

マーク・ジョセフ・グライガー

- ・科学研究費補助金（基盤 B）「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因—陰性環境の生物多様性に光を当てる—」研究分担者（2011～2015年度）

八尋克郎

- ・科学研究費補助金（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣：未知の共生系の進化生態学的研究」研究分担者（2013～2015年度）

松田征也

- ・科学研究費補助金（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）

草加伸吾

- ・科学研究費補助金（基盤 B）「モンゴル北部森林火災再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」研究代表者（2011～2013年度）

榎永一宏

- ・科学研究費補助金（基盤 C）「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2011～2013年度）
- ・公益財団法人カメイ社会教育振興財団・全国科学博物館協議会 海外先進施設調査「最新の環境学習における、展示・学習プログラムの開発・指導者研修・運営についての事例研究」研究代表者（2013年度）

藤岡康弘

- ・農林水産省委託プロジェクト 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発研究費「暖帯平野景観本州における代表種選定と生息条件に及ぼす農法の影響解明」研究分担者（2013年度）

亀田佳代子

- ・科学研究費補助金（基盤 C）「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」研究代表者（2011～2013年度）
- ・科学研究費補助金（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣：未知の共生系の進化生態学的研究」研究分担者（2013～2015年度）

中井克樹

- ・環境省環境研究総合推進費「外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」（サブテーマ「外来魚類の防除手法開発および防除体制強化」）連携研究者（2011～2013年度）
- ・水産庁内水面漁業振興対策事業（外来魚抑制管理技術高度化事業）研究分担者（2012～2014年度）
- ・科学研究費補助金（挑戦的萌芽）「侵入ジャンボタニシの地域限定個体群に対する総合的根絶マネジメントへの試み」研究分担者（2012～2014年度）

用田政晴

- ・科学研究費補助金（基盤 C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究分担者（2010～2014年度）
- ・科学研究費補助金（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究代表者（2013～2016年度）

大塚泰介

- ・科学研究費補助金（基盤 A）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」研究分担者（2012～2014年度）

戸田 孝

- ・科学研究費補助金(挑戦的萌芽)「癒し」を手がかりとする博物館の副次的機能論の構築」研究代表者(2013～2015年度)
- ・科学研究費補助金(基盤 B)「日本の博物館総合調査研究」研究分担者(2013～2015年度)

芦谷美奈子

- ・科学研究費補助金(基盤 S)「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者(2012～2016年度)
- ・科学研究費補助金(基盤 C)「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」研究分担者(2013～2017年度)

金尾滋史

- ・農林水産省委託プロジェクト 気候変動に対応した循環型食糧生産等の確立のための技術開発研究費「暖帯平野景観本州における代表種選定と生息条件に及ぼす農法の影響解明」研究分担者(2013年度)

<研究調査業務受託>

- ・水産庁内水面漁業振興対策事業(外来魚抑制管理技術高度化事業)(2012～2014年度)
- ・環境省環境研究総合推進費 外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発(2011～2013年度)
- ・農林水産省平成25年度委託プロジェクト研究 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発(2010～2016年度)

## (6) 研究員の受け入れ

- ・朱 偉 2012年10月1日～2013年9月30日, 2013年12月1日～2014年11月30日  
テーマ:細胞群集化現象に基づく*Microcystis*の表層集積メカニズム
- ・北村美香 2013年1月13日～2014年1月12日, 2014年1月15日～2015年1月14日  
テーマ:博物館における「モノ資料」と「情報」の関連性について
- ・柏尾珠紀 2013年2月20日～2014年2月19日  
テーマ:琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会的考察
- ・舟尾俊範 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:水田利用魚類の繁殖適地について
- ・鈴木隆仁 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:琵琶湖、水田およびその周辺地域における淡水腹毛動物の調査
- ・天野一葉 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・黒岩啓子 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:博物館におけるコミュニケーションと学びについて:モノ、情報、人との相互関係に関する研究
- ・林 博通 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:琵琶湖湖底遺跡の研究/大津京構造の研究
- ・植田文雄 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究-考古資料と民俗資料をもちいて
- ・辻川智代 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・中野聰志 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ:滋賀県琵琶湖周辺花崗岩類・国内外関連花崗岩類及びそれらに伴う鉱物類の地質学のおよび教

## 育学的研究

- ・中野正俊 2013年4月1日～2014年3月31日  
テーマ：児童の科学的な思考力や表現力を育む理科・環境学習
- ・太田悠造 2014年3月14日～2015年3月13日  
テーマ：寄生性ワラジムシ類の分類学的研究と生態解明
- ・布谷知夫 2009年4月1日～2014年3月31日  
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2010年4月1日～2015年3月31日  
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2010年4月1日～2015年3月31日  
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・前畑政善 2011年4月1日～2016年3月31日  
テーマ：水田魚類の研究

## 研究発信

### (1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/research/>) に掲載した。

#### <原著論文>

- 薄井重雄・高橋啓一・阿部勇治・松本みどり (2014) 冠状縫合を使った鮮新統一更新統産の三突の角を持つシカの分類について. *化石*, 95 : 7-17.
- 高橋啓一・平山 廉 (2014) 口之津層群加津佐層 (前期更新世) より発見されたシカ頭骨化石. *化石研究会誌*, 46(2) : 111-116.
- 高橋啓一・北川博道・伊佐治慎司・加藤久佳 (2014) 千葉県木更津市管生産ナウマンゾウ化石. *千葉中央博物館自然誌研究報告*, 13(1) : 63-69.
- 高橋啓一・薄井重雄・落合啓二 (2014) ニホンジカ冠状縫合の性差と個体成長—シカ化石の分類のための基礎研究—, *千葉中央博物館自然誌研究報告*, 13(1) : 1-27.
- 楊 平 (2013) 環境社会学的研究領域から環境教育を考える. *Journal of Hohai University Philosophy and Social Sciences*, 15 : 21-23.
- 八尋克郎・林 成多 (2014) 滋賀県犬上郡多賀町の古琵琶湖層群から産出したネクイハムシ属の化石. *さやばね ニューシリーズ*, 13 : 35-39.
- Yahiro, K. (2014) Comparative morphology of the alimentary canal and reproductive organs of the terrestrial Caraboidea (Coleoptera : Adepaga) Part 3. *Esakia*, 54 : 51-89.
- Matzke-Karasch, R., Neil, J. V., Smith, R. J., Godthelp, H., Archer, M., Hand, S. J. (2013) Ostracods (Crustacea) with soft part preservation from Miocene cave deposits of the Riversleigh World Heritage Area, NW Queensland, Australia. *Journal of Systematic Palaeontology*, 11(7) : 789-819.
- 亀甲武志・根元守仁・伴 修平・三枝 仁・澤田宣雄・石崎大介・中橋富久・寺本憲之・藤岡康弘 (2013) 稲作水田におけるゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri* 仔稚魚の育成. *水産増殖*, 61(1) : 19-26.
- Higaki, S., Koyama, Y., Shimada, M., Ono, Y., Tooyama, I., Fujioka, Y., Sakai, N., Ikeuchi, T., Takada, T. (2013) Response to fish specific reproductive hormones and endocrine disrupting chemicals of

a Sertoli cell line expressing endogenous receptors from an endemic cyprinid *Gnathopogon caeruleus*. *General and Comparative Endocrinology*, 191 : 65-73.

- 亀甲武志・根本守仁・伴 修平・三枝 仁・澤田宣雄・石崎大介・中橋富久・寺本憲之・藤岡康弘 (2013) 稲作水田におけるホンモロコ *Gnathopogon caeruleus* 仔稚魚の育成. *水産増殖*, 61(3) : 303-309.
- 桑原雅之 (2013) ビワマス：その利用と保全. *魚類学雑誌*, 60(1) : 63-67.
- Amano, Y., Kuwahara, M., Takahashi, T., Shirai, K., Yamane, K., Amakawa, H., Otake, T. (2013) Otolith elemental and Sr isotopic composition as a natal tag for Biwa salmon *Oncorhynchus masou* subsp. in Lake Biwa, Japan. *Aquatic Biology*, 19 : 85-95.
- 菅原和宏・井出充彦・酒井明久・鈴木隆夫・久米宏人・亀甲武志・西森克浩・関 慎介 (2014) 琵琶湖における届出制によるビワマス引縄釣遊漁の現状把握. *日本水産学会誌*, 80(1) : 45-52.
- 用田政晴 (2013) 琵琶湖南部首長墓の規格性—四〇歩と五〇歩の古墳—. *淡海文化財論叢*, 5 : 26-30.
- 上瀧七美・大塚泰介 (2013) 水田のナゴヤダルマガエル幼生は中干しまでにカエルになれるか?. *地域自然史と保全*, 35(1) : 45-52.
- 廣田昌昭・木原靖郎・有田重彦・大塚泰介 (2013) 湖山池 (鳥取県) の付着珪藻相. *Diatom*, 29 : 24-41.
- 大塚泰介・中村優介・向井康夫・岩渕成紀 (2013) 東北地方太平洋沖地震による津波と地盤沈下で海水化した水田の珪藻. *Diatom*, 29 : 42-47.
- 芝崎美世子・大塚泰介・三田村宗樹 (2013) 大阪府安威川の付着珪藻植生と河川環境との関係. *Diatom*, 29 : 48-53.
- Sinohara, K., Maruyama, A., Rusuwa, B., Ohtsuka, T. (2014) Taxonomic revision of three diatoms found in Lake Malawi : *Afrocybella brunii* (Fricke) comb. nov., *Afrocybella rossii* (Kociolek & Stoermer) comb. nov., and *Aulacoseira euareolata* (O. Müller) comb. nov. et nom. nov. *Phycological Research*, 62 : 9-15.
- 戸田 孝 (2014) 琵琶湖環流の研究史. *陸水学雑誌*, 75(1) : 35-48.
- <専門分野の著述>
- 高橋啓一 (2013) 日本のゾウ化石、その起源と移り変わり. *豊橋市自然史博物館研報*, 23 : 65-73.
- 添田雄二・高橋啓一・小田寛貴 (2013) 北広島市音江別川流域から産出した象類臼歯化石の <sup>14</sup>C 年代測定結果. *北方地域の人と環境の関係史 2010-12 年度調査報告* : 5-10.
- Takahashi, K. (2014) Fossils from Lake Biwa. *Lake Biwa Guidebook* : 30-31.
- 中口 譲・益田晴恵・中条武司・山中康平・里口保文・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班・滋賀県立琵琶湖博物館みずはしかけ (2013) 淀川水系における化学成分の広域分布に関する調査報告. *大阪市立自然史博物館研究報告*, 67 : 45-81.
- Satoguchi, Y. (2014) Geological history. *Lake Biwa Guidebook* : 28-29.
- 楊 平 (2014) 水辺生活にみる慣習的共生システムの形成と湖保全の持続可能性. *湖の現状と未来可能性 RIHN-CHINA Study Series*, 3 : 27-39.
- Yang, P. (2014) Water and the culture of everyday life. *Lake Biwa Guidebook* : 76-77.
- 林 竜馬・高原 光 (2014) 東アジアの花粉記録に残された千年スケールでの植生変動の証拠. *号外地球*, 63 : 74-80.
- 大久保実香 (2013) 限界集落とローカルコモンズ 管理主体の一員としての他出者の役割. *森林環境 2013 地域資源の活かし方 人・自然・ローカルコモンズ* : 53-64.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2314 (Case 3546). *Praeradiolites* Douvillé, 1903 (Bivalvia, RADIOLITIDAE) : designation of *Sphaerulites ponsiana* d'Archiac, 1837 as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(1) : 54-56 (そ

の一部) .

- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2315 (Case 3351). *Chelodina rugosa* Ogilby, 1890 (currently *Macrochelodina rugosa*; Reptilia, Testudines) : precedence not granted over *Chelodina oblonga* Gray, 1841. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(1) : 57-60 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2316 (Case 3463). *Testudo gigantea* Schweigger, 1812 (currently *Geochelone (Aldabrachelys) gigantea*; Reptilia, Testudines) : usage of the specific name conserved by maintenance of a designated neotype, and suppression of *Testudo dussumieri* Gray, 1831 (currently *Dipsochelys dussumieri*). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(1) : 61-65 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2317 (Case 3540). AMPHIPORIDAE Rukhin, 1938 (Porifera, Stromatoporida, Amphiporida) : emended to AMPHIPORAIDAE to remove homonymy with AMPHIPORIDAE McIntosh, 1874 (Nemertea, Hoplonemertea). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(2) : 122-124 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2320 (Case 3536). *Stegosaurus* Marsh, 1877 (Dinosauria, Ornithischia) : type species replaced with *Stegosaurus stenops* Marsh, 1887. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(2) : 129-130 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2323 (Case 3386). *Pseudocoenia* d'Orbigny, 1850 (Coelenterata, Scleractinia) : proposed conservation of usage by the designation of a lectotype of the type species not approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(3) : 207-209 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2321 (Case 3527). *Anguis jamaicensis* Shaw, 1802 (currently *Typhlops jamaicensis*; Reptilia, Serpentes) : specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(3) : 212-213 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2324 (Case 3494). *Haliplanella* Hand, 1956 (Anthozoa, Actiniaria) : conserved by suppression of *Haliplanella* Treadwell, 1943 (Polychaeta). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(4) : 271-273 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2326 (Case 3541). METINAE Simon, 1894 (Arachnida, Araneae, TETRAGNATHIDAE) : spelling emended to METAINAE to remove homonymy with METIDAE Boeck, 1872 (Crustacea, Copepoda). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(4) : 276-278 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) OPINION 2327 (Case 3570). *Curculio scirpi* Fabricius, 1792 (currently *Notaris scirpi*; Insecta, Coleoptera, CURCULIONIODEA, ERIRHINIDAE) : precedence given over *Curculio rhamni* Herbst, 1784 and *C. scirpi* Rossi, 1790. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(4) : 279-281 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (Grygier, M. J.) OPINION 2331 (Case 3472). *Cetiosaurus* Owen, 1841 (Dinosauria, Sauropoda) : usage conserved by designation of *Cetiosaurus oxoniensis* Phillips, 1871 as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(1) : 48-50 (その一部) .
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) (Grygier, M. J.) OPINION 2333 (Case 3548). *Mémoires pour servir à l'histoire des insectes* by De Geer (1752-1778) and the additional volume by Retzius (1783) : ruled to be binominal and available. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71(1) : 53-59 (その一部) .



- International Commission on Zoological Nomenclature (ICZN) [Grygier, M. J. を含む 26 名] (2014) Zoological nomenclature and electronic publication—a reply to Dubois *et al.* (2013), *Zootaxa*, 3779(1) : 3-5.
- 八尋克郎 (2013) オサムシ科甲虫の絵解き検索による見分け方. *絵解きで調べる昆虫～環境アセスメント動物調査手法講演会 絵解き検索シリーズ総集編～* : 205-225.
- 八尋克郎・堀 繁久・石井 実・石谷正宇 (2013) 「あきつ賞」受賞サイト (14) ウェブサイト「日本産環境指標ゴミムシ類データベース里山のゴミムシ」の紹介. *昆虫 (ニューシリーズ)*, 16(3) : 168-171.
- 八尋克郎 (2013) 滋賀県新記録のニセトックリゴミムシ. *Came 虫*, 172 : 15.
- Yahiro, K. (2013) La libellule et le scarabée kabuto (トンボとカブトムシ). *Japon, la passion des insectes (虫愛でる国、日本)* : 14-15.
- Yahiro, K. (2013) Les lucioles (ホタル). *Japon, la passion des insectes (虫愛でる国、日本)* : 22-23.
- Yahiro, K. (2013) Les cigales (セミ). *Japon, la passion des insectes (虫愛でる国、日本)* : 26-27.
- Yahiro, K. (2013) L'insecte à laque (ラック虫). *Japon, la passion des insectes (虫愛でる国、日本)* : 34-35.
- Yahiro, K. (2013) Les grillons (コオロギ類). *Japon, la passion des insectes (虫愛でる国、日本)* : 38-39.
- 八尋克郎 (2014) カワウの巣に棲む昆虫類. *昆虫と自然*, 49(4) : 4-8.
- 八尋克郎・武田 滋・高石清治 (2014) 草津市の昆虫. *草津市の自然* : 88.
- Yahiro, K., Inoue, E. (2014) Insects. *Lake Biwa Guidebook* : 54-55.
- 松田征也 (2013) ハリヨ生息域外保全モデル事業実施報告. *平成 24 年度絶滅のおそれのある野生動植物の生息域外保全方策検討業務報告* : 90-99.
- 松田征也 (2013) イチモンジタナゴ生息域外保全モデル事業実施報告. *平成 24 年度絶滅のおそれのある野生動植物の生息域外保全方策検討業務報告* : 100-114.
- 藤岡康弘 (2013) 琵琶湖固有 (亜) 種ホンモロコおよびニゴロブナ・ゲンゴロウブナ激減の現状と回復への課題. *魚類学雑誌*, 60(1) : 57-63.
- Kameda, K., Tsuboi, J. (2013) Cormorants in Japan: Population development, conflicts and management. *EU Cormorant Platform*. [http://ee.europa.eu/environment/nature/cormorants/home\\_en.htm](http://ee.europa.eu/environment/nature/cormorants/home_en.htm) (EU CorMan project (EU カワウ個体群の持続的保護管理プロジェクト)).
- 亀田佳代子 (2014) ヨーロッパにおけるカワウの保護管理. *環境省「平成 25 年度カワウの保護管理に関するレポート」* : 8-9.
- 川那部浩哉・亀田佳代子 (2014) 物質輸送の生態学と室田武さん (随筆). *経済学論叢*, 65(3), 同志社大学 : 565-598.
- Kameda, K. (2014) Oriental Turtle Dove Kijibato (Jpn) *Streptopelia orientalis*. Ueta, M. ed [Kurosahwa R. translation] *Bird Research English Guide to Birds of Japan : featuring the rare and endemic birds of Japan and East Asia*, Japan Bird Research Association, [http://www.bird-research.jp/1\\_shiryo/seitai/kijibato.pdf](http://www.bird-research.jp/1_shiryo/seitai/kijibato.pdf)
- Kameda, K., Sugawa, H., Hashimoto, H. (2014) Birds. *Lake Biwa Guidebook* : 50-51.
- Nakai, K. (2014) Ancient lakes. *Lake Biwa Guidebook* : 36.
- Nakai, K. (2014) Invasive alien species. *Lake Biwa Guidebook* : 56-57.
- Yoda, M. (2014) The history of transport of the lake. *Lake Biwa Guidebook* : 72-73.
- 大塚泰介 (2013) ニゴロブナ仔稚魚を育む水田で何が起こったか. *海洋と生物*, 35(3) : 215-221.
- 中藤容子 (2013) なぜ、ゆめおーれで「地機」なのか? 発見! わが家の「はた織り」さんー白山周辺の「地機」とその地域性ー. *はたやブックレット*, 2 : 4-10.

- 中藤容子・東村純子・坂本育男・辻川智代ほか (2013) 激論!!地機研究の最前線. 発見!わが家の「はた織り」さんー白山周辺の「地機」とその地域性ー. はたやブックレット, 2: 70-90.
- 蜂屋正雄 (2014) 豊かな教育の広がり (36) 湖と人間の共存関係をさぐる. 初等教育資料, 911: 72-73.
- 蜂屋正雄 (2014) 琵琶湖博物館の天文分野の可能性. 天文教育, 127: 22-23.
- 蜂屋正雄 (2014) 環境学習におけることばの力〜外来魚は悪者か〜. さざなみ国語教室, 383: 4.
- 蜂屋正雄 (2014) 博物館での感想文. さざなみ国語教室, 379: 4.
- 金尾滋史・大塚泰介 (2013) 「魚のゆりかごとしての水田ー湖国・滋賀からの発信ー」特集によせて. 海洋と生物, 35(3): 195-196.
- 金尾滋史・大塚泰介 (2013) どうすれば魚は田んぼで繁殖できるか?. 海洋と生物, 35(3): 202-207.
- 金尾滋史・大塚泰介 (2014) 湖国・滋賀における水田生態系研究の現在、過去、未来. 海洋と生物, 35(4): 426-432.
- 金尾滋史 (2014) 滋賀県東部のため池におけるオグラヌマガイの発見とその経緯. ちりぼたん, 42(1-4): 57-62.
- 金尾滋史 (2014) 観賞魚店における日本産淡水魚類の販売現状と課題. 見えない脅威“国内外来魚”どう守る地域の生物多様性: 169-178.
- Kanao, S. (2014) Fish of Lake Biwa. *Lake Biwa Guidebook*: 48-49.

## (2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。この研究成果発信の一環として2008年度から3年にわたって開催した、「新琵琶湖学入門セミナー」「新琵琶湖学専門セミナー」「新琵琶湖学創造セミナー」が好評を得たため、2011年度からも引き続き、同形式の「新琵琶湖学セミナー」を開催することになった。

2013年度は、企画展示と連動して、「湖国、世界から学ぶ生物多様性」をテーマに掲げ、「生物多様性」の意味・役割や、なぜ大切なのかを、湖国、世界の視点から、当館学芸員を中心に県内外の研究機関等の協力得て紹介した。各回ともに多くの参加者があり、延べ146名の参加者があった。

開講日：2013年9月8日・10月6日・11月3日の日曜日（計3日間）

開講時間：13:30～16:00 1日2講演

会場：琵琶湖博物館セミナー室

第1回 9月8日（日） 参加者65名

「多様性に支えられた琵琶湖の魚たち」

藤岡康弘(琵琶湖博物館 上席総括研究員)

「琵琶湖湖辺域の植物の多様性について」

金子有子(琵琶湖環境科学研究センター 専門研究員)

総合質疑

第2回 10月6日（日） 参加者40名

「昆虫の進化と多様性」

榊永一宏(琵琶湖博物館 専門学芸員)

「半自然草原ってどんな場所? : その成り立ちと保全を考える」

横川昌史(大阪市立自然史博物館 学芸員)

総合質疑

第3回 11月3日（日） 参加者41名

「自然に学ぶーフクロウに学び、カワセミに近づいた500系新幹線ー」

仲津英治(「地球に謙虚に運動」代表/NPO法人エコネット近畿理事長)

「アジアモンスーン圏における米・魚・豆の伝統的組み合わせと多様性」

堀越昌子(京都華頂大学教授/滋賀の食事文化研究会副会長)

パネルディスカッション「生きもののめぐみ、今・むかし」 進行：中井克樹(琵琶湖博物館 専門学芸員)

### (3) 研究セミナー・特別研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15~15:15 に以下の研究セミナーを開催した。(場所：琵琶湖博物館会議室)

第1回 2013年4月19日(金) 参加者38名

マーク ジョセフ グライガー タマカイエビのノープリウス幼生の走査型電子顕微鏡による観察および  
アジアカブトエビの大津市内分布状況

澤邊久美子 博物館の交流機能の整理から見えるもの

林 竜馬 琵琶湖堆積物の花粉分析による定量的植性復元手法の検討

第2回 2013年5月17日(金) 参加者32名

ロビン ジェームス スミス 日本の淡水カイミジンコ(甲殻類)の多様性と分布について

金尾滋史 観察会を活用した希少生物保全のための調査とモニタリング

大久保実香 栽培植物と人間

第3回 2013年6月21日(金) 参加者29名

芳賀裕樹 終わりののはじまりか?2012年の南湖の水草の急減

用田政晴 琵琶湖水系における湧水環境保存に向けた考古民俗学的アプローチ

桑原雅之 ビワマスはいったい何を食いたいのだろうか?!

第4回 2013年7月19日(金) 参加者15名

戸田 孝 博物館教員OBの役割~特別研究セミナーの結果からの考察~

芦谷美奈子 イバラモ *Najas marina* の生活史と多様性 その1 イバラモの性比と成長特性

北村美香 利用者が活用しやすい展示を目指して

第5回 2013年8月16日(金) 参加者27名

高橋啓一 日本のシカ化石と滋賀のシカ化石

中藤容子 地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像(1)

楊 平 資源利用をめぐる暮らしと景観

第6回 2013年9月20日(金) 参加者28名

松田征也 希少淡水魚の野生復帰について(ハリヨ・イチモンジタナゴ)

里口保文 蒲生沼沢地から河川の時代の堆積環境についての考察

蜂屋正雄 琵琶湖博物館と学校の現状・ニーズ・展望~博物館で鍛える国語の力~

第7回 2013年10月18日(金) 参加者25名

楠岡 泰 マミズクラゲの不思議II

八尋克郎・林 成多 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石

水谷 智 農業排水路泥だめの生物調査について

第8回 2013年11月15日(金) 参加者30名

山川千代美・増尾はづき・松本みどり・矢部 淳・三宅 尚

鮮新-更新統古琵琶湖層群産トガサワラ属球果化石の分類学的研究

亀田佳代子 カワウによる樹木衰退への伝統的糞採取の効果

舟尾俊範 水田地帯の水路における魚類の成長と移動

第9回 2013年12月20日(金) 参加者23名

大塚泰介・石角江里佳・石井千津・里口保文

琵琶湖周辺の固有種スズキケイソウに関するいくつかの新知見

菅原和宏 淡水魚のスレ症に対する塩水浴の治療効果  
鈴木隆仁 水田のイタチムシの多様性と起源

第10回 2014年1月17日(金) 参加者31名

林 博通 大津宮造営基準軸の検討  
中井克樹 生物多様性：企画展を終え、リニューアルに向けて  
榊永一宏 海外博物館の調査から考えた大人が楽しめる展示室

第11回 2014年2月21日(金) 参加者26名

草加伸吾 モンゴルの森林再生と七不思議  
藤橋和弘 セタシジミに関連したプログラム開発における成果と展望  
安福俊幸 木質バイオマスの現状について

第12回 2014年3月14日(金) 参加者20名

橋本道範 十五世紀における魚類の首都消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—  
中野聰志 滋賀の花崗岩を叩いてきて  
太田悠造 クワガタムシにそっくりな甲殻類 ウミクワガタの研究紹介

なお、2013年度の特別研究セミナーは開催しなかった。

## 研究交流

### (1) 国際協定

琵琶湖博物館では研究や事業をさらに発展させるために、次のような海外の博物館や研究所との連携を行っています。2013年度は、滋賀県と湖南省との友好提携30周年を契機に、湖南省博物館と相互協力を結ぶことになり、11月19日に『琵琶湖博物館と湖南省博物館の相互協力に関する覚書』を締結した。内容としては、

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、特別展等に関する交流
- ③技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本の交換
- ⑤博物館間で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

が掲げられている。特に、来年度開催される企画展示への内容に関する助言を受けた。



湖南省博物館の陳建名館長（左）と篠原館長。  
琵琶湖上で開催された滋賀県と湖南省との友好  
提携30周年式典会場で行われた調印式の様子

### (2) 海外活動

#### 1) 研究に関する国際用務

用田政晴

2013年6月23日～30日、中国江蘇省南京市・無錫市・蘇州市ほか、研究打合せ・現地調査

2013年8月31日～9月4日、中国陝西省西安市ほか、博物館・現地調査

里口保文

2013年5月25日～6月1日、フランス・バルスロネット／ラ・ジャルジャット、国際研究会参加および現地調査

草加伸吾

2013年7月2日～7月24日、モンゴル国フブスグル湖流域、ハトガル、ボルナイ、ヘクツアルの山火事跡地、森林地域に科研で森林再生促進のため野外調査出張

榎永一宏

2013年11月30日～12月13日、オーストラリア、香港、海外先進地施設調査

2014年2月26日～3月26日、ベネズエラ、ウルグアイ、アルゼンチン、ペルー、エクアドル、キュラソー、野外調査

楊 平

2013年5月25日～6月1日、中国瀋陽市・北京市、資料収集・現地調査

2013年6月23日～30日、中国江蘇省南京市・無錫市・蘇州市、博物館・現地調査

2013年10月5日～15日、中国江蘇省蘇州市・無錫市ほか、資料収集・現地調査

2013年11月21日～11月23日、中国遼寧省瀋陽市、資料収集・現地調査

2014年1月23日～2月4日、中国江蘇省太湖周辺・南京市・無錫市・北京市ほか、現地調査

2014年2月22日～2月27日、中国江蘇省太湖周辺・無錫市周辺、現地調査

楠岡 泰

2013年9月21日～29日、ミャンマー連邦共和国ヤンゴン・バガン、国際会議発表参加

中井克樹

2013年9月8日～14日、アメリカ合衆国アーカンソー州リトルロック市、国際学会発表参加

2014年1月26日～30日、タイ王国バンコク都・パトゥムタニ県・アユタヤ県、研究交流・情報収集

2014年2月20日～26日、中華民国台北市・基隆市ほか、研究交流・情報収集

澤邊久美子

2013年8月17日～25日、イギリス・ロンドン、国際学会発表参加

## 2) 事業に関する国際用務

用田政晴

2013年7月15日～7月21日、中国湖南省長沙市・岳陽市・常德市等洞庭湖周辺、滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業

桑原雅之

2013年7月15日～7月21日、中国湖南省長沙市・岳陽市・常德市等洞庭湖周辺、滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業

楊 平

2013年7月15日～7月21日、中国湖南省長沙市・岳陽市・常德市等洞庭湖周辺、滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業

2014年3月9日～3月17日、中国湖南省長沙市、企画展示プレ展示・現地資料調査・打合せ

林 竜馬

2013年7月15日～7月21日、中国湖南省長沙市・岳陽市・常德市等洞庭湖周辺、滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業

藤岡康弘

2014年3月9日～3月17日、中国湖南省長沙市、企画展示プレ展示・現地資料調査・打合せ

### (3) 試験研究機関の連絡活動

琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議は、県立の9つの試験研究機関が、相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として設置運営している。

平成25年度は、10月29日にコラボしが21において「平成25年度 滋賀県試験研究機関研究発表会 淡海の環境に関する試験研究の取組2013～研究成果の最前線を探る～」を開催した。

### 3 新たな参加と発見ができる博物館

#### 展示活動

##### (1) 常設展示の主な更新

##### 1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関する事柄で、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流も行っている（不定期）。

「古琵琶湖初期にいた生き物の化石」

展示：奥山茂美さん

期間：2012年10月19日（金）～2013年7月13日

「米原高校地学部！」

展示：滋賀県立米原高等学校 地学部

期間：2013年7月14日～2014年4月3日

##### 2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2013年度の展示は次の通り。

期 間	展示資料名
2013年6月25日（火）～8月4日（日）	和名類聚抄 巻一
	淡海志 巻十
	和漢三才図会 巻三
	洪水志
2013年8月6日（火）～9月8日（日） 企画展示関連展示 「古文書でさがそう！琵琶湖にゆかりの生き物たち」	大和本草 巻十四
	和漢三才図会 巻三十八
	琵琶湖棲息川魚図
	日本山海名物図会 巻五
2013年9月10日（火）～10月6日（日）	淡海志 巻八
	広重近江八景 八枚揃（中判） 石山秋月
	明治新刻 近江三十八景
	伊勢参宮名所図会 巻一
2013年10月8日（火）～11月17日（日）	和名類聚抄 巻七
	新刊人国記 巻上之二
	滋賀県管内 近江国新地図
	近江商人事績写真帖 上巻
2013年11月19日（火）～12月23日（月・祝）	大和本草 巻六
	和漢三才図会 巻七十一
	日本山海名物図会 巻四
	滋賀県管内全図

期 間	展示資料名
2014年1月3日（金）～2月2日（日）	令義解 巻一
	日本山海名物図会 巻三
	源平盛衰記 巻十四
	淡海録 巻十一
2014年2月4日（火）～3月9日（日） 「重要文化財を読んでみよう」	重文 證玄最勝光院公文職請文
	重文 遠江国守護今川了俊書下
	重文 西大路隆仲巻数返事
2014年3月11日（火）～4月13日（日）	日本書紀 巻一
	和名類聚抄 巻十三
	野洲郡第八区幸津川村全図
	和漢三才図会 巻三十二

### 3) C 展示室

- ・琵琶湖の変化 展示新設 「季節の漁」 解説パネルを設置
- ・私たちの環境（「琵琶湖を守るための1万人の誓い」タイムカプセル） 展示撤去  
8月31日（土）のマザーレイクフォーラムびわコミ会議で開封するため
- ・農村のくらしと自然（昭和39年の富江家） 耐震工事  
12月10日（火）～1月24日（金）

### 4) 水族展示室

- ・よみがえれ！日本の淡水魚 展示更新  
「アオバラヨシノボリとタナゴモドキ」を「オヤニラミ」に変更
- ・世界の湖の魚たち（中国小水槽） 展示更新  
「ケツギョ」から「ダントウボウ、サンカクボウ」に変更

### 5) ディスカバリールーム

例年通り季節に合わせた展示物の入れ替えを行い、季節行事も随時展示替えを行った。生き物の展示では、昨年度から継続して展示されていたマミズクラゲが、2012年8月2日～2014年1月17日まで533日の国内最長展示記録を残し一旦終了した。大学生が作ったディスカバリーボックスでは、大学生にお手紙を書こうと呼びかけアンケートを行ったところ、61名の回答があり今後の参考となる情報を得ることができた。またイベントでは、毎年恒例のイベントに加え、「ザ!ディスカバはしかけ」の新しい試みとして、読み聞かせイベントも実施された。ザ!ディスカバはしかけなどと連携し、今後イベントや展示などの活動の幅を広げていく。

展示場所	展示内容	展示期間
音のへや	アフリカの楽器	2013年4月1日～2013年6月13日
	日本の楽器	2013年6月14日～2013年8月4日
	南米の楽器	2013年8月6日～2014年3月31日
おばあちゃんの台所	春 version	2013年4月1日～2013年6月8日
	こどもの日	2013年4月17日～2013年5月5日
	夏 version①	2013年6月11日～2013年7月14日
	七夕	2013年6月16日～2013年7月7日



展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	夏 version②	2013年7月15日～2013年9月1日
	秋 version	2013年9月7日～2013年11月1日
	お月見	2013年9月15日～2013年9月30日
	冬 version	2013年11月2日～2014年2月18日
	お正月	2014年1月3日～2014年1月14日
	節分	2014年1月25日～2014年2月2日
	ひな祭り	2014年2月19日～2014年3月2日
	春 version	2014年3月4日～2014年3月31日
ブックコーナー	春 version	2013年4月1日～2013年7月16日
	夏 version	2013年7月17日～2013年9月7日
	秋 version	2013年9月8日～2013年11月13日
	冬 version	2013年11月14日～2014年3月19日
	春 version	2014年3月20日～2014年3月31日
石の下／水の中	春 version	2013年4月1日～2013年8月2日
	夏 version	2013年8月3日～2013年8月27日
	秋 version	2013年8月28日～2013年11月28日
	冬 version	2013年11月29日～2014年3月26日
	春 version	2014年3月27日～2014年3月31日
人形劇	春 version	2013年4月1日～2013年6月1日
	夏 version	2013年6月2日～2013年8月31日
	秋 version	2013年9月1日～2013年11月5日
	冬 version	2013年11月6日～2014年3月31日
ディスカバリーカウンター (生きものの展示)	ナマズ	2013年4月1日～2014年3月31日
	ノコギリクワガタ	2013年4月1日～2013年10月13日
	コクワガタ	2013年4月1日～2013年6月8日
	アカハライモリ	2013年4月1日～2014年3月31日
	カイコ	2013年5月31日～2013年8月18日
	シュレーゲルアオガエル(成体)	2013年4月1日～2013年4月19日
	ノコギリクワガタ	2013年7月19日～2013年10月7日
	ヒラタクワガタ	2013年4月1日～2013年6月25日
	コクワガタ	2013年6月2日～2014年3月31日
	アカアシクワガタ	2013年6月2日～2013年11月15日
	マミズクラゲ	2013年4月1日～2014年1月17日
	カスミサンショウウオ(成体)	2014年3月11日～2014年3月31日

## 6) その他

・アールブリュット

展示替え

9月30日(月)に旧作品を撤去し、10月22日(火)より新作品を展示した

## (2) 企画展示・水族企画展示

### 1) 第21回琵琶湖博物館企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」

#### ① 主旨

生物多様性とはどのようなものなのか、それがどのように役立ちなぜ大切なのか、それを脅かす要因としてはどのようなものがあるか、それを守っていくために何をすべきか、またどのような取り組みが行われているかなどを紹介した。またそのことによって、生物多様性を身近なものとして観覧者にわかりやすく伝え、私たちが地域在来の生物多様性を「自然の遺産」として守り、それとともに育まれてきた生活文化の多様性を尊重することの大切さについて、理解を深めてもらうための材料を提供することを目的とした。

#### ② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：2013年7月20日（土）～11月24日（日）

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観 覧 料：小・中学生 100円（80円）高・大学生 160円（120円）一般 200円（160円）

（（ ）内は20名以上の団体料金）

観覧者数：67,347人

展示製作：主担当 中井克樹

副担当 松田征也・藤岡康弘・澤邊久美子

パネルデザイン 出口武洋・谷川真紀

展示施工：株式会社 本庄

ビデオ制作：エアロビデオ

展示協力：阿部勇治・石田未基・石川加奈子・石角江里佳・一瀬 愉・井上欣勇・今道 力・大迫義人・大浜秀規・大村 仁・長田 啓・河瀬直幹・木村 悟・小林圭介・相樂充紀・佐久間大輔・佐藤青矢・高石清治・高田良二・高橋一孝・高柳 敦・武田 滋・太々野 功・辻村耕司・寺本憲之・仲津英治・中津 弘・中坊徹次・西野麻知子・新田周子・布村 昇・花田美佐子・林 和典・藤本秀弘・前畑政善・松岡敬二・南 尊演・宮武頼夫・村瀬忠義 山本雅則・吉田 真・渡邊潤子・渡辺弘之・愛媛県立とべ動物園・大津市鳥獣害対策室・京都市動物園・大阪市立天王寺動植物公園事務所・環境省佐渡自然保護官事務所・きしわだ自然資料館・京都大学総合博物館・交通科学博物館・三田市有馬富士自然学習センター・田沢湖郷土史料館・豊岡市立コウノトリ文化館・新潟大学朱鷺 自然再生学研究センター・西宮市貝類館・姫路科学館・兵庫県立コウノトリの郷公園・兵庫県立人と自然の博物館・和歌山大学教育学部・よこはま動物園ズーラシア・和歌山県立自然博物館・山梨県水産技術センター・浅野運輸倉庫株式会社・イオンモール草津・宇宙航空研究開発機構・ウッディパル余呉・小原かごを復活させる会・オムロン株式会社野洲事業所・キタイ設計株式会社・京セラ株式会社 滋賀蒲生八日市工場・株式会社きんでん滋賀支店・草津電機株式会社・株式会社クボタ・郷インテックス株式会社・湖南企業いきもの応援団・滋賀銀行南笠支店・コンサベーション インターナショナル ジャパン・滋賀県生きもの総合調査委員会・滋賀中央信用金庫南草津支店・滋賀の食事文化研究会・積水化成成品工業株式会社・公益財団法人世界自然保護基金ジャパン・積水樹脂株式会社技術研究所・中山倉庫株式会社・株式会社ダイフク滋賀事業所・西日本旅客鉄道株式会社広報部・日本観光開発株式会社・日本ガラスエレクトロニクス株式会社・パナソニック株式会社アプライアンス社・株式会社藤田・株式会社ブリヂストン彦根工場・（独）水資源機構琵琶湖開発総合管理所・株式会社ラーゴ・

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会・余呉湖漁業協同組合・  
滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課・滋賀県琵琶湖環境部森林政策課鳥獣対策室・  
東近江農業農村振興事務所農産普及課・農政水産部水産課・滋賀県水産試験場・  
滋賀県動物保護管理センター・滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県立図書館

(敬称略 順不同)

### ③ 展示内容

#### ものがたり 1 生きものたちの星・地球

- 1-1 3000 万種の生きものたち
- 1-2 40 億年の歴史を経た進化
- 1-3 進化の道筋を示す系統樹

#### ものがたり 2 生きものたちのにぎわい

##### 2-1 湖国の生きものたち

- 2-1-1 ほ乳類    2-1-2 鳥類    2-1-3 両生・爬虫類    2-1-4 魚類
- 2-1-5 昆虫類    2-1-6 貝類    2-1-7 無脊椎動物    2-1-8 寄生物
- 2-1-9 植物    2-1-10 菌類

##### 2-2 生物多様性ホットスポット

- 2-2-1 日本列島
- 2-2-2 世界 (WWF によるエコリージョン重要な 200 地域)

#### ものがたり 3 生きものたちのつながり

##### 3-1 生きものたちの多様な関係

- 3-1-1 捕食「食う－食われる」の関係
- 3-1-2 共生 共に生きる深い関係
- 3-1-3 すみ場所のつながり
- 3-1-4 自然とのつながりから外れた私たち

##### 3-2 生物多様性はなぜ大切なのか？

- 3-2-1 「生態系サービス」とは？
- 3-2-2 私たちの生活を支えてきた生物多様性
- 3-2-3 自然遺産、地域の宝ものとしての価値

#### ものがたり 4 生きものからのめぐみ

##### 4-1 地域のくらしと生物多様性

- 4-1-1 湖中産物図鑑
- 4-1-2 湖国の伝統食：地域固有の作物と調理法の多様性

##### 4-2 生きものたちのぬくもり

- 4-2-1 ゾウの絵画展
- 4-2-2 イヌとネコ、ペットとして伴侶として
- 4-2-3 ペットブームの陰で・・・消えていく命
- 4-2-4 不幸な命を減らすために
- 4-2-5 ペットは野生動物とは違う

##### 4-3 生きものをまねる＝バイオミメティクス

- 4-3-1 生きものから学ぶ
- 4-3-2 新幹線車両に応用された“自然の技”

## ものがたり 5 生きものたちにせまる危機

### 5-1 生物多様性をおびやかすもの

### 5-2 絶滅のおそれのある生きものたち

#### 5-2-1 レッドデータブック

#### 5-2-2 絶滅した生きものたち

(ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、ニホンアシカ、クニマス)

#### 5-2-3 絶滅の淵にある生きものたち

(コウノトリ、トキ、イヌワシ、ホッキョクグマ、アムールトラ、チーター、  
アフリカゾウ、タイマイ、イリエワニ)

### 5-3 ふえすぎた生きものたち

#### 5-3-1 有害鳥獣の増加 (カワウ、ニホンジカ、イノシシ)

#### 5-3-2 外来生物の蔓延 (オオクチバス、コクチバス、ブルーギル、カミツキガメ、ワニガメ)

### 5-4 自然界のバランスのくずれ

### 5-5 大量絶滅の時代?

## ものがたり 6 生きものたちを未来へ

### 6-1 生きものたちを守るための枠組み

### 6-2 生きものを守るさまざまな取り組み

## ④ 関係事業

オープニングセレモニー 7月20日

クニマスの生体展示 (担当: 藤岡康弘・松田征也・水族飼育員)

10月26日(土)～11月24日(日) 於: 水族企画展示室

## ⑤ 企画展示解説書

「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」

価格: 270円 サイズ: A4版 60ページ

発行: 2013年9月

## ⑥ 新聞記事の掲載

7月19日 朝日新聞 催し物案内

7月23日 毎日新聞 コラム「ここだけの湖の話」

7月23日 中日新聞 生物多様性知ろう

8月15日 毎日新聞 生活情報誌 オー!ミー 生物多様性を考えるテーマ展示

8月17日 中日新聞 自由研究見つけた!?

8月24日 中日新聞 コラム「湖岸より」

10月24日 中日新聞 通風筒 クニマス

10月26日 産経新聞 生物多様性テーマに琵琶湖博物館企画展

10月26日 京都新聞 幻のクニマス 生体展示

10月26日 毎日新聞 ぎよぎよ! 「クニマス」生体展示

11月16日 朝日新聞 幻の魚クニマス 西日本初@草津

## ⑦ 企画展示関連イベント

・体験プログラム 魚の解剖にチャレンジしよう

日時: 5月11日(土)、6月8日(土) 各日 13:30～15:00

- ・さわってみよう！カエデの木がカゴになる

昔、イタヤカエデという木を使ってかごを編む技術が滋賀にはありました。木がカゴになる様子を見てふれて、職人さんと村の暮らしの話をしながら暮らしの中の知恵を学びました。

場所：琵琶博物館 企画展示室内

日時：2013年10月14日（月祝）①11:00～12:00、②13:00～14:00

講師：太々野 功さん（小原かごを復活させる会）

- ・作って食べよう！滋賀の伝統料理

琵琶湖からの恵みと田畑からの恵みを組み合わせた、滋賀の伝統料理（アメノイオごはん、エビ豆など）をおくどさん（かまど）を使って作り、試食しました。

場所：琵琶博物館 生活実験工房

日時：2013年10月19日（土）10:00～14:00

講師：滋賀の食事文化研究会

- ・企画展示担当学芸員によるフロアトーク！

日時：10月12日（土）、11月8日（金）、11月13日（水） 各日11:00～11:20

場所：企画展示室内

- ・篠原館長によるフロアトーク！

日時：10月6日（日）、11月3日（日） 各日11:00～11:20

場所：企画展示室内

- ・新琵琶湖学セミナー 全3回（詳細はP.25参照）

- ・からすま半島の生きもの調査（詳細はP.42参照）



入口風景



展示室内の様子



クニマスの生体展示

## 2) 第26回水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」

### ① 主旨

ゲンゴロウやタガメなどに代表される水生昆虫は魚類と並び、水辺に生息する生き物の代表である。滋賀県内の水辺には5cmを超える大きな種から、1mmにも満たない小さな種まで、多くの水生昆虫が生息しており、それぞれの種が水辺で暮らすために興味深い体のつくりや暮らし方をしている。

今回の水族企画展示では滋賀県内における水生昆虫の多様性を紹介すると共に、水生昆虫の様々な生態や体のつくりを紹介し、来館者に水生昆虫への魅力、興味を深めてもらうことを目的として展示を行った。また、多くの水生昆虫が近年減少傾向にあるという現状を紹介し、身近な水辺環境について考えてもらう機会とした。

### ② 概要

開催期間：2013年7月13日（土）～9月1日（日）

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館 水族企画展示室

入場者数：70,063 人(電子カウンターによる)

担当者：主担当 金尾滋史

副担当 桑原雅之・菅原和宏

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

### ③ 展示内容

滋賀県内に生息する水生昆虫（主にコウチュウ目：ゲンゴロウ類など、カメムシ目：タガメ、ミズカマキリなど、トンボ目：トンボ科の幼虫など）を中心とした生体展示と当館所蔵の標本による資料展示を行った。

展示生物

(生体展示)：ゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、ハイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、コツブゲンゴロウ、ガムシ、コガムシ、ヒメガムシ、マメガムシ、ヒメミズスマシ、コガシラミズムシ、マダラコガシラミズムシ、タガメ、タイコウチ、ミズカマキリ、オオコオイムシ、マツモムシ、コミズムシ、エサキコミズムシ、ホッケミズムシ、アメンボ、ヒメアメンボ、ノシメトンボ、ハグロトンボ、オオヤマトンボなど

(標本展示)：ゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキ、オオイチモンジシマゲンゴロウ、ミズスマシ、オオミズスマシ、タガメ、コオイムシ、オオアメンボ、ハネナシアメンボ、  
など滋賀県産水生昆虫約 50 種



### ④ 協力機関・個人

敬称略

河瀬直幹、向井康夫、中西康介、舟尾俊範、田和康太、金井亮介、  
滋賀県立大学環境科学部環境動物学研究室

### (3) ギャラリー展示・トピック展示等

#### 1) ギャラリー展示

##### ① 近江の博物学者 橋本忠太郎 —植物研究にかけた情熱—

期間：2013年4月2日(火)～6月9日(日)

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

担当：草加伸吾、芦谷美奈子、山川千代美、大久保実香、松田征也、石田未基（新洲）、  
出口武洋（新洲）

展示協力：杉野由佳、瀬川也寸子、谷川真紀、津田厚弘

共催：橋本忠太郎顕彰会

後援：日野町、日野町教育委員会

内容：滋賀県日野町出身の橋本忠太郎氏（1886年－1960年）は、幼いころから植物に興味を持ち、必  
佐小学校および滋賀女子師範学校の教員をしながら、県内の植物、昆虫、鉱物を調べつづけ、

滋賀県天然記念物調査などにも関わった。1936（昭和11）年に、近江博物同好会を発足し、現在でも滋賀県の植物研究の基礎的文献として引用される『滋賀県植物誌』（1968年）の刊行に大いに貢献した、滋賀県屈指の博物学者である。本ギャラリー展では、橋本忠太郎氏の足跡を振り返りながら、3万点を超えるコレクション（琵琶湖博物館、京都大学総合博物館、大阪市立自然史博物館）の中から、滋賀県を代表する種類や橋本氏によって見つかった新種の植物標本などを多数展示した。また、ご遺族の協力のもと、遺品の中から調査に用いた地図や、様々な研究者とやりとりした書簡、関連する書籍なども展示し、橋本忠太郎氏の業績を広く知ってもらう機会とした。

協力機関：大阪市立自然史博物館、京都大学総合博物館、滋賀県植物研究会、滋賀県立日野高等学校、日野町立必佐小学校、日野町必佐公民館

関連イベント：

- 2013年4月21日（日） 談話会「村田源先生と滋賀の植物について語り合う」（琵琶湖博物館）
- 2013年5月19日（日） 春満開の綿向山登山（滋賀県蒲生郡日野町北畑）
- 2013年5月26日（日） 日野で植物観察会（滋賀県蒲生郡日野町日野川ダム周辺）



## ② 巡回展「アケボノゾウ発掘から 20 年 —新たな発見を求めて—」

期間：2013 年 12 月 21 日（土）～2014 年 2 月 2 日（日）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

共催：琵琶湖博物館、多賀町立博物館、協力：甲賀市みなくち子どもの森

担当：高橋啓一、山川千代美、里口保文、林 竜馬

内容：1993 年に多賀町四手（しで）で 1 頭分のアケボノゾウ化石が発見されてから 20 年が経過し、この場所で新たな発掘調査が進められている。この展示会では、パネル約 40 枚、大型復元画 1 点、アケボノゾウ復元模型（1/40）、アケボノゾウ骨格模型（分離）1 体分などを展示し、20 年前の発掘の様子を紹介するとともに、市民とともに探る 180 万年前の古環境調査の様子を紹介した。また、展示室内において、はしかけグループ「湖をつなぐ会」の紙芝居が行われた。あわせて、リニューアルに関する説明パネルも設置し、来場者に告知した。



展示室内ではしかけグループ「湖をつなぐ会」の紙芝居上演風景

### ③ ボーン コレクターズー骨の魅力に魅せられてー

期間：2014年3月25日（火）～2014年5月6日（火・祝）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

共催：琵琶湖博物館はしかけ「ほねほねくらぶ」、琵琶湖博物館

担当：西村有巧（ほねほねくらぶ会長）、高橋啓一

内容：琵琶湖博物館はしかけ「ほねほねくらぶ」の活動内容を紹介、その制作物を展示することで琵琶湖博物館のはしかけ活動や骨の魅力を紹介した。あわせて、琵琶湖博物館でこれまで収集し、普段一般には見ることのできない現生動物の骨格もあわせて、約250点の標本を展示した。休日には、はしかけメンバーによる実物の骨を使った交流活動も行われた。



はしかけメンバーによる  
実物の骨を使った交流活  
動のようす

## 2) トピック展示

### ① アトリウム

- ・第4回琵琶湖地域の水田生物研究会のポスター展

期間：2013年12月15日（日）～12月23日（月）

- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会参加クラブの活動壁新聞の展示

期間：2014年1月10日（金）～1月19日（日）

- ・近江はトンボの宝庫

期間：2014年1月25日（土）～5月18日（日）

内容：日本には約200種のトンボが生息しているが、滋賀県はトンボの生息地として全国でもトップクラスで、これまで99種のトンボの生息が確認されている。2013年、100種目となるトンボ「スナアカネ」が発見された。琵琶湖博物館では100種目の発見を記念して、このトピック展示「近江はトンボの宝庫」を開催した。100種目のトンボであるスナアカネの標本をはじめ、滋賀県のトンボ類全100種の標本、生態写真約30点、メガネサナエの成虫・幼虫の大型模型を展示した。

### ② B展示室

- ・天皇が記録した災害ー花園天皇の日記からー

期間：2013年4月16日（火）～6月23日（日）

内容：琵琶湖博物館が所蔵する花園天皇日記（花園院宸記）のレプリカのなかから、地震、洪水、寒波に関わる記事の部分を紹介し、釈文と解説を加えた。

展示資料：「花園院宸記」巻九 正和六年正月三日条

「花園院宸記」巻三十 正中二年十月二十一日条

「花園院宸記」巻二十八 元亨四年八月十六日条

「花園院宸記」巻十七 正応二年正月七日条

### ③ C展示室

- ・パネル展「村の至宝 湧水と井戸」



「水田が結ぶ水と人々の暮らしー中国・ラオス・カンボジアー」  
 期間：2013年12月10日（火）～2014年1月19日（日）  
 内容：富江家の耐震工事中、仮囲いの壁面を使ってパネル展示を行った。

#### ④ 水族展示

水族展示室内のふれあい体験室前に設置した小型展示水槽をつかって、生まれたばかりの稚魚や話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。

##### ・トピック展示

マミズクラゲ（ディスカバリールーム）	2012年8月2日～2014年1月17日（金）
イサザ 琵琶湖固有種	4月23日（火）～5月12日（日）
ビワオオウズムシ（オオウズムシ科） 琵琶湖固有種	5月21日（火）～6月16日（日）
絶滅危惧種「イチモンジタナゴの稚魚」	6月18日（火）～7月7日（日）
絶滅危惧種「カゼトゲタナゴの稚魚」	7月9日（火）～8月4日（日）
天然記念物「アユモドキの幼魚」	8月6日（火）～9月1日（日）
絶滅危惧種「ニッポンバラタナゴの稚魚」	9月7日（土）～9月29日（日）
琵琶湖で捕れた巨大ニホンウナギ	9月7日（土）～9月29日（日）
絶滅危惧種 「スイゲンゼニタナゴ」	10月1日（火）～12月8日（日）
産卵期を迎えたカネヒラ	10月22日（火）～11月10日（日）
よみがえった魚 クニマス	10月26日（土）～11月24日（日）
産卵期を迎えたゼニタナゴ	11月12日（火）～12月8日（日）
ビワマスの卵・稚魚	12月10日（火）～2月9日（日）
アナンデルヨコエビ 琵琶湖固有種	2月11日（火・祝）～3月9日（日）
ビワオオウズムシ 琵琶湖固有種	3月11日（火）～4月13日（日）

##### ・旬の魚たち

水族展示をささえる「ウグイ」	4月23日（火）～5月26日（日）
湖魚を美味しく食べてみよう「ニゴイ」	6月4日（火）～7月7日（日）
旬のさかなたち「ヒウオ」	12月3日（火）～2月16日（日）
旬のさかなたち「寒ブリ」	2月18日（火）～3月16日（日）

#### (4) 集う・使う・創る 新空間

2013年度は13件の利用があった。

期間	タイトル	主催者
2013年3月22日（金） ～4月14日（日）	ふるさとの川でいきいき活動する子どもたち ～ホテルの学校、10年が経ちました！～	ホテルの学校
4月16日（火）～ 5月6日（月）	橋本忠太郎先生活動フィールドの日野 「マルバの会、必佐小学校の活動」	橋本忠太郎顕彰会
5月11日（土）～ 5月30日（金）	博物館ポスターに見る最近の博物館の動向	琵琶湖博物館
6月1日（土）～ 6月23日（日）	いのちの源「水」 知っていますか？水道のこと	滋賀県企業庁
7月2日（火）～ 7月31日（水）	滋賀の多様な食材と伝統食～企画展示「生きものがたり」タイアップ展示～	滋賀の食事文化研究会
8月6日（火）～ 9月1日（日）	うみさんぽ 生物多様なジュゴンの棲む海 写真展	ジュゴン保護キャンペーンセンター（SDCC）

期間	タイトル	主催者
9月7日(土)～ 10月3日(木)	植物水彩画 一木一草展	村瀬 進(雅号 一木一草)
10月5日(土)～ 11月4日(月・祝)	生ゴミの堆肥化と循環社会のとりくみ	株式会社 日映志賀/伊香立 コンポストセンター
11月24日(日)～ 12月23日(月・祝)	冬の使者「コハクチョウと仲間たち」環境展 ～ びわ湖を美しくいつまでも残したい良い環境～	環境ボランティア 草津湖岸 コハクチョウを愛する会
2014年1月5日(日) ～1月31日(金)	天究館友の会 天体写真展	ダイニックアストロパーク天 究館友の会
2月2日(日)～ 3月2日(日)	すばらしき石橋展	森野 秀三
3月4日(火)～ 3月23日(日)	私の自宅は博物館～西川嘉廣さんとヨシ博物館～	滋賀県ミュージアム活性化推 進委員会/滋賀県立大学近江 楽座地域博物館プロジェクト
3月25日(火)～ 4月6日(日)	第38回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コン クール入賞図画作品展	J A滋賀中央会

## 展示交流

### (1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間が変更されることがある。

今年度から玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示することを行った。また、通常フロアートークとは別に、9月に実施した琵琶湖博物館イベント「あさひるばん博物館を楽しもう！」にて、アトリウムステージで学芸員がとっておきのフロアートークを開催した。

#### フロアートーク実施回数

期間	2013年4月1日～2014年3月31日
実施回数	204 件
総参加人数	2,297 件

### (2) ディスカバリールームのイベント

イベント開催日	イベント名	参加者
2013年6月7日～8月18日	みんなでカイコ絵日記を作ろう	
6月15日	紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」 (ザ!ディスカバはしかけ荒井氏共同)	約50名
6月15日～7月7日	七夕☆短冊に願いをかこう!	
7月6日	あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう! 「ほたるのおはなし&虫の工作」 (ザ!ディスカバはしかけ共同)	76名
11月26日～12月22日	大学生がつくったディスカバリーボックス(博物館実 習生によるディスカバリーBOXの公開)	アンケート集計 61枚
2014年2月8日	ディスカバおはなし会☆おおきな絵本 「100かいだてのいえ」 (ザ!ディスカバはしかけ荒井氏共同)	3名

ディスカバリー・ルームでは、展示を利用ものだけでなく、教育プログラムを通じて様々な視点から積極的に働きかけるイベントを行い、身近にある驚きや感動を発見するきっかけを提供している。今年度は、はしかけグループ“ザ！ディスカバはしかけ”さんとの共催も含め、6件のプログラムを行った。

### (3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、毎年「展示交流員と話そう」を実施している。

本事業は、展示交流員が各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行う。事業実施の際には、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力している。展示交流員は各自のテーマに沿って、さまざまな場所を利用して来館者の興味を引き出す工夫を行った。詳細は以下の通りである。

① 実施期間 2013年12月1日（日）～2014年3月31日（月）

（期間内で各自のシフトにより随時実施）

② 実施人数 展示交流員 21名

#### ③ 実施内容

展示室	氏名	実施テーマ	実施コーナー
A	住岡 瞳	足跡化石	ゾウ化石、足跡化石
B	木下 睦司	「ちはやふる」電車が走る歌留多の聖地	湖畔の都と万葉集
C	奥村 恵子	高島トレイルを歩いてみよう	空からみた琵琶湖
	木村 美枝	縄文の森 弥生の森	空からみた琵琶湖 (通路など含む)
	本田 幸子	みみずの役割	水をはぐくむ森林
	愛須 美由紀	森の力	水をはぐくむ森林
	井出 範子	森林を通る水	森・林・農地・市街地を通る水
	久保 瞳美	マイマイにかぶりつく虫	オサムシのコーナー
	芦田 弘美	昔の生活の知恵	くらしとむすびついた自然
	今泉 美保	スポット！滋賀の魚、漁、食	沖島の暮らし
水族	竹中 美里	意外と知らない？おいしい鯉	内湖・ヨシ原とトンネル水槽
	岩見 勉	コアユの展示について	コアユ水槽など
	飯田 彩子	コアユについて	コアユ水槽前
	林 克子	ビワマス	ビワマス水槽
	荒川 千尋	ビワコオオナマズってどんな魚...？	ビワコオオナマズ水槽前（他）
	斉藤 文子	ムギツクの托卵	おもしろい習性の魚
	奥村 千尋	ザリガニ	外国から来た魚たち
	杉本 和子	カイツブリとユリカモメ	水辺の鳥
	中江 美知子	カイツブリ	水辺の鳥
	前川 桂子	琵琶湖固有種の魚たち	水族展示室内
ディスカバリー ルーム	北田 昌子	アブラコウモリについて	ディスカバリーボックスコーナー付近

## 博物館連携

### (1) 滋賀県ミュージアム活性化事業

文化庁の助成事業である、平成25年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）の助成を受け、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、地域の文化財の保全とその活用を担う人材育成事業、地域のグローバル化の拠点となる博物館事業、地域に保存されている歴史・文化財・伝統習俗の映像資料のアーカイブづくり事業などの3事業を実施した。

#### 1) 地域の文化財の保全とその活用を担う人材育成事業

本事業では、閉館し、保存が危ぶまれている近江八幡市円山町に所在するヨシ博物館のコレクションを搬出し、調書の作成、クリーニング、燻蒸、搬入、調査研究、展示、地域の人たちとの交流会までの一連の博物館業務を、総計47名もの学生が参加して実施した。この結果、コレクションとはどのようなものを理解し、調査研究して、展示制作を行うことができる若い人材を育成することができた。また、交流会には47名もの方々が参加し、コレクションターのご遺族やヨシの保全を実践しているNPOの方々との交流を深めることができた。

#### 2) 水環境の保存と活用に向けた国際的博物館・大学・行政研究機関関連連携調査・資料制作および公開事業

日本の水環境を代表する琵琶湖博物館の物質文化をもとにして、東アジアの湖沼地域である洞庭湖・太湖の民俗事例や生物・水質工学など多岐にわたる課題について比較や検討を行い、日本と中国の2会場で、その形態は異なりながら、空間軸を超えた議論を行った。

中国で開催した展覧会では、1日600人から1,000人の来場者があり、4日間で約3,500人以上の来場者数となった。1,000セット用意した中国版の滋賀県、琵琶湖や琵琶湖博物館の紹介パンフレットは全て配布した。また、現地放送局の取材と湖南省博物館職員、湖南省政府の全面的な協力も得られた。

日本での研究会と講演会および現地調査には、中国人研究者5名、日本人研究者1名を招聘して3日間にわたって行い、研究会では83ページからなる検討資料集を作成して専門的な討議を行うことができた。一方、講演会には一般参加者106人、館内スタッフ25人、その他関係者18名、計149名の参画を得て盛況であった。特に、ディスカッションにおいては8名の日中研究者を中心に質疑応答があり、一般参加者の理解もさらに深まった。

#### 3) 地域に保存されている歴史・文化財・伝統習俗の映像資料アーカイブづくり事業

これまで全体像が全く不明であった、県内の伝統習俗や無形文化財についての映像資料の実態を、概略的に明らかにした。また、アナログ録画された利用困難になりつつある映像資料から、緊急性の高いものを選んでデジタル化することができた。この成果は、それ自体を県内の伝統習俗や無形文化財についての理解を深めていくために活用することが可能である。また、その過程で得た共有情報やノウハウを活用し、映像資料の実態調査の結果と合わせることによって、利用可能な映像資料を更に増やすための基礎となり得る。この他、日本でも屈指の豊かな歴史と文化財を誇る滋賀県の魅力を集約したDVDを制作した。

### (2) 滋賀県博物館協議会

開館以来、滋賀県博物館協議会（70加盟館）の事務局を担当している。主な活動として、理事会と総会の開催、広報、研修、記念事業、ガイドブック制作委員会の運営のほか、広報活動、研修・情報交換会3回、展示会やワークショップ等の活動を展開した。また、今年度7月に環びわ湖大学・地域コンソーシアムと連携協力を締結し、滋賀県博物館・美術館ガイドブック制作委員会を立ち上げ、平成25年度文化芸術振興費補

助金・地域と協働した美術館歴史博物館創造活動支援事業として、英語版ガイドブック『Discover the Museums in Shiga』の制作、公開講演として情報交換会「日本の博物館・美術館における外国人利用の現状と課題～博物館のおもてなしを考える～」、展示会「滋賀の博物館・美術館逸品展 美と歴史のおもてなし SHIGA MUSEUM TOUR」とそのワークショップを実施した。

## 4 体験と交流を促す博物館

### 一般利用者へのサービス

#### (1) 観察会・見学会等

2013年度は、博物館周辺や県内各地で行う博物館観察会等22件の事業を企画、実施した。特にリニューアルを見据えて、博物館の周辺や屋外展示、展示室を活用した体験と交流をとおして、フィールドを感じてもらえる観察会・見学会を多く実施した。また、地域での観察会・見学会については、6件全てで他団体と協働して実施することができた。観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

	開催日		曜日	事業名	定員 (名)	参加者 (名)	共催関係
	月	日					
1	4	28	日	からすま半島の生きもの調査 (春の鳥)	30	15	
2	5	18	土	魚の寄生虫を調べよう!	10	3	
3	5	19	日	春満開の綿向山登山	30	21	綿向山を愛する会、 マルバの会
4	5	26	日	日野で植物観察会	30	35	必佐公民館、マルバの会
5	6	2	日	からすま半島の生きもの調査 (魚と漁具)	30	28	
6	7	27	土	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	20	15	朝日漁業協同組合
7	7	28	日	初心者のためのふなずし作り体験	20	18	
8	8	6	火	回転実験室で水槽実験を!	20	34	
9	8	10	土	からすま半島の生きもの調査 (夏の虫)	30	22	
10	8	24	土	プランクトンでアート	20	17	成安造形大学
11	9	16	月	昔のくらしをインタビュー	10組	1組	
12	10	26	土	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	20	中止	百瀬漁協、 滋賀県漁連高島事業場
13	10	27	日	からすま半島の生きもの調査 (秋の植物)	30	7	
14	11	9	土	回転実験室で琵琶湖の物理学を考えよう	30	中止	
15	11	16	土	秋の里山を歩こう	30	31	カワセミ自然の会、 はしかけ里山の会
16	11	24	日	朽木観察会	30	24	くつきの森 NPO 法人麻生里 山センター、はしかけ緑のく すり箱
17	12	15	日	からすま半島の水鳥を観察してみよう	20	29	日本野鳥の会滋賀支部、 はしかけグループびわたん
18	1	6	月	昔のくらし体験	20	7	はしかけ近江昔くらし倶楽部
19	1	25	土	水族バックヤード探検	40	42	
20	2	15	土	重要文化財を読んでみようー中世古文書 入門ー	20	24	
21	2	22	土	水族バックヤード探検	40	59	
22	3	23	日	からすま半島のミステリー観察会	20	17	

## (2) 講座

講座は、研究部が主体となって実施する講座(研究部の講座)、学芸員が専門テーマについて解説する講座(入門・専門講座)、教員や地域の指導者等を対象とした講座(指導者向け講座)、子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座等に区分できる。

2013 年に開催した講座の実績を以下に記した。

### 1) 入門・専門講座

2013年度は、以下に示した 8 件の事業を実施した。

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	講 師
1	琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 1 : 植物化石	5 月 19 日	日	10	7	山川千代美
2	琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 2 : 地層	6 月 30 日	日	10	9	里口保文
3	琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 3 : 花粉化石	7 月 28 日	日	10	28	林 竜馬
4	琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 4 : 足跡化石	8 月 25 日	日	10	中止	岡村喜明
5	琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 5 : 動物化石	9 月 29 日	日	10	19	阿部勇治
6	新琵琶湖学セミナー (全 3 回) (詳細は研究調査活動 p. 25 を参照)	9 月 8 日～ 11 月 3 日	日	各回 70	146	

### 2) 指導者向け講座

2013 年度は、2 件の指導者のための博物館活用講座を開催した。

開催日	内 容	受講者数	担当者	共催・後援
8 月 8 日	生き物飼い方講座	11	菅原・中井・ 蜂屋・藤橋	滋賀県総合教育センター
11 月 14 日	土の中の生き物	9	中川・蜂屋・藤橋	滋賀県総合教育センター

#### ■博物館活用講座の様様



### 3) 夏休み自由研究講座 (担当: 楠岡 泰・黄瀬金司)

小学校 3 年生から 6 年生までの子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない 7 月下旬に自由研究のテーマの決め方や研究の進め方、標本の作り方などについて指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。日程、参加者数、講師等は下表のとおり。プランクトンコース、昆虫コース、天体コースで合計 100 名の応募者があり、当日の参加者数は 96 名だった。

開催日	コース名	開催時刻	定員	参加者数	会場	講師
7月21日 (日)	プランクトン	10:00-12:00	各コース 約30名	36	実習室1	楠岡・大塚
	昆虫	10:00-15:00		25	実習室2	武田 滋*・南 尊演* 八尋
	天体	10:00-12:00		35	会議室	蜂屋・藤橋

\*外部講師



### (3) 体験教室

2013年度も、昨年同様に野洲市大篠原の里山林周辺で里山体験教室を開催した。また、2013年度には琵琶湖博物館の屋外展示と生活実験工房において、新たに田んぼ体験を開催した。

#### 1) 里山体験教室 (担当：安福俊幸・楠岡 泰)

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない。子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ったことがない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。参加者は、家族単位での参加がほとんどで、子どもたちの体験の機会として応募されているが熱心なのは保護者の方という場合も多い。

春は、里山を歩き、春の息吹が感じられるよう植物を中心に観察した。食べられる植物を紹介しながら、身近な草花への興味を促した。野草や木の芽のテンブラを楽しんだ。午後は、近くの展望台から琵琶湖を眺望した後、伐採された丸太や切り株から木の名札を作った。

夏は、夏の里山遊びの王道「虫とり」を午前中楽しんだ。午後は、里山の中でシートを利用した簡単お手軽「ハンモック」づくりをした。最後に、ススキの葉で虫をつくる「草遊び」を体験した。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」や、「里山林の手入れ」を企画していたが雨天中止とした。

冬は、「はしかけ里山の会」のプロデュースにより、雪遊び、火おこし、花炭、煙の空気砲遊びなどを楽しんだ。また、たき火料理として、汁物・焼きマッシュマロ・竹パンなどを味わった。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月21日	里山の春をみつけよう	32	安福、楠岡
2	7月21日	里山の夏を楽しもう	44	安福、楠岡
3	10月20日	里山林の手入れをしよう	中止	安福、楠岡
4	1月19日	冬の里山を楽しもう	13	安福、楠岡





春：植物観察



夏：虫とり



冬：雪遊び

## 2) 生活実験工房 田んぼ体験 (担当：水谷 智, 中川 優)

これまで、はしかけ会員を対象に、昔の暮らしと田んぼの体験を実施したが、今年度は、一般の参加者（定員10名）も加わり、4月から11月初旬まで、主に水稻栽培に関する体験を行い、11月中旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や生活実験工房周辺にある材料を使った体験教室を実施した。水稻栽培の体験では、昔ながらの直播による苗代づくりから稲刈り、脱穀まで農具を使い協力しながら手作業で収穫し、11月の収穫祭では、農の恵みを味わうことができた。また、農閑期となる冬季は、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業での体験を行った。農具や道具などを使い、参加者同士が協力し交流を深めながら、栽培体験や制作に取り組んだ。

活動日	内 容	参加者数
4月 20日	種まき、苗代づくり	6名
5月 19日	田植え、さなぶり	27名
6月 9日	除草作業、生きもの観察	19名
7月 20日	竹細工、お茶っばづくり	37名
8月 11日	案山子づくり、しそジュース	13名
9月 14日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	25名
10月 5日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	16名
11月 2日	脱穀、唐箕	12名
11月 16日	収穫祭	15名
12月 21日	しめ縄づくり、門松	22名
12月 23日	餅つき	56名
1月 14日	どんど焼き	職員のみ
1月 18日	昔遊び（凧づくり）	15名
2月 9日	わら細工	10名
3月 15日	一年間のふりかえり	14名



種まき



稲刈り



脱穀

#### (4) 体験学習

##### 1) 一般団体向け（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、深田元子）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、大人の団体、障がい者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
23 団体 (1,023 名)	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物）、ヨシ笛、シジミストラップ プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 など

##### 2) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、深田元子）

当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2・第4土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。今年度は、広く他のはしかけグループやフィールドレポーターにもわくわく探検隊を担当していただいたが、参加者からは各回大変好評であった。年間19回、651名の参加者があった。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	4月 13日	春の草花でしおりをつくろう	31
2	4月 27日	春の草花でしおりをつくろう	28
3	5月 11日	魚の解剖にチャレンジしよう（企画展示関連）	6
4	5月 25日	琵琶湖の模型をつくろう	40
5	6月 8日	魚の解剖にチャレンジしよう（企画展示関連）	77
6	6月 22日	田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！	53
7	9月 14日	光とかげで写真をとろう～水中の植物編～	16
8	9月 28日	光とかげで写真をとろう～水中の植物編～	10
9	10月 12日	秋の色をさがしてみよう	7
10	10月 26日	ハンモックで遊ぼう	21
11	11月 9日	秋の色をさがしてみよう	24
12	11月 23日	綿にふれてみよう	80
13	12月 8日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	33
14	1月 11日	博物館でスゴロクをつくろう = う～まいった！ B展示室 =	29
15	1月 25日	博物館でスゴロクをつくろう = う～まいった！ B展示室 =	23
16	2月 8日	廃油石けんをつくろう	31
17	2月 22日	廃油石けんをつくろう	41
18	3月 8日	偏光スコープをつくろう	47
19	3月 22日	偏光スコープをつくろう	54
		計	651



## 学校連携

### (1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。生徒数は昨年度並みであるが、小中学校を中心に学校数の減少傾向が続いている。学習指導要領の改訂と共に、小中学校は授業時間の確保が難しくなっており、校外学習の回数を減らす傾向にある。県内学校は冬季の3、4年生の社会科「むかしの暮らし」について学習するための来館が多く、人気も定着しているため、人数としては増える傾向にある。5、6年生、中学校の環境学習としての来館が県内外共に減ってきており、琵琶湖博物館を選んでいただけるソフト面での充実を図りたい。

#### 1) 受け入れ（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、深田元子）

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H24年度	今年度	増減	H24年度	今年度	増減
県内	小学校	170	170	0	11,343	11,662	319
	中学校	26	22	-4	2,280	1,949	-331
	高等学校	21	15	-6	649	984	335
	特別支援学校	13	15	2	142	273	131
	大学など	4	6	2	175	347	172
	合計	234	228	-6	14,589	15,215	626
県外	小学校	253	242	-11	21,746	21,117	-629
	中学校	110	109	-1	14,381	14,365	-16
	高等学校	26	25	-1	1,975	2,602	627
	特別支援学校	17	10	-7	311	267	-44
	大学など	48	31	-17	1,806	1,290	-516
	合計	454	417	-37	40,219	39,641	-578
総合計		688	645	-43	54,808	54,856	-48

#### 2) 体験学習（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、深田元子）

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った見学への対応のほか、各種体験学習等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房などを利用して行った。

また、展示見学学習を支援する「サポートシート（モノクロ版17種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。ダウンロードにも対応している。

校種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について など）、ヨシ笛作り、化石レプリカ、プランクトン採集と観察、昔のくらし体験（石臼・脱穀・手押しポンプ）、シジミストラップ、琵琶湖の富栄養化問題、魚の解剖、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について など）、ヨシ笛作り、化石レプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、プランクトンネットの作製、シジミストラップ、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、野外観察（ヨシ群落など）、野外植物観察、水の汚れの測定、貝の観察、昆虫の観察、火山灰の観察、大地のつくり、3D琵琶湖、琵琶湖の富栄養化問題、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について など）、プランクトンの採集と観察、シジミストラップ、魚の採集（釣り）と解剖、水質調査、湖岸調査（地形・植生ほか）、昆虫の生態観察、火山灰の観察、野外植物観察、大地のつくり、琵琶湖の環流について、展示利用学習、課題研究、質問対応

#### ■体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	48	3,344	63	4,370	111	7,714
中学校	16	1,692	13	1,195	29	2,887
高等学校	5	205	5	300	10	505
特別支援学校	2	27	1	12	3	39
大学など	1	60	5	288	6	348
合計	72	5,328	87	6,165	159	11,493

#### ■サポートシートダウンロード数

	内容	ダウンロード数
学習シート	今と昔のくらし	30
	むかしの道具と生活	27
	森林の働き	19
	琵琶湖の水・川の水	26
	大地のつくり	20
	琵琶湖のおいたちをさぐる	14
発見シート	小学校3年生	15
	小学校4年生	18
	小学校5年生	14
	小学校6年生	15
ナマズ博士の挑戦状	全館コース1問	19
	全館コース2問	18

## ■体験学習のようす



### 3) ミュージアムスクール (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

立命館守山中学校を受け入れた。

#### 立命館守山中学校

1年生 128名が参加し、13回にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、グループ別課題研究に取り組んだ。課題研究では個々のグループに学芸員がアドバイスを与え、学習の成果を発表会で交流した。

#### ①2013年6月1日(土)：琵琶湖博物館

- ・ 9:40～10:40 講義 「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(藤橋)：ホール
- ・ 10:40～11:50 常設展示見学

#### ②2013年6月15日(土)：琵琶湖博物館

- ・ 9:40～11:50 体験学習「プランクトン観察」(蜂屋)：実習室1
- 「化石のレプリカづくり」(藤橋)：実習室2

#### ③2012年6月29日(土)：琵琶湖博物館

- ・ 9:40～10:40 講義 「琵琶湖の生き物とその調査法」(中井)：ホール
- ・ 10:40～11:40 講義 「民家の歴史とその調査法」(中藤)：ホール

■夏休み…展示見学と講義から、琵琶湖について特に興味を持ったことがらを、各自が夏休み課題としてレポートにまとめる。

#### ④2013年9月14日(土) 学校で行う 班での調べ学習 学校図書室での資料検索 (藤橋)

■9月末までを目安に…調べ学習の班決定→班ごとのテーマ、担当教員決定→担当学芸員調整

#### ⑤2013年10月26日(土)：琵琶湖博物館

- ・ 9:40～10:40 講義 「問題解決へのアプローチの方法」(八尋)：ホール
- ・ 10:40～11:50 班ごとのテーマに合わせて展示見学
- 常設展示および企画展示(「生きものがたり」) 見学

#### ⑥2013年11月2日(土) 学校で行う 班での調べ学習 学校図書室での資料検索

■研究計画書を担当学芸員へ提出

#### ⑦2013年11月16日(土)：学校で行う (藤橋・蜂屋)

- ・ 中間発表会 学級単位での発表会 学芸員への質問事項抽出

#### ⑧2013年12月7日(土)：琵琶湖博物館 (学芸員対応)

- ・ 班での調べ学習 (質問事項に対する指導・助言・展示見学)：セミナー室他

■冬休み…各自さらに調べ学習を深める

#### ⑨2014年1月25日(土) 学校で行う

- ・ 班での調べ学習 学校図書室での資料検索

#### ⑩2014年2月15日(土)：琵琶湖博物館 (学芸員対応)

- ・ 班での調べ学習 (質問事項に対する指導・助言・展示見学)：セミナー室他

⑪2014年2月22日(土) 学校で行う

・発表原稿および提出資料を仕上げ、発表の練習をする

⑫2014年3月8日(土) 学校で行う

・学級単位で最終発表のリハーサル、担任・級友からのアドバイスをもとに発表を仕上げる。

⑬2014年3月15日(土) 学校で行う

・琵琶湖学習発表会 審査・講評(藤橋):立命館守山中学校メディアホール



#### 4) 自然調査ゼミナール(担当:藤橋和弘、蜂屋正雄)

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催:琵琶湖博物館、共催:滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援:滋賀県教育委員会で行った。中学生67名、教員21名、博物館実習生19名が参加した。学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールでそれぞれの班が発表した。

① 期日 2013年7月31日(水)~8月1日(木)

② 日程および内容

昼の部		夜の部	
9:30~10:00	受付	17:00~17:20	諸注意等(ホール)
10:30~11:45	開講式、オリエンテーション		自然調査ゼミ卒業生の発表
11:45~12:30	班別調査		コウモリの超音波をきく
12:30~14:00	昼食、自由交歓	17:30~18:20	夕食・交流会
14:00~15:00	班別調査	18:30~19:20	びわたんワークショップ(骨)
15:00~16:20	調査のまとめ	19:30~21:50	水族探検・昆虫探検・星空観察
16:20~17:00	各班発表(ホール)	22:00~	就寝準備・就寝

#### ■昼の部班別テーマ

班	テーマ	学芸員	生徒数	教員数
魚類班A	烏丸半島の水辺の生き物について調べよう	藤岡康弘	11	4
魚類班B	外来魚について調べよう	菅原和宏	23	5
ほ乳類班	博物館周辺のほ乳類を調べよう	澤邊久美子	9	2
昆虫班	博物館周辺で昆虫採集をしよう	八尋克郎	8	2
貝類班	琵琶湖の貝を調べよう	松田征也	5	2
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて調べよう	楠岡 泰	5	2
植物班	博物館周辺の植物(クズ)を調べよう	草加伸吾	6	2

■夜の部

活動	担当
自然調査ゼミナール卒業生の話 コウモリの超音波をきく	大学生 澤邊久美子
ワークショップ「ほねで遊ぼう」	びわたん・里口保文
水族展示探検	桑原雅之・松田征也
昆虫観察	金尾滋史
星空観察	藤橋和弘



5) 職場体験実習受け入れ (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

今年度は草津市立新堂中2年生5名を受け入れた。中学校が設定している5日間のうち、休館日と日曜日を除いた金～木曜日で実施した。

月日	体験内容	担当職員
11月8日	博物館の概要・体験学習についてのお話 ヨシ笛体験補助、	藤橋、蜂屋
11月9日	ヨシ笛・化石レプリカ材料準備、わくたん補助	藤橋、蜂屋、草加
11月12日	漁港での外来魚受け取り、水族での実習、 資料課作業、工房作業	桑原、中川、水谷、中藤、戸田、 下村、深田、黄瀬、小嶋、蜂屋、 藤橋
11月13日	水族での実習、ヨシ笛・化石レプリカ材料準備、 魚レプリカ整理、表示看板作成、職場体験のまとめ	桑原、黄瀬、小嶋、蜂屋、藤橋
11月14日	博物館活用講座準備・補助、工房作業 ヨシ笛材料準備	楠岡、中川、水谷、深田、黄瀬、 小嶋、蜂屋、藤橋

■職場体験の様子



(2) 教育指導者等研修 (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

1) 教職員研修

館外への出前講座、県総合教育センターなどと連携した講座、各地の教育委員会や教育研究所からの依頼を受けた研修講座など多岐にわたった。結果として、539名の受講があった。引き続き、受講者である教員

や地域で活躍する環境保全リーダーのニーズを分析し、学芸職員の専門性となつて講座を実施していきたい。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6月13日	木	県中学校教育研究会環境教育部会研修会	20	滋賀県中学校教育研究会環境教育部会
7月23日	火	滋賀県中学校理科教育研究委員研修会	20	滋賀県中学校教育研究会理科部会
8月6日	火	滋賀県小学校理科部会研究委員総会	11	滋賀県小学校教育研究会理科部会
8月7日	水	滋賀県環境教育協議会	140	滋賀県教育委員会学校教育課
8月22日	木	滋賀県中学校理科部会研修会	20	滋賀県中学校教育研究会 環境教育部会
10月17日	木	滋賀県高等学校家庭科部会	6	滋賀県高等学校家庭科部会
11月12日	火	滋賀大学附属小学校理科研修	3	滋賀大学附属小学校
11月19日	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月21日	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月26日	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月28日	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11月30日	土	滋賀の教師塾	140	滋賀県教育委員会
12月4日	水	近畿工業化学教育研究会 研究発表大会および体験実習	35	近畿工業化学教育研究会
合計			539	

#### ■初任者研修の様様



#### ■滋賀の教師塾の様様



#### 2) その他の視察研修 (担当: 藤橋和弘、蜂屋正雄)

2013年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計4件47名であった。

月日	研修	人数
4月17日	新潟県津南町教育委員会	5
5月7日	三重県四日市公害と環境未来館	7
5月10日	JICA研修	10
8月20日	ビジターズビューロー	25



**(3) 学校サテライト博物館事業 (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、水谷 智)**

平成 19 年度 (2007 年度) から始まった学校サテライト博物館事業は、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化するため、学校に限らず、地域の公民館等にも展開していく方向性を持って、サテライト博物館事業と名称を変更して取り組んでいる。設置を希望される地域の方が運営主体となり、学校と博物館をつないでいただくこと、自己運営できることを事業目的にしている。本年度は、昨年度からつづく東近江市能登川東小学校での事業展開の継続に加え、彦根市立若葉小学校から高月駅前の田園空間博物館総合案内所、高月小学校・富永小学校への移設を行った。共に、運営主体を東近江市シルバー人材センター・高月町地域振興課と学校支援委員会とし、独自の展示への発展を目指して事業を進めた。能登川東小学校では親子のふれあい行事や環境学習について出前授業を行った。また、教員研修と東近江市シルバー人材センターが計画する伊庭内湖についての展示を実現するべく、展示講習を行った。

**■出前授業**

実施日	曜日	出前授業	参加者数
5月 28日	火	彦根市立若葉小学校 5 年生	144
6月 7日	金	東近江市立能登川東小学校 3 年生	120
7月 3日	水	東近江市立能登川東小学校 2 年生	146
10月 7日	月	東近江市立能登川東小学校 5 年生	144
10月 11日	金	東近江市立能登川東小学校 6 年生	144
10月 24日	木	東近江市立能登川東小学校 4 年生	80
12月 4日	水	東近江市立能登川東小学校 5 年生	144
合 計			778

**■指導者研修**

実施日	曜日	教員研修	受講者数	共催・後援
8月 1日	木	東近江市立能登川東小学校サテライト博物館教員研修	21	東近江市教育委員会
9月 26日	木	東近江市シルバー人材センター展示物製作研修	3	東近江市シルバー人材センター
合 計			24	

**■博物館教員の出前授業のようす**  
(東近江市立能登川東小学校)



**■児童による展示見学の様す**  
(彦根市立若葉小学校)



**■学校教員向けの研修会 (東近江市の教員研修・東近江市シルバー人材センター展示製作研修)**



## 研修・実習

### (1) 国際交流

#### 1) JICA 博物館学コースの実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館との共催で「博物館学コース（Comprehensive Museology Course）」と題する集団研修を、2012年から2014年の3カ年事業で行っている。この研修事業は、国立民族学博物館が事務局を持ち、当館からは運営委員2名と専門委員2名を出して、全体の運営に関わっている。今年度の研修は、4月8日から7月20日まで実施し、7カ国の博物館施設から計10名の研修員が参加した。当館では、期間前半に一般研修（全研修員を対象）として6日間のプログラムを実施し、期間後半に個別研修（各研修員が同時開催される複数のコースから専門性によって選択するもの）として「博物館と地域コミュニティー」コース（5日間）を分担し、全研修員10名のうち5名が参加した。

なお、このJICAの研修は、当初10年間にわたり国立民族学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、当館は地域連携に係わる部分を分担する形で研修生を受け入れて協力し始めたことに端を発する。2004年度から2011年度までは「博物館学集中コース（Intensive Course of Museology）」と題する研修となり、それに応じて研修内容を変更して、国立民族学博物館との共催事業となった。

#### ① 研修員

バダルヤン アルメン (BADALYAN Armen)

アルメニア アレクサンドル・スペンジアリアン記念館 広報・展示計画課 課長

オルベルヤン ゲヴォルグ (ORBELYAN Gevorg)

アルメニア エレバン博物館 副館長（展示担当）

レガラド ピント ジョハナ ジスセラ (REGALADO PINTO Johanna Gissela)

エクアドル 文化省 文化部（グアヤス州管轄） 分化・教育部門担当

ロルダン モンサルヴェ ヴィルヒニャ ジャネト (ROLDAN MONSALVE Virginia Janneth)

エクアドルン アメリカ大陸民芸工芸センター 研究部 ソーシャルメモリーセンター 資料・博物館サービス担当 博物館ガイド

オスマナバブデルガニィ モアメン モハメド (OTHMAN ABDELGHANY Moamen Mohamed)

エジプト 考古庁保存修復部 大エジプト博物館保存修復センター 有機ラボ責任者

マムッド マアウエド アスマ アハメド (MAHMOUD MEAWED Asmaa Ahmed)

エジプト 大エジプト博物館 展示・学術調査ユニット 学芸員

ゲラ ルイス ジェニィ リゼット (GUERRA RUIZ Maria Jenny Lizeth)

グアテマラ 文化・スポーツ省 国立グアテマラ考古民族博物館 考古学部 アドバイザー

ミョウ ミン ミン サン (Myo Myint Myint San)

ミャンマー 文化省 考古学・国立博物館・図書館部 マンダレー文化博物館 第2級学芸員補

イフラウィ ジャマル (IKHLAWI Jamal A. H.)

パレスチナ 観光考古省 博物館開発部 博物館資料管理課 課長

モリナ ゴンザレス ソニア ヴァエンティナ (MOLINA GONZALEZ Sonia Valentina)

ペルー 文化省 博物館部 国立博物館他担当 資料登録コーディネーター

#### ② スケジュール

2013年4月8日 来日

4月12日 開講式（国立民族学博物館）

4月16日 ミュージアムレポート（琵琶湖博物館）

- 4月17日～6月14日 一般研修
- 4月23日～26日 研修旅行：広島・宮島・直島（香川県）
- 5月9日～15日 琵琶湖博物館での一般研修
- 5月25日 公開フォーラム「世界の博物館2013」（国立民族学博物館）
- 6月2日～7日 研修旅行：岩手県・宮城県・東京・千葉県
- 6月13日～14日 研修旅行：奈良県
- 6月17日～7月6日 個別研修
- 6月25日～29日 個別研修「博物館と地域コミュニティー」（琵琶湖博物館）
- 7月18日 ファイナルレポート、修了式（国立民族学博物館）
- 7月19日 評価会

2013年7月20日 帰国

### ③ 琵琶湖博物館での研修

- ・一般研修：本研修コースの研修員10名全員が参加した。
  - 5月9日 琵琶湖博物館の概要および設立経緯、展示見学、展示計画・作成
  - 5月10日 ディスカバリールーム、交流事業、体験学習プログラム、資料整理・利用、研究、情報利用・施設
  - 5月11日 フィールドレポーター・はしかけ「びわたん」による体験学習プログラムの体験
  - 5月12日 地域活動の見学（NPO エコアイデア倶楽部びわ湖）
  - 5月14日 MIHOMUSEUMおよび滋賀県陶芸の森学校の見学等
  - 5月15日 展示評価、スペシャリティレポート、総合討論
- ・個別研修：研修員5名（バダルヤン、レガラド、ロルダン、マムッド、イフラウィ）
  - 6月25日 博物館と地域社会（高橋）、フロアトークの見学（グライガー）、ディスカバリールームの「世界の子どもたち」コーナーの解説（芦谷）、地域の遺産としての多様性と地域性（中井）、収蔵庫見学（グライガー）、子供向けのプログラムの企画・実施・評価（芦谷）
  - 6月26日 地域連携活動としてオムロンの野洲事業所のビオトープの見学（松田）、琵琶湖博物館のリニューアル（藤村、里口、柁永）、水族バックヤードの見学（金尾）、「世界の子どもたち」展示案発表準備（芦谷）
  - 6月27日 東近江市立能登川博物館の視察（楠岡）、東近江市立能登川東小学校のサテライト博物館の観察および学校そのもの見学（楠岡、シルバー人材センター）、ボードレス・アートミュージアムNO-MAの見学（グライガー）
  - 6月28日 プラントンのモデ製作（楠岡、スミス）、研修員による教育プログラム（レガラド）
  - 6月29日 写真資料の利用、フォトセラピーのワークショップ（秋山、日本写真療法家協会）、研修員による「世界の子どもたち」展示案発表、総合討論（芦谷・グライガー・楠岡）

### 2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度は 39 件に対応した。

\* JICA ; 国際協力機構 ILEC ; 国際湖沼委員会

月	日	団体名	依頼者	人数	対応
4	7	海外からの団体視察	ILIC	15	グライガー
4	16	産業廃水処理技術 (B) コース研修	北九州国際技術協力協会	6	中井
4	21	中国記者団	(社) 日本新聞協会	12	藤村/楊

月	日	団体名	依頼者	人数	対応
4	24	JICA 農業・農村開発に係る研修	JICA	7	中井/水谷
5	21	博物館見学	京都大学	12	楠岡
5	23	ミスガン大学プログラム関連	観光交流局	17	藤村
6	12	ベトナム旅行社・メディア視察	ビジターズビューロー	11	芳賀
7	5	JICA 地域研修	横浜ウォーター（株）	18	楊
7	19	琵琶湖環境学習	滋賀県立大学	5	スミス
7	23	近江ふるさとの会海外学生見学	観光交流局	22	楊
7	25	神戸女学院大学見学	神戸女学院大学	5	グライガー
8	4	国際地理オリンピック大会	大阪教育大学	200	スミス/楊/ 中藤
8	10	近江ふるさとの会海外学生見学	観光交流局	24	楊
8	23	タイ王国総領事館役員の見学	タイ王国総領事館	5	篠原/ 菅原
8	28	JICA 研修 (A) コース	北九州国際技術協力協会	8	中井
9	7	台南芸術大学視察	二上山博物館	20	楊
10	9	JICA 集団研修	JICA	14	芳賀
10	11	韓国研修団 館内見学	農業信用組合基金協会	10	用田
10	20	施設見学及び講義	京都大学	4	スミス
10	29	マレーシア研究者研究交流	ILIC	17	楊/蜂屋/安 福/中井/大 久保/桑原
10	31	マレーシア研究者 館内視察見学	ILIC	17	中井
11	2	インド領事	駐神戸インド領事館	2	グライガー
11	7	ミャンマー農業灌漑省一行見学	ミャンマー農業灌漑省	10	藤村/楊
11	13	施設見学	公益財団法人淡海環境保全財団	7	楊
11	15	JICA 研修	JICA	12	グライガー
11	20	JICA 研修	JICA	12	スミス/楊
12	7	トレーニングコース見学	京都大学	28	グライガー
12	12	台湾からの教育誘致	ビジターズビューロー	6	楊
12	17	ベトナム国家大学	観光交流局	6	草加
12	18	台湾からの教育誘致事業	ビジターズビューロー	13	松田
12	19	台南市副市長一行交流	観光交流局	7	篠原/藤村/ 楊
12	20	中国訪日教育誘致事業	観光交流局	6	楊
2014.1	24	中国広州修学旅行団	日本旅行	45	芳賀
2	25	韓国江原開発研究所員の見学	韓国江原開発研究所	7	菅原
3	2	中国南京大学研究者の研究交流	ILIC	4	楊
3	6	台南市政府職員見学	観光交流局	8	高橋/楊
3	14	JENESYS 訪問団	日本国際協力センター	225	スミス/楊
3	23	中国湖南省友好交流	観光交流局	30	楊
3	27	韓国環境財団	韓国環境財団	21	藤橋/蜂屋/ 楊

## (2) 博物館実習

・期間：2013年7月30日（火）～8月6日（火）；ただし8月5日（月）は休み

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内8大学、19名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。交流事業の体験では、中学生を対象とした自然調査ゼミナールへ実習スタッフとして参加したり、展示作業の体験として1週間を通してグループでディスカバリーボックスの計画および試作品の製作を行い、最終日にプランの発表を行った。発表会では博物館職員との意見交換も行われた。

・実習日程と内容

月日	内容（午前）	内容（午後）
7月30日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体オリエンテーション</li> <li>講義「琵琶湖博物館の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の研究活動」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「常設展示の概要」</li> <li>見学「常設展示室の見学」</li> <li>展示交流とは</li> </ul>
7月31日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館における交流事業」</li> <li>実習「自然調査ゼミナール補助」</li> </ul>	
8月1日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「ディスカバリールームの説明、ディスカバリーボックスの説明」</li> <li>実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」</li> <li>見学「企画展の見学」</li> </ul>
8月2日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「博物館の資料と整理（データベース）について」DVD視聴含む</li> <li>講義「IPMについて」</li> <li>見学「収蔵庫空間見学」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習 各資料分野に分かれて実習</li> </ul>
8月3日（土）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「企画調整課の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の広報戦略」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の電子情報」</li> <li>実習「博物館への質問と回答作り」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「博物館への質問と回答作り」</li> </ul>
8月4日（日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックスの作成」</li> </ul>	
8月5日（月）	<実習・休み>	
8月6日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックス・プレゼンテーション準備」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習成果発表会</li> <li>修了式</li> </ul>

・実習生の大学と人数：8大学、19名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	7	京都橘大学	1
京都府立大学	1	岡山理科大学	3
京都産業大学	1	東海大学	1
龍谷大学	3	同志社女子大学	2
		合 計	19

## 5 対話と応援ができる博物館

### 利用者主体の事業

#### (1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、地域の方が滋賀県内の自然とくらし・文化について、自分たちの住む身近な調査をしてもらい、そこから得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす制度である。これら活動の他に、交流会、観察会の開催によって、参加者が地域の自然や環境に関心をもち、興味を広げる活動の場も提供している。フィールドレポーターが行う調査は、博物館に申し込みをすれば、誰でも参加できる市民参加型調査である。フィールドレポーターの主な活動としては、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画、実施とその結果をまとめた報告書の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、および自由交流型調査のまとめと掲示板発行、そして会員同士の交流会、館内外で開催される交流会・イベントなどへの参加がある。「アンケート型調査」は毎回決まったテーマに従って行い、「自由交流型調査」は自由な内容で身近な情報を随時報告する形としている。

2013年度の自由交流型調査では、2008年以降継続している「アキアカネふるさと探し」調査をびわこバレイ蓬萊山頂付近において実施した。また、秋には葛川周辺において里に下りたトンボの追跡調査を実施した。アンケート型調査は、5月から8月にかけて「カタツムリ調査」、12月から2月にかけて「小さい冬みつけた」を実施した。その調査結果は、フィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」年2回と「掲示板」年4回（通巻71-74号）として発行し、博物館ウェブサイトで公開している。また、琵琶湖博物館C展示室のフィールドレポーターのコーナーにおいて、調査内容をパネルにして展示（年2回更新）を行っている。

5月25日（土）に実施したフィールドレポーター交流会では、「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」、「身の回りの生き物・環境について」を報告し、活発な質問や意見が出た。その後、次回調査テーマの「カタツムリ学習会」を実施し、希望者を募って屋外展示で現地調査会を行った。6月1日（土）のフィールドレポーターと「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」との交流会では、長浜市西浅井町にある山門水源の森を訪ねて、森の解説と見学会をとおして交流を行った。7月6日（土）の琵琶湖博物館主催『あさ、ひる、ばん、博物館を楽しもう！』では、「せみとあそぼう」を実施した。

2013年度は、毎月第1・3土曜日（原則）の『定例会』等の活動を、計27回開催し、調査方法や内容について活発な議論があり、フィールドレポータースタッフとの連携により1年間の活動ができた。なお、登録者数は111名（2013年度）である。

フィールドレポーターの調査内容

内 容	実施期間	報告(件)
1) カタツムリ調査	5月～8月	82件
2) 小さい冬みつけた調査	12月～2月	46件
3) 自由形調査(掲示板)	通年	通巻71～74号



交流会の様子



アカトンボ調査の様子

フィールドレポーター 活動の記録

	月日	曜日	内容	
1	4月 6日	土	定例会	生きもの調査の集計状況、カタツムリ調査検討
2	4月 20日	土	定例会	生きもの調査の集計状況、カタツムリ調査案内検討
3	5月 11日	土	定例会	JICA 研修生と懇談会、交流会+観察会案内発送、生きもの調査の集計状況、カタツムリ調査案内検討
4	5月 25日	土	定例会	カタツムリ調査票発送
5	5月 25日	土	交流会	調査報告、学習会
6	6月 1日	土	交流会	「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」との交流と観察会
7	6月 15日	土	定例会	掲示板発送、タニシ調査結果検討
8	6月 29日	土	定例会	あさひるばん準備
9	7月 6日	土	定例会 あさひるばん	あさひるばん準備、本番
10	7月 20日	土	定例会	アカトンボ調査案内発送
11	8月 3日	土	調査会	アカトンボのふるさと探し（びわこバレイ）
12	8月 17日	土	定例会	タニシ調査結果検討、カタツムリ調査中間報告、アキアカネ調査結果、冬の調査検討
13	9月 7日	土	定例会	秋のアキアカネ調査案内発送、カタツムリ調査中間報告、冬の調査検討
14	9月 21日	土	定例会	タニシ調査結果発送、掲示板発送
15	10月 5日	土	定例会	小さい冬調査検討、カタツムリ調査集計状況
16	10月 19日	土	調査会	秋のアキアカネ調査（大津市葛川坊村他）
17	11月 2日	土	定例会	小さい冬調査案内検討、カタツムリ調査集計結果、秋のアキアカネ調査結果
18	11月 16日	土	定例会	小さい冬調査票発送、カタツムリ調査集計結果
19	12月 7日	土	定例会	花博助成金審査会発表内容の検討、生きもの調査結果検討
20	12月 14日	土	花博助成金審査	花博助成金審査会（大阪コロナホテル）
21	12月 21日	土	定例会	掲示板発送
22	1月 18日	土	定例会	生きもの調査結果検討、カタツムリ調査集計状況
23	2月 1日	土	定例会	生きもの調査結果検討、カタツムリ調査結果検討
24	2月 15日	土	定例会	生きもの調査結果発送、カタツムリ調査結果発送
25	3月 1日	土	定例会	小さい冬調査集計状況、次回調査検討
26	3月 15日	土	定例会	掲示板発送、次回シノキ調査検討

## (2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、利用者が琵琶湖博物館の3つの理念に共感し、自らが主体的に博物館活動に参加するための登録制度として、2000年8月に発足し、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となっている。この制度では、博物館の事業・研究など様々な分野にかかわることができ、さらに新しい活動への発想や展開を図ることも可能である。

はじめて活動に参加するためには、はしかけ制度の概要と博物館の施設や業務を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。会員の登録は、ボランティア保険への加入を条件に1年毎に更新し、新規参加者に対しては登録講座を実施している。今年度の登録講座は、5月12日(日)、10月20日(日)、3月16日(日)の3回実施し、それぞれ44名、22名、26名の新規登録者があり、2013年度末で367名の会員数となった。

各グループでは、それぞれのテーマに基づき企画・運営し、多岐にわたる活動を続けるとともに、多様

な人びととの交流を深めている。このことは、琵琶湖博物館の中長期基本計画にある「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力として発揮されている。2013 年度には、「湧き水の会」が解散する一方で、地域の暮らしやその記憶を地域の人たちの手で記録していくことを目的とした「暮らしをつづる会」、「タンポポ調査・西日本 2015」を滋賀で進めていく「タンポポ調査はしかけ」が新たに設立され、現在 16 のグループが博物館を中心に県内各地で多岐にわたる活動を展開している。

はしかけ活動を一般の方に広く発表する機会として、2013 年 7 月 5 日～6 日の「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」に合わせて、「はしかけオープンハウス」を開催し、参加したグループ毎にこれまでの研究の成果や活動の紹介を行い交流を深めることができた。また、ほねほねくらぶの活動とその成果を紹介するギャラリー展「ボーンコレクターズ 一骨に魅せられて」が 2014 年 3 月 25 日から開催され、はしかけ活動の魅力発信することができた。

2012 年度発足した新琵琶湖博物館創造準備室から「博物館リニューアルの創造ビジョン」について、3 月 16 日にはしかけ会員向けの説明会を開催し、展示や交流施設に対する意見やはしかけ活動をさらに充実させるための貴重な意見が出された。

### 各グループの活動

#### 〇うおの会

会長：中尾博行 担当：松田征也 会員数：54 名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000 年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を 21 世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 調査活動として、会員同士の交流やスキルアップのための月 1 回の定例調査を琵琶湖やその流域各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。特に今年度は、生息数の減少が危惧されていたコイ科タナゴ亜科のカネヒラの現状を把握するため、カネヒラが浮上する 5 月から 6 月にかけて琵琶湖周辺の湖岸を中心に調査を行った。また、水路における生物保全を考える上で、水生生物の重要な避難場所となる排水路のドロダメを、琵琶湖博物館の水谷氏と共同で調査した。魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全に役立てたいと考えている。

今年度の調査活動のほかに、琵琶湖博物館行事への参加・協力、外来魚駆除事業（琵琶湖を戻す会など）への協力、みずすまし構想推進事業への協力、琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会、琵琶湖を戻す会、琵琶湖お魚探検隊、湖北野鳥センター、日本青年会議所滋賀ブロック、愛東コミュニティセンター、羽島市立竹鼻中学、水のめぐみ館アクア琵琶への協力などを行った。

#### 「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4 月 21 日	運営会議、第 90 回定例調査 石田川調査	21 名
5 月 5 日	第 91 回定例調査（臨時） カネヒラ浮上の一斉調査・南湖沿岸	19 名
5 月 19 日	第 92 回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・北湖南部沿岸	18 名
6 月 16 日	運営会議、第 93 回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・北湖沿岸	14 名
7 月 6 日	「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」はしかけオープンハウス	7 名
7 月 21 日	第 94 回定例調査 排水路ドロダメ生き物調査（夏）姉川・余呉川流域	18 名
9 月 1 日	湖魚を食すお楽しみ会（大津市「ちか定」）	10 名



活動日	内 容	参加者数
9月15日	第95回定例調査 草津川調査 *台風接近により中止	—
10月20日	第96回定例調査 宇曽川調査 *降雨、増水により時間短縮	13名
11月17日	第97回定例調査 大石川・信楽川調査	9名
12月15日	第98回定例調査 排水路ドロダメ生き物調査(冬) 姉川・余呉川流域	15名
1月19日	運営会議、勉強会「うおの会の調査活動に関する規則の解説」講師：水産課米田氏「魚の飼育方法について懇談会」	13名
2月16日	運営会議、勉強会「2013年度まとめの会」	15名
3月23日	運営会議、総会	20名

○近江はたおり探検隊

担当：中藤容子 運営・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月13日	織姫の会	生活実験工房	6名
4月24日	織姫の会	生活実験工房	4名
5月11日	織姫の会(キハダ染め)	生活実験工房	8名
5月22日	織姫の会	生活実験工房	6名
6月15日	織姫の会	生活実験工房	6名
6月26日	織姫の会(あさひるばん準備)	生活実験工房	6名
7月6日	織姫の会(あさひるばん：葉っぱで染めよう)	生活実験工房	8名
7月24日	織姫の会	生活実験工房	4名
9月11日	織姫の会	生活実験工房	4名
9月28日	織姫の会	生活実験工房	4名
10月20日	織姫の会	生活実験工房	2名
10月21日	「日本の袋展」見学	京都市	4名
10月30日	織姫の会(繊維のサンプル作り)	生活実験工房	4名
11月13日	織姫の会(御仏供米袋作り)	生活実験工房	5名
11月30日	織姫の会(御仏供米袋作り)	生活実験工房	4名
12月11日	織姫の会	生活実験工房	4名
1月11日	織姫の会	生活実験工房	3名
1月29日	織姫の会	生活実験工房	3名
2月11日	織姫の会	生活実験工房	6名
2月22日	織姫の会	生活実験工房	5名
3月12日	織姫の会(縫い絞り)	生活実験工房	7名
3月29日	織姫の会(縫い絞り・草木染)	生活実験工房	8名

○近江昔暮らし倶楽部

担当：中藤容子 会員数：15名

[設立の趣旨] 常設展示「農村の暮らし」など近江の伝統的な暮らしぶりから学ぶ“小地域循環的な暮らし”を、実際に屋外展示の森・田畑・工房の中で実験的に創造していくことを目標としている。近江はたおり探検隊で行っていた「衣」の活動を「衣食住」すべてに広げるべく、2009年1月に設立された。

[活動の概要] 年間を通じ、月1回の「工房の田んぼ行事」への協力と屋外展示・生活実験工房を拠点とする昔暮らし体験の活動に加え、県内の古民家を使った体験活動やお互いのもつ技を学び合う居合わせの会も定期的に行い、“「かつて」から学び、「いま」を見直し、「これから」を創る”ネットワークをゆるやかに作りつつある。

「近江昔暮らし倶楽部」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月20日	工房・居合わせの会（苗代づくり）	生活実験工房	7名
5月19日	湖国・巨石の会（須田郡司さんお話し）	生活実験工房	9名
5月21日	古民家暮らし体験（野菜の苗植え）	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	7名
4月25日	古民家暮らし体験	葛川かや葺きの家	3名
5月15日	古民家暮らし体験（里山でお茶摘みー初めての烏龍茶づくりー）	マチイハウス（大津市）	13名
5月23日	昔暮らし体験（羊の毛刈り）	大津市南比良	14名
6月6日	工房・居合わせの会	生活実験工房	6名
6月9日	工房・居合わせの会（手作りウーロン）	マチイハウス（大津市）	12名
6月15日	古民家暮らし体験・居合わせの会（一斗缶ロケットストーブづくり）	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	8名
6月19日	古民家暮らし体験	葛川かや葺きの家	3名
6月27日	古民家暮らし体験・居合わせの会（梅）	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	6名
7月4日	工房・居合わせの会	生活実験工房	4名
7月11日	古民家暮らし体験（葛川保育園交流）	葛川かや葺きの家	12名
8月8日	古民家暮らし体験	葛川かや葺きの家	2名
8月10日	古民家暮らし体験（改装&畑の開墾ワークショップ）	大津市葛川	6名
8月19日	古民家暮らし体験・居合わせの会	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	4名
8月29日	工房・居合わせの会	生活実験工房	2名
9月5日	古民家暮らし体験	葛川かや葺きの家	2名
9月12日	古民家暮らし体験・居合わせの会	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	9名
10月3日	古民家暮らし体験	葛川かや葺きの家	2名
10月7日	古民家暮らし体験・居合わせの会	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	9名
10月15日	工房・居合わせの会（三種（みくさ）の身宝（みたから））	生活実験工房	3名
10月30・31日	町居ありがとうの集い	マチイハウス（大津市）	43名
11月9日	古民家暮らし体験（薪づくりワークショップ）	大津市葛川	16名
11月10日	「近江の緋と久留米緋」見学、映写会・座談会	近江上布伝統産業会館（愛荘町）	4名
11月17日	第10回おっきん椋川（地機の機ごしら）	高島市今津町椋川	2名
12月3日	古民家暮らし体験・居合わせの会（新月の日のあったかお手当て）	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	4名
12月21日	工房・居合わせの会（門松・しめ縄づ）	生活実験工房	15名

活動日	内 容	場 所	参加者
1月 6日	むかしのくらし体験	生活実験工房	7名
1月7・10日	学校に眠る民具をてらす会 in 草津	玉川小学校（草津市）	6名
1月 18日	工房・居合わせの会	生活実験工房	12名
2月 3日	出張授業	志賀小学校（大津市）	4名
3月 6日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	8名
3月 8日	古民家再生ワークショップ	大津市葛川	22名
3月13・20日	学校に眠る民具をてらす会 in 草津	玉川小学校、草津小学校（草津市）	16名
3月 17日	古民家くらし体験・居合わせの会	お馬と畑・奥加河荘（大津市）	25名
3月26・27・28日	学校に眠る民具をてらす会 in 草津	草津小学校（草津市）	20名

### ○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当：金尾滋史 会員数：28名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。時の流れと共に変化するこの世界の瞬間を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] 今年度の前半は企画展示に関連して烏丸半島に生息する生き物の写真撮影を行った。これらの写真を「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう」や企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」において展示した。今後も様々な場面で温故写新メンバーが撮影した写真は使用できるよう、これから整理・活用を行っていく予定である。このほか、博物館周辺や比叡山に出かけての撮影会、博物館映像資料（大橋コレクション）の整理作業、「写真の撮影講座」の開催、博物館行事の写真記録係なども行ない、それらを通じて他のグループ・機関との交流も進めることができた。いずれの活動も写真を通じて博物館活動に貢献できるようはじまったものであり、今後もはしかけ活動を通じてさらなる交流と展開を目指していきたい。

### 「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 27日	上半期の活動について話し合い	会議室	7名
5月 12日	撮影会（からすま半島の生き物）	烏丸半島	7名
6月 15日	撮影会（からすま半島の生き物）と写真の印刷	烏丸半島、会議室	6名
6月 30日	写真の選定と印刷	会議室	5名
7月4日～5日	『あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう』パネル展示および写真記録	博物館内	7名
8月 24日	映像資料（大橋コレクション）整理作業	会議室	6名
9月 28日	下半期の活動について話し合い	博物館内	5名
10月 19日	撮影会（比叡山・坂本駅周辺）	比叡山	7名
11月 23日	撮影会（博物館周辺の秋）	烏丸半島	7名
12月 14日	映像資料（大橋コレクション）整理作業	会議室	6名
1月 18日	撮影会（博物館周辺の冬）	烏丸半島	6名
2月 23日	第3回写真の撮影講座	会議室・烏丸半島	8名
3月 22日	2013年度総会	会議室	6名

### ■その他の活動

- ・企画展示における写真展示（開始前の入口壁面に写真を展示）
- ・博物館行事や他はしかけグループの活動における写真記録の支援
- ・多賀町立文化財センター・多賀町立博物館ギャラリー展「大橋宇三郎・洋 親子の写真展 『写真で見る

昭和の近江』への展示協力

・中日新聞連載「湖岸より」での活動紹介

### ○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当：高橋啓一 会員数：6名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらおう活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある歌だなと思ってもらえるようになればと活動を続けている。

#### 「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 7日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
5月 12日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館セミナー室
6月 23日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
8月 4日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
9月 29日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
1月 26日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

### ○ザ！ディスカバはしかけ

担当：芦谷美奈子、澤邊久美子（2月から）、森 智美、片淵綾香 会員数：6名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 「ザ！ディスカバはしかけ」は2005年度の秋に発足した団体である。個人ごとにイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修を中心に活動している。他のはしかけさんにもご協力いただき、「ディスカバリールームをもっと楽しくするイベント」をおこなうことを目標とし、展示室でのイベントにも挑戦している。今年度は新たなイベントとして、ビッグブックを使った読み聞かせ「おはなし会」をおこなうことができた。2014年度は新たなメンバーを迎えたこともあり、ディスカバリ担当職員と連携し活動の幅を広げていく。

#### 「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 12日	座布団カバーの修繕	自宅
5月 12日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館（セミナー室）
6月 15日	イベント「ゲンタの誕生物語」紙芝居の上演	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
6月 15日	第1回 ザ！ディスカバはしかけ総会	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
7月 6日	あさひるばん 博物館を楽しもう！ イベント「虫むし☆さいはっけん！」 ～ほたるのおはなしと虫の工作～	琵琶湖博物館（会議室）
8月 21日	人形劇場「女の子」「お母さん」の修繕	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
2月 8日	イベント「100かいだてのいえ」 おおきな絵本の読み聞かせ	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
3月 16日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館（セミナー室）
3月 20日	第2回 ザ！ディスカバはしかけ総会	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）

○里山の会

世話人：飯田俊宏、桑垣 瑞、前田博美、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、吉井 隆

担当：安福俊幸、楠岡 泰

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室の  
 ホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として  
 開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソ  
 ヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をか  
 くことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と  
 周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、  
 火おこし術、はな炭、やきいもなど里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通し  
 て里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれ  
 るようになり、活動の地域での認知度も高まってきている。また、琵琶湖博物館内で簡易ハンモック作り、  
 そば栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 14日	里山体験教室(春) 下見	野洲市大篠原はしかけの森
4月 21日	里山体験教室(春) 本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原はしかけの森
5月 11日	JICA研修生との交流	琵琶湖博物館
6月 9日	遠足(川遊び)	犬上川上流
7月 6日	あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう/ はしかけオープンハウス 森の中で簡易ハンモックづくり、木の名札づくり	琵琶湖博物館
7月 14日	里山体験教室(夏) 下見	野洲市大篠原はしかけの森
7月 21日	里山体験教室(夏) 本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原はしかけの森
8月 3日	夏の夜のイベント	琵琶湖博物館
9月 8日	ソバ種まき	琵琶湖博物館
9月 22日	ソバ畑手入れ	琵琶湖博物館
10月 13日	里山体験教室(秋) 下見	野洲市大篠原はしかけの森
10月 20日	里山体験教室(秋) 本番「里山林の手入れをしよう」 (雨天中止)	野洲市大篠原はしかけの森
10月 26日	「わくたん」でハンモック	琵琶湖博物館
11月 16日	観察会「秋の里山を歩こう」	大津市仰木
12月 14日	ソバ収穫祭	琵琶湖博物館
1月 12日	里山体験教室(冬) 下見	野洲市大篠原はしかけの森
1月 19日	里山体験教室(冬) 本番「冬の里山を楽しもう」	野洲市大篠原はしかけの森
2月 23日	キノコ菌打ち・味噌仕込み	琵琶湖博物館
3月 9日	里山の会総会	琵琶湖博物館

○植物観察の会

代表者：不在 担当：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004 年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」の準備中に、企画展の趣旨に沿っ  
 て、植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。会として名簿を作成してお  
 らず、はしかけ登録者であれば誰でも観察会に参加していただけるようにしており、専門知識がなくても

楽しく植物について学ぶことができる場と位置付けている。

[活動の概要] ニュースレターの発行に合わせて、野外での植物観察会を継続してきた。博物館での主催行事とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに里山を歩き、目についた植物について観察をするという形式で行った。2013年度は、観察会以外に室内での勉強を開催した。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
7月 14日	植物勉強会	琵琶湖博物館	9名
11月 3日	観察会	春日山公園周辺 (大津市真野谷町)	5名
1月 25日	観察会	ロクハ公園 (草津市追分町)	10名

○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当：大塚泰介 会員数：21名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈される。2013年度は、久しぶりに研究成果を学会等で発表するとともに、学術論文を出版した(下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会会員名義での発表)。

大塚泰介・石井千津・石角江里佳 (2013年5月19日) *Stephanodiscus suzuki* の培養過程で出現した殻縁の棘について. 日本珪藻学会第34回大会, 文教大学(埼玉県越谷市), [口頭発表].

Hirota, M., Kihara, Y., Arita, S. and Ohtsuka, T. (2013年10月26日) Periphytic diatom flora of Koyama-ike pond, Tottori Prefecture, Japan. 山陰ジオパーク国際学術会議「城崎会議」, 城崎温泉 西村屋ホテル 招月庭 (兵庫県城崎市), [ポスター発表].

Ohtsuka, T. and Arita, S. (2013年11月16日) Diatoms in Yawata moor, Kitahiroshima, Hiroshima Prefecture, Japan. 日本珪藻学会第33回研究集会, 琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設(沖縄県国頭郡本部町), [ポスター発表].

廣田昌昭・木原靖郎・有田重彦・大塚泰介 (2013) 湖山池(鳥取県)の付着珪藻相. *Diatom* 29: 24-41.

上記以外にも、山室湿原(滋賀県米原市)、油日湿原(滋賀県甲賀市)、中池見湿地(福井県敦賀市)、愛知県の鈳質土壤湿地群などの珪藻植生を研究し、一定の結果を得ている。また個人研究とし、珪藻の殻の条線パターンの幾何学的検討、低電解質ため池の珪藻植生解明などが進められている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者	参加者
4月 14日	たんさいぼうの会第37回総会・花見	近江富士花緑公園	片山滋敏	11名
5月 12日	たんさいぼうの小さな旅XIV 中池見湿地	中池見湿地	大塚泰介	8名
5月 18日	日本珪藻学会第34回大会で発表	文教大学越谷キャンパス	発表：大塚泰介ほか	
7月 6日	たんさいぼうの会第38回総会	琵琶湖博物館	石井千津	9名
10月 13日	中池見湿地の現地見学会で話題提供	中池見湿地	大塚泰介	3名
10月 14日	たんさいぼうの会第39回総会	琵琶湖博物館	三村武士	8名
10月 26日	山陰ジオパーク国際学術会議「城崎会議」で発表	城崎温泉西村屋ホテル招月庭	発表：廣田昌昭ほか 代理説明：芝崎美世子	

活動日	内 容	場 所	担当者	参加者
11月2～3日	たんさいぼうの旅Ⅴ 愛知県湧水湿地	矢並湿原など7つの湿原	大塚泰介	12名
11月16日	日本珪藻学会第33回研究集会で発表	琉球大学瀬底研究施設	発表：大塚泰介 有田重彦	
12月18日	Diatom 29巻に論文「湖山池（鳥取県）の付着珪藻相」を掲載		著者：廣田昌昭ほか	
1月13日	たんさいぼうの会第40回総会・新年会	琵琶湖博物館	芝崎美世子	13名

#### ○田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡 泰、マーク J. グライガー 会員数：20名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 当グループは、フィールドレポーターが行った田んぼの生き物調査に興味をもった有志で当初結成された。水田に生息する生物、特に大型鰓脚類（カブトエビやホウネンエビ、カイエビなど）の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。大型鰓脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため、水温や水質、冬期の土壌水分量などのデータの比較を行っている。また、はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査も行っている。

2013年夏のエビ類合同調査は2012年冬に土壌調査を行った長浜市周辺の水田で実施した。広域調査は東近江市湖東および蒲生地域、甲賀市周辺で実施し、これまでエビ類の生息が確認されていない地点数か所からも発見された。滋賀県で分布の拡大が心配されているアジアカブトエビの調査を大津市瀬田周辺で毎年実施しているが、田んぼの宅地化により出現水田は減少した。そのほかに特筆すべき事がらとして、前年に引き続き夏原グラント（平和堂財団）の活動助成を受けた。

#### 「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
5月18日	研修を兼ねた田んぼのエビ類調査	大津市伊香立周辺	8名
5月26日	広域エビ類調査	大津市瀬田、東近江市湖東、東近江市蒲生、甲賀市周辺	10名
6月2日	長浜調査広域調査	長浜市周辺	10名
6月22日	わくわく探検隊「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう」を実施、生きたエビ類の観察およびペーパークラフト作りを行った	琵琶湖博物館	9名
7月6日	あさ、ひる、ばん！博物館を楽しもう！「はしかけオープンハウス」に参加 生きた田んぼのエビ類の展示のほか、田んぼのエビのペーパークラフトも実施した	琵琶湖博物館	9名
8月25日	2013年調査採集試料同定会 広域調査および長浜調査の結果報告	琵琶湖博物館	9名
10月12日	2013年調査のまとめおよび冬調査の打ち合わせ	琵琶湖博物館	8名
12月8日	冬季孵化実験の打ち合わせおよび実験用サンプルの準備	琵琶湖博物館	14名
12月22日	前田雅子さんが第4回琵琶湖地域の水田生物研究会で「長浜地域における大型鰓脚類分布の不思議－水入れ時期の影響－」というタイトルで当グループの成果を発表した	琵琶湖博物館	6名

活動日	内 容	場 所	参加者数
3月 8日	総会：1年のまとめおよび孵化実験の結果報告	琵琶湖博物館	8名
通 年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	各自随時調査
12月～2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	各自随時調査

### 〇びわたん

担当：藤橋和弘、蜂屋正雄 会員数：21名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、概ね第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、他の博物館や学校、地域に出かけて体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。今年度も前年度同様、一定の参加者が見込める第2、4土曜日の「わくわく探検隊」の枠を、他のはしかけグループにも活動発表の場として活用していただくべく呼びかけた。結果として、4つのグループがのべ5回にわたりわくわく探検隊を担当した。また館外活動としては、「あさひるばん！博物館を楽しもう」イベントでの読みきかせと、自然調査ゼミナールでのワークショップに力を置いて活動を展開している。

### 「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	担 当
4月 13日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
4月 27日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
5月 11日	魚の解剖にチャレンジしよう（企画展示関連）	企画・運営・実施
5月 25日	琵琶湖の模型をつくろう	企画・運営・実施
6月 8日	魚の解剖にチャレンジしよう（企画展示関連）	企画・運営・実施
6月 22日	田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！	田んぼの生き物調査グループが担当
9月 14日	光とかげで写真をとろう～水中の植物編～	企画・運営・実施
9月 28日	光とかげで写真をとろう～水中の植物編～	企画・運営・実施
10月 12日	秋の色をさがしてみよう	企画・運営・実施
10月 26日	ハンモックで遊ぼう	里山の会が担当
11月 9日	秋の色をさがしてみよう	企画・運営・実施
11月 23日	綿にふれてみよう	近江昔くらし倶楽部が担当
12月 8日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	企画・運営・実施
1月 11日	博物館でスゴロクをつくろう とう～まいった！B展示室＝	企画・運営・実施
1月 25日	博物館でスゴロクをつくろう とう～まいった！B展示室＝	企画・運営・実施
2月 8日	廃油石けんをつくろう	緑のくすり箱が担当
2月 22日	廃油石けんをつくろう	緑のくすり箱が担当
3月 8日	偏光スコープをつくろう	企画・運営・実施
3月 22日	偏光スコープをつくろう	企画・運営・実施



館外での行事・博物館行事（わくわく探検隊以外）

活動日	内 容	場 所	担 当
5月12日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
7月6日	はしかけオープンハウス 「びわたん読みきかせ」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
7月31日	自然調査ゼミナール 「ほねで遊ぼう」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
10月20日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
3月16日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施

○ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当：高橋 啓一

会員数：21名（大人19名 子ども2名）

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。2013年度は、3月25日から開催予定であるギャラリー展「ボーンコレクターズ～骨に魅せられて～」の開催へ向けた活動が一年を通しての活動の中心になりました。展示予定の標本の組立、パネル制作、展示レイアウトやコンセプトの検討など、ギャラリー展開催に向けた全体的な作業と、メンバー各々に任せられた展示の制作を、平行して取り組んでいきました。その他の活動としては、琵琶湖博物館で開催された、はしかけオープンハウスにおいて”ジックリ触ってコツコツ並べて”と題して来館者と骨を通じての交流活動や標本展示を行いました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	13日 ツバメの皮剥ぎ、キツネの頭の除肉、アライグマの除肉、キツネの皮なめし、鶏の解剖	琵琶湖博物館
	20日 ツバメの除肉、タヌキの皮なめし、鶏の解剖 イタチの皮剥ぎ、除肉	
5月例会	12日 はしかけ登録講座での活動紹介、 ギャラリー展に向けた話し合い	琵琶湖博物館
	26日 タイワンジカの解剖、ニワトリの解剖	
6月例会	15日 タイワンジカの解剖、鶏の解剖、イタチの解剖、 タヌキとキツネの骨の洗浄	琵琶湖博物館
	23日 イタチの除肉、ニワトリの解剖、タヌキとキツネの骨の洗浄、 はしかけオープンハウスの準備など	
7月例会	6日 琵琶湖博物館はしかけオープンハウス において、 プログラム”ジックリ触ってコツコツ並べて”を開催	琵琶湖博物館
	15日 ニワトリ、コウモリ、アライグマの解剖、 ツキノワグマなどの骨の補修、骨の洗浄	
	27日 ヤモリ、カメの除肉、アライグマの皮剥ぎ、鶏の解剖	
8月例会	11日 骨の洗浄、アライグマ、コウモリの解剖	琵琶湖博物館
	24日 アライグマの皮剥ぎ、除肉	
9月例会	7日 カワウ、アライグマの除肉	琵琶湖博物館
	15日 アライグマの除肉、タイワンジカ骨の洗浄、油抜き ギャラリー展に向けた話し合い	

活動日		内 容	場 所
10月例会	6日	ギャラリー展で使用する交連骨格の修理、カワウの解剖、ニワトリの骨の洗浄	琵琶湖博物館
	20日	はしかけ登録講座での活動紹介	
	26日	ワニガメの交連骨格の修理、イタチの解剖	
11月例会	10日	午後からはクマの組立、ヌートリアの組立、冷凍庫の掃除など	琵琶湖博物館
	17日	クマの交連骨格の組立、アライグマの解剖、	
	23日	シカの交連骨格の組立、午後から講演会「解剖学で探る古生物の生態」を観覧	
12月例会	7日	シカの交連骨格の組立、アライグマの解剖	琵琶湖博物館
	22日	タヌキの骨格の補修	
1月例会	5日	タヌキの骨格の補修	琵琶湖博物館
	19日	タヌキの骨格の補修、アライグマの組立	
	25日	ワニガメの洗浄、タヌキの組み立て、ギャラリー展に向けた話し合い	
	26日	タヌキの骨格の組み立て、ギャラリー展のための作業（個人展示の製作）	
2月例会	11日	ドブネズミの平面並べの制作、タヌキ、イヌの補修	琵琶湖博物館
	15日	イヌの補修、キツネの補修、カワセミの解剖、ドブネズミの平面並べの制作 ギャラリー展のための作業（企画展示室に展示ケースを搬入、交連骨格の運び込み）	
	23日	アナグマの補修、イタチの補修、シカの組立、ギャラリー展のための作業（鳥類剥製を搬入）	
3月例会	2日	ネコの補修、コウモリの補修、カミツキガメの手足並べ、個人展示の制作	琵琶湖博物館
	15日	ギャラリー展に向けた作業（パネル制作、個人展示の制作など）	
	16日	はしかけ登録会での活動紹介、ギャラリー展のための作業（パネル制作、個人展示の制作など）	
	23日	ギャラリー展のための作業（パネル制作、個人展示の制作など）	
	25日	琵琶湖博物館の企画展示室において、ギャラリー展「ボーンコレクターズ～骨に魅せられて～」の展示が開始	

○緑のくすり箱

世話役：長澤京子 担当：草加伸吾 会員数：16名

[設立の趣旨] 琵琶湖博物館で開催された伊吹山の植物の企画展に興味を持ち、草津市社会福祉協議会に登録している「アロマ健康クラブ」のメンバー8人で設立したグループである。現在は新たなメンバーも加わり、身の回りにある薬用植物を健康生活に生かす利用法を中心に実践研究している。

[活動の概要] 今年度は、「お茶になる植物」をテーマに単に飲めるというだけでなく、薬効が期待できる植物を取り上げ、活用法を研究した。今年度、取り上げた薬用植物は、「茶の木（べにふうき）、カモミール、ドクダミ、桑、葛花、花梨、ヨモギ、スギナ、カキドオシ、イチヨウ葉、どんぐり（イチイ櫨）、陳皮（ミカンの皮）、オオバコ、西洋ニワトコ（エルダーフラワー）、ラベンダー、イブキジャコウソウ」

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月13日	第1回会合 年間活動計画立案	琵琶湖博物館交流室	7名
5月12日	茶摘みと手作り紅茶	信楽朝宮 樋口製茶場	16名
6月8日～9日	カモミール刈り取り体験	長野県池田町 「カミツレ研究所」	18名
11月24日	植物観察会と花梨ジャム作り&银杏拾い	高島市森林公園 「くつきの森」	8名
2014年 1月5日	七草粥と廃油石けん作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	13名
2月8日・22日	わくわく探検隊「廃油石けんを作ろう！」	琵琶湖博物館実習室2	30名 41名
3月9日	年間反省会（総会）・どんぐりコーヒー作り	琵琶湖博物館交流室 実習室2	6名

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：木本裕也 事務局長：日比野愛子 担当：高橋啓一 会員数：25名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画されている180万年前の古琵琶湖層群調査において、市民参加の参加者を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的とする。

[活動の概要] 毎月1回のような様々な分野の専門的講義や実習を行う。2013年1月から活動を開始している。2013年度は以下のような勉強会、実習を行った。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月27日～5月2日	第1次発掘	多賀町 四手
5月19日	古琵琶湖の植物化石とその観察法 (山川千代美:琵琶湖博物館)	琵琶湖博物館
6月30日	琵琶湖の生い立ちを探る方法2:地層 (里口保文:琵琶湖博物館)	みなくち子どもの森 自然館
7月28日	琵琶湖の生い立ちを探る方法3:花粉化石 (林竜馬:琵琶湖博物館)	琵琶湖博物館
8月10日	第一次発掘調査報告会	多賀町立博物館
9月29日	骨の勉強会(阿部勇治:多賀町立博物館)	多賀町立博物館
10月27日	足跡化石調査(岡村喜明)	湖南省市吉永 新生橋
11月12日～17日	2次発掘準備調査	多賀町 四手
12月22日	昆虫の勉強会(八尋克郎:琵琶湖博物館) 来年の活動方針について会議	琵琶湖博物館
2月2日	これまで多賀町四手の工事現場で発見された化石の観察 (高橋啓一:琵琶湖博物館)	多賀町立博物館
3月11日～16日	2次発掘準備調査	多賀町 四手

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当：大久保実香 会員数：1名

[設立の趣旨] 2013年10月に設立された。地域の生活のあり方を学びながら、地域の生活誌を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2013年度は、長浜市余呉町をフィールドとし、地元の方の協力を得てお話を伺った。冬には孤立することもあった小原地区でのかつての暮らしぶりと、そこにあった知恵について学ぶことができた。

お聞きした内容については記録行い、会報を準備中である。

「暮らしをつづる会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
11月 4日	小原地区の見学	長浜市余呉町	2名(担当学芸員含む)
11月 20日	地域の方からお話を伺う	長浜市余呉町	2名(担当学芸員含む)
3月 1日	イベント「小原かごとこけら寿司」参加、小原カゴ教室見学	長浜市余呉町 ウッディパル余呉	2名(担当学芸員含む)
3月 3日	地域の方からお話を伺う	長浜市余呉町	2名(担当学芸員含む)

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当：芦谷美奈子 会員数：8名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2014年1月～2016年3月の期間限定で設立されたグループである。2014年3月～5月、2015年3月～5月のタンポポ調査について、調査、データ整理などを補助的に行い、タンポポについて学ぶことを目的に設立された。

[活動の概要] 2014年1月に設立されてから、2月には2010年調査のサンプルを用いての勉強会、3月には西日本全域の調査参加者・担当者と共に説明会および研修会に参加し、種類の同定などについて学ぶ機会を持った。2014年4月からは、博物館の関連行事に参加しながら、調査で送られてくるタンポポのデータ整理などを行う予定である。

「タンポポ調査はしかけ」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
2月 1日	勉強会	琵琶湖博物館	3名
2月 16日	勉強会	琵琶湖博物館	2名
3月 2日	説明会・研修会	大阪市立自然史博物館(大阪府大阪市)	3名

地域交流活動への支援

(1) 博物館内での支援活動(講座・実習・ワークショップ・博物館ガイダンス・視察対応など)

月	日	曜日	依頼団体	担当者	人数
5	9	木	全国市町村研修財団 JIAM	中井	30
5	25	土	岩谷化学工業株式会社	桑原	28
5	29	水	大阪府立狭山池博物館	楠岡	2
6	1	土	若鮎保育園	中藤	40
6	2	日	滋賀森林インストラクター会	安福	7
6	5	水	新潟市 文化観光・スポーツ部	楠岡	3
6	9	日	奈良大学	藤岡	42
6	30	日	近畿大学 農学部 水産学科	菅原	74
7	9	火	歴史探訪ウォーク	里口	17
8	4	日	関西大学博物館	高橋	49
8	8	木	湖南省	楠岡・楊	27
8	9	金	京都府立大学 森林科学科	林	32
8	20	火	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	加藤	200
8	20	火	日本原生動物学会 若手の会	楠岡	15

月	日	曜日	依頼団体	担当者	人数
8	21	水	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	加藤	200
8	21	水	日本原生動物学会 若手の会	楠岡	15
9	13	金	愛知淑徳大学	楠岡	65
9	17	火	京都府立大学 生命環境学部	大塚	7
9	18	水	立教大学 経済学 大山利男	水谷	21
9	18	水	京都府立大学 生命環境学部	楠岡	6
9	19	木	彦根市生活環境課	大塚	20
10	20	日	びおっこの会	澤邊	25
10	22	火	草津市玉川市民センター	中藤	18
10	24	木	充実会	山川	10
10	27	日	Science in English Club Kansai	楠岡、スミス	20
10	30	水	三重県農林水産部農林水産総務課	楠岡、水谷、	10
10	31	木	山形県議会事務局長	加藤	1
11	17	日	株式会社 CBC クリエイション	蜂屋	192
11	17	日	NPO 自然と緑 第19期自然大学	楠岡・草加・	75
12	1	日	大阪市都島区内代連合町会	戸田	80
12	4	水	近畿工業化学教育研究会	松田	30
1	11	土	いまづ自然観察クラブ	山川	7
1	29	水	滋賀県レイカディア大学	亀田	19
1	30	木	千葉県立中央博物館	楠岡・水谷	1
2	7	金	立命館中学校	グライガー	68
2	25	火	JEUGIA カルチャー事業部	橋本	8
2	26	水	滋賀県レイカディア大学	水谷	21
3	13	木	東海シニア自然大学高等科	山川	30
3	15	土	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会	橋本	47
3	15	土	森林文化協会	芳賀	20
3	18	火	NHK文化センター 京都支社	桑原	29

(2) 地域での支援活動（講座、実習、ワークショップ、一般向け講義など）

月	日	曜日	依頼団体	担当者	人数
4	7	日	守山市教育委員会	楠岡	800
4	25	木	森林センター	池田	30
5	30	木	滋賀県レイカディア大学草津校	菅原	137
6	1	土	常世川再生の会	桑原	15
6	2	日	高島農業農村振興事務所	水谷	60
6	5	水	草津市立渋川小学校	池田	30
6	6	木	大津市立真野北小学校	池田	45
6	8	土	滋賀県農政水産部農村振興課	水谷	56
6	16	日	栗見出在家魚のゆりかご	水谷	50
6	18	火	大津市立逢坂小学校	松田	欠席
6	22	土	竹町のしぜんを守る会	水谷	25
6	24	月	草津市市民環境部環境課	大塚	51
6	25	火	縄文サロン	橋本	10
6	29	土	ニゴロブナフォーラム	大塚・金尾	80

月	日	曜日	依頼団体	担当者	人数
7	7	日	日本国際民間協力会 (NICCO)	大塚	15
7	20	土	滋賀県立安土城考古博物館	松田	70
7	20	土	京セラ 蒲生工場	楠岡	50
7	21	日	大塚町環境保全会	藤岡	70
7	22	月	NPO 法人 シニア自然大学校	桑原	29
7	23	火	NPO 法人 シニア自然大学校	桑原	52
7	29	月	滋賀県総合教育センター	加藤・池田	12
7	29	月	守山市下之郷史跡公園	中藤	20
7	31	水	7/11~7/31 標本貸出 南郷・荒井様	藤橋	30
8	1	木	草津市民環境部	林	18
8	1	木	NPO 法人 シニア自然大学校	桑原	52
8	2	金	守山市下之郷史跡公園	中藤	20
8	5	月	NPO 法人 シニア自然大学校	桑原	29
8	7	水	NPO 法人 シニア自然大学校	桑原	52
8	8	木	NPO 法人 シニア自然大学校	桑原	52
8	20	火	農政水産部 水産課長	菅原	24
8	21	水	農政水産部 水産課長	菅原	22
8	22	木	南丹市教育委員会	松田	20
8	28	水	草津税務署	用田	80
9	4	水	滋賀県立大津清陵高等学校 (昼間部)	菅原	12
9	18	水	大津市北部地域文化センター	橋本	107
10	11	金	大津市仰木の里東小学校	桑原	30
10	30	水	地球環境関西フォーラム	亀田	22
11	16	土	Bセンス・フォーラム	中井	10
11	23	土	米原市役所経済環境部環境保全課	桑原	47
11	26	火	米原市役所経済環境部環境保全課	桑原	47
1	8	水	口丹地区私立幼稚園協会	中藤	50
2	8	土	永源寺温泉	藤岡	40
3	1	土	県立図書館	藤岡	20
3	6	木	滋賀県農村振興課にぎわう農村推進室	水谷	20
3	9	日	滋賀県農村振興課	水谷・金尾	50
3	10	月	米原市役所経済環境部環境保全課	桑原	47
3	15	土	日本国際民間協力会 NICCO	大塚	9

### (3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

#### 1) 質問コーナー

開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、図書閲覧室の一角に「質問コーナー」を設置し、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーに学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることができることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。対応学芸職員が日替わりで担当し、当日展示室で行う「フロアトーク」の担当も兼ねている。担当学芸職員の前定

を博物館ホームページや図書閲覧室の入口壁に掲示し、専門分野の担当者がある日に質問ができるよう配慮している。質問には担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答している。質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

平成 25 年度には館内で質問コーナーの場所がわかりやすいように看板を設置した。

質問コーナーにおける質問受付数

期 間	2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日		
総質問数	945 件 ( 1,197 名 )		
質問形態	来訪による質問	829 件	その他による質問 116 件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@lbn.go.jp）を設定し、受付担当者が受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2013 年度は総数 89 件あった。

専門的な内容を含む質問 地学 6 生物 61 歴史・民俗 7 環境 5	79 件
施設利用や行事の問合せ・案内資料請求	4 件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	2 件
広報掲載依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	2 件
館の運営への提案・意見・問合せ	2 件

琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の活動の場づくりを応援した。

①環境学習に関する相談対応等

相談件数 249 件 教材貸出件数 80 件

②環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

アクセス数 198,187 件

③環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 計 21 回 登録者数 809 人

④ブース出展・発表等

4 月 1 日	「ルシオール アートキッズフェスティバル 2013」出展	守山市民ホール
4 月 29 日	「ラ・フォル・ジュルネ」出展	びわ湖ホール
7 月 20 日	「第 6 回水辺の匠交流会」出展	ウォーターステーション琵琶
7 月 28 日	「博物館夏祭り(お魚タッチプール)」出展	ビバシティ彦根
7 月 31 日	「滋賀県学校支援メニューフェア『しがまなび発見!』」出展	ピアザ淡海
8 月 6 日	「滋賀県学校支援メニューフェア『しがまなび発見!』」出展	文化産業交流会館
8 月 31 日	「第 4 回びわコミ会議 マザーレイクフォーラム」出展	コラボしが 21
9 月 12 日	「平成 25 年度立命館大学講義『国際環境政策論』発表	琵琶湖博物館

『環境学習センターの役割と取り組み』

11月23日	「第7回近畿「子どもの水辺」交流会」	出展	琵琶湖上
12月14・15日	「都環境教育フェスティバル」	出展	京都府総合見本市会館
2月1日	「草津市こども環境会議」	出展	草津市役所
2月7日	「しがこども体験学校実践交流会」		県庁
2月16日	「第7回淡海の川づくりフォーラム」	発表・出展	コラボしが21
3月1日	「第10回京都・環境教育ミーティング」	発表・出展	龍谷大学 深草キャンパス

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

地域団体等と協力して、環境活動を促進していくための活動交流会の場を設けた。

- ・「親子向け自然遊びの広場」（屋外展示、生活実験工房）

① 11月20日	2家族 5名	② 12月18日	4家族 8名
③ 1月15日	12家族 29名	④ 2月19日	18家族 39名
⑤ 3月19日	17家族 39名		

- ・「切り絵で遊ぼう！」（琵琶湖博物館水族展示、実習室2）

3月15日 2回実施 計9名参加

2) 博物館の夏祭り

県内の自然系博物館等と共同して、体験・工作コーナー、観察コーナー、展示などを実施し、環境や自然科学、歴史や民俗について関心を高める機会を設けた。

- ・7月28日 参加者 1,579名 於：ビバシティ彦根

3) こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。（県内会員数 124クラブ 計 5,407名）

- ・12月8日「淡海こどもエコクラブ活動交流会」 9クラブ 118名参加 琵琶湖博物館
  - ・3月23日「こどもエコクラブ全国フェスティバル2014」 早稲田大学(東京)
- 県代表 大津市子ども会ジュニアリーダークラブ KIDS (大津市)が参加



環境ほっとカフェ 「切り絵で遊ぼう -かっこいい魚のカタチ-」



博物館夏祭り 「お魚コーナー」

4) あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！

博物館の展示や様々な体験交流プログラム等を通じて、身近な自然や自分達の暮らしについて感じ考える機会として、7月5日・6日の2日間、朝から晩まで開館し、23プログラムの交流イベントを実施した。

はしかけグループ、フィールドレポーター、地域団体をはじめ2日間で6,000人を超える方が博物館を訪れ、体験イベントやコンサートに参加していた。



<来館者数>

( )は昨年度来館者数

	時間帯別		計
	9:30~17:00	17:00~21:00	
7月5日(金)	1,177名 (1,428)	654名 (723)	1,831名 (2,151)
7月6日(土)	3,024名 (2,368)	1,259名 (1,537)	4,283名 (3,905)
計	4,201名	1,913名	6,114名



夜のアトリウムコンサート



昼のアトリウムコンサート



せみとあそぼう



アトリウムでのフロアートーク



虹のレストラン出店風景



じっくり触って！骨骨並べて！



夜の水族展示



ヨシ紙でデデン太鼓を作ろう！



ホテルのおはなしと虫の工作

実施プログラム

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
7/5	<アトリウムコンサート1> 「風のささやき」	18:00-18:40	リコーダー 迫田浩一 パーカッション 中路友恵	アトリウム	
	<アトリウムコンサート2> 「魂を救ってくれる Jazz Blues ~!」	19:00-20:40	Yasu & Suso & Tae ギター 西村靖彦 ギター 須曾野 豊 電子ピアノ 河野多映 ジャズ・ポピュラ・ポップスのスタンダードを中心に3人の即興ライブ		
	フロアートーク	19:40-20:00	中井学芸員によるいろんな生き物のお話		
7/6	じっくり触って！骨骨並べて！	10:00-15:00	骨格標本に実際に触れてみたり、組立てたりして、骨の不思議についての紹介	アトリウム	ほねほねくらぶ
	<楽器づくりワークショップ> ○ヨシ紙でデデン太鼓を作ろう！	①11:00-11:50 ②12:00-12:50 ③14:00-14:50	ヨシ紙と大豆を使っでのデデン太鼓作り		大阪音楽大学 名誉教授・音楽博物館前館長 北山修氏監修

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
7/6	<楽器作りワークショップ> ○ヨシ笛づくり	15:00-16:00	1 オクターブの音階のあるヨシ笛作り		守山琵琶湖ヨシ笛アンサンブル
	<アトリウムコンサート 3> ヨシ笛コンサート	17:30-18:10	守山琵琶湖ヨシ笛アンサンブルによるヨシ笛演奏		
	<アトリウムコンサート 4> 「リコーダーとギターと打楽器によるサマーカーニバル」	18:30-20:20	リコーダー 北山 隆 ギター 増井一友 パーカッション 奥田有紀		
	フロアトーク 「七夕と星のお話」	18:40-18:55	藤橋学芸職員による今夜見える星と七夕のお話		
	フロアトーク 「夏祭りのお話」	19:30-19:45	大久保学芸員による夏のお祭りについてのお話		
	写真展 「からすま半島の生きものたち」	9:30-21:00	はしかけグループ温故写真の会員の企画展示「生きものがたり」に合わせた作品展示		温故写真
	びわたと絵本で楽しもう♪	①16:00-16:30 ②16:45-17:15 ③17:30-18:00	幼児から小学校低学年の子ども向けに、手遊びと絵本の読み聞かせ	図書室	びわたん
	富江家のくらし案内ツアー	①11:00-11:30 ②14:00-14:30	S30.5.10 彦根市本庄町の富江家のくらしについての紹介	C 展示室	近江昔くらし倶楽部
	「ホテルのおはなしと虫の工作」	①14:00-15:00 ②16:00-17:00	ホテルの紙芝居のお話を聞いてから虫の工作	会議室	ザ・ディスカバ はしかけ
	田んぼのエビ類の観察とペーパークラフト	①13:30-14:30 ②15:00-16:00	実体顕微鏡で田んぼにいる生きたエビを観察して、ペーパークラフトを作製	実習室1	田んぼの生き物調査グループ
	お魚のキーホルダーを作ろう	13:00-16:00	琵琶湖の魚を下絵としてお魚のキーホルダー作り	実習室2	うおの会
	せみと遊ぼう	13:00-15:00	せみの折り紙やペーパークラフト、標本観察と鳴き声あてクイズ	セミナー室	フィールドレポーター
	里山の木を使った名札づくり	13:00-16:00	生活実験工房周辺の木を使って、名札作り	生活実験工房	里山の会
	葉っぱで染めよう	13:00-15:00	生活実験工房で栽培している藍や紅花などを使って、てぬぐい染め		近江はたおり探検隊
森の中で簡単ハンモックづくり	①13:30-14:15 ②14:30-15:15 ③15:30-16:15	森の中で、ハンモックをつくってのんびりした時間を過ごす	屋外展示	里山の会	
星空観察会	19:00-20:30	土星がオレンジ色に明るく見える季節。望遠鏡で月や星たちの観察。宇宙や星についてのお話		ダイニックアストロパーク 天究会友の会	
夜の昆虫観察会	19:30-20:40	榊永学芸員、八尋学芸員と一緒に、ライトアップの仕掛けに集まる夜の昆虫観察			
<虹のレストラン>	11:00-19:00	おいしがうれしが特産マーケット！近江牛やピワマス、お米や地元野菜など、地域食材を活かした食べもの、飲み物、デザート等の販売・飲食コーナーの開催（14店舗出店）	正面玄関前		

## 5) 春のプレミアムレストラン

琵琶湖周辺の自然や暮らしについても思いを馳せながら、琵琶湖博物館の新たな魅力を知ってもらうため、琵琶湖博物館の空間を活かして特設限定プレミアムレストランを開設し、滋賀ならではの食材を活用して、豊かな自然環境と暮らしについて感じ考えるコース料理を提供した。また、コンサート、水族展示散策ツアーも実施した。

実施日時 3月14日（金）、15日（土） 19:00～21:00  
開催場所 アトリウム、水族展示棟  
来館者数 45組（90名） 3/14 24組（45名）、3/15 21組（45名）



知事と館長によるおもてなしの挨拶



会場全景



演奏風景



水族展示ミニツアー



## 情報発信活動

### (1) 地域発見！参加型移動博物館

この事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キット（12件）を、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

今年度は県外7件（兵庫1件、大阪2件、京都1件、東京3件）、県内10件の計17件の移動博物館を展開した。その中で、6月に参加した日本展示学会主催の「移動展示を考えるシンポジウム」では、博物館学における移動展示の展開の一例として当館の移動博物館を紹介し、その評価の方法で意見が交わされた。また、7月1日のびわ湖の日に、県環境政策課とともに県内中学校で初めて移動博物館を開催し、知事をむかえての琵琶湖環境学習が展開した。全体を通して、7月や9月に行った県外向けの滋賀・琵琶湖を売り出すブランド展（東京や大阪）など移動博物館の目的に一致したものや、びわ湖や淀川水系の市民団体による環境や学習をとなど、博物館単独事業で行うよりも、県関係機関あるいは地域団体との連携でイベントに参加するやり方が定着しつつある。

展示物に関しては、移動型展示キットも2年目をむかえ、修理や補修を行う必要がでてきている。今年度は「生命をはぐくむ水田」のタマミジンコの修繕からはじまり、同じく「生命をはぐくむ水田」の説明版を「水の中編」と「土の中編」にわけ、当初制作した展示キットを改良し、バージョンアップを図ることを行った。「空から見た琵琶湖」については、これまでの「琵琶湖版」から大阪湾から伊勢湾までの広域を網羅した「広域版」を改良追加し、移動博物館を展開する場所によって使い分けできるようにした。また、琵琶湖博物館のPRキットとして、「博物館へおいでよ」バナーキットを追加した。現在、展示キットは20項目21展示キットとなっている。

展示日	イベント名	展示場所
4月7・8日	ルシオールアート・キッズ・フェスティバス	守山市（立命館守山）
4月28・29日	ラ・フォル・ジュルネ	ピアザ淡海
6月15日	移動展示を考えるシンポジウム	兵庫県立人と自然の博物館
7月1日	びわ湖の日	大津市立瀬田北中学校
7月12日～14日	滋賀・琵琶湖ブランド展	新国立劇場

展示日	イベント名	展示場所
7月15日	びわ湖環境フェスタ2013	奥びわ湖スポーツの森
7月20・21日	水辺の匠	ウォーターステーション琵琶
7月31日	しが☆まなび☆発見	ピアザ淡海
8月 6日	しが☆まなび☆発見	滋賀県文化産業交流会館
8月23日～25日	滋賀ブランド	イオンモール草津
9月21日～25日	湖の恵み～滋賀・びわ湖ブランド展～	JR大阪駅時の広場
10月27日	遊びの宝島へGO!	大津市瀬田公園体育館・瀬田公園
10月30日	第3回淡海の人大交流会	品川プリンスホテル
12月 14・15日	京都環境フェスティバル2013	京都府総合見本市会館
2014年 2月10日～19日	琵琶湖歴史探検！～水が育んだ日本の歴史遺産～	ニッセイ・ライフプラザ丸の内 みらいフォレスト
2月15日～19日	第2回びわこ水産まつり	近鉄百貨店草津店
2月22日～3月2日	土曜サロン	滋賀県立図書館



湖の恵み～滋賀・びわ湖ブランド展～  
JR 大阪駅時の広場



琵琶湖歴史探検！～水が育んだ日本の歴史遺産～  
ニッセイ・ライフプラザ丸の内 みらいフォレスト

## (2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 2 回程度である。このほか、収蔵資料データベースや電子図鑑等、調べ物に使える情報も提供している。

平成 25 年度はウェブページの利用しやすさを向上させるために、利用情報のページを中心に、数次にわたってページデザインの変更や記述の整理を行なった。

平成 25 年度の利用状況は下表に示したとおりである。来館者数がピークとなる夏休み付近で利用が多く、来館者数が少ない冬季に利用が少ない傾向が見られる。

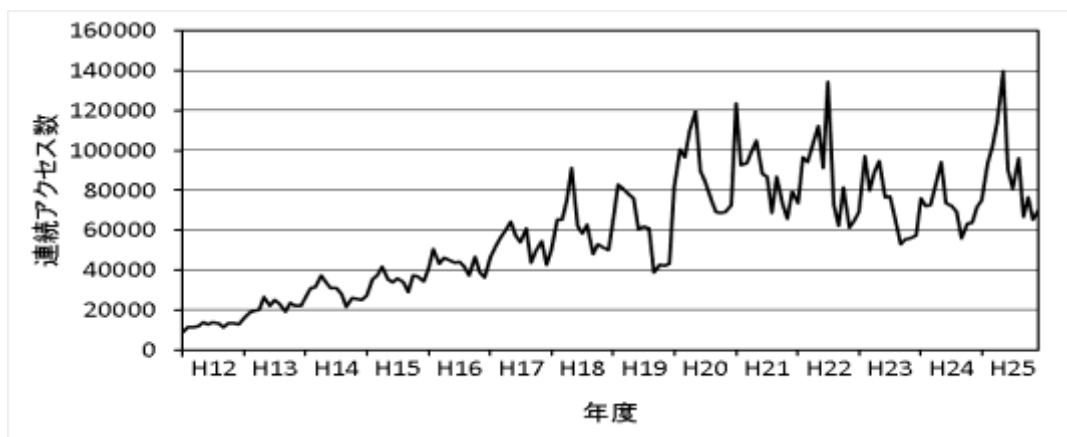
過年度の状況と比較するため、延べ利用者数の近似値である連続アクセス数の経年変化のグラフを示した。平成 23・24 年度は利用者数が減少していたが、平成 25 年度は平成 21～22 年度のレベルに回復した。ただし、現在のアクセスログ解析では巡回ロボットページを除去できていない。より正確な動向の把握のためには新たな解析方法の導入が必要であり目下検討中である。

データベースデータの閲覧件数は前年度に比べ 25% のマイナスとなった。原因は調査中である。

インターネットページへのアクセス件数

	連続アクセス (延べ利用者数の近似値)	ページヒット数 (閲覧ページ総数)	表紙アクセス (表紙閲覧回数)	データベース データ閲覧件数
4月	75,007	272,830	16,245	3,761
5月	93,836	303,643	18,332	6,565
6月	101,805	309,239	17,253	5,413
7月	114,266	351,588	24,638	3,748
8月	139,791	392,431	29,766	8,020
9月	90,038	311,639	19,357	3,749
10月	80,999	302,508	17,498	6,467
11月	96,224	359,773	16,518	3,179
12月	66,802	267,119	14,687	4,372
1月	76,470	285,664	18,182	3,327
2月	65,260	272,518	16,536	2,680
3月	70,726	258,912	20,751	3,530
合計	1,071,224	3,687,864	229,763	54,811

注：アクセス解析は当館のウェブサーバ上に記録したアクセスログを用いて行なった  
館内からのアクセスは解析の前に通り除いてあり、上記の結果は館外からのアクセスである  
ただし、ウェブ上を巡回するロボットページは除外していない  
連続アクセス数（延べ利用者数の近似値）：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合  
わせて1件と数えた場合のアクセス件数  
ページヒット数（閲覧ページ総数）：各ページの定義ファイルに対する要求件数  
表紙アクセス数：トップページの閲覧回数  
データベースデータ閲覧件数：データベースの各データページの閲覧回数



(3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
琵琶湖博物館要覧	A4	37	500
琵琶湖博物館ガイド(中国語版)	A4	16	4,000
企画展示「生きものがたり」展示解説書	A4	59	1,500
企画展示「生きものがたり」ポスター	A1		1,000
企画展示「生きものがたり」チラシ	A4		30,000
ギャラリー展示「ボーンコレクターズ」 チラシ	A4		10,000
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ チラシ	A4		30,000

品名	サイズ	ページ数	発行部数
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ プログラム	B5		10,000
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ コンサート案内チラシ	A4		1,500
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ 来館者アンケート用紙	A4		10,000
春のプレミアムレストラン チラシ	A4		3,500
平成 25 年度新琵琶湖学セミナー チラシ	A4		1,500
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ秋冬号	A4		8,000
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ 2014 春夏号	A4		20,000
びわ博だより 第 13 号	A4	4	8,000
びわ博だより 第 14 号	A4	4	8,000
びわ博だより 第 15 号	A4	4	8,000
びわ博だより 第 16 号	A4	4	8,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ 2013 年度追加分	A4		10,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2014	A1		2,500
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ 2014	A4		200,000

## Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

### 新琵琶湖博物館の創造

滋賀県立琵琶湖博物館（以下、琵琶湖博物館）は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んでいるところである。

開館以来16年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいることから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館には求められている。そのため、2012年度に、館内に新琵琶湖博物館創造準備室を設置し、新たな博物館の提示・展開のあり方や必要な整備の方針等について検討を行い、展示・交流空間の再構築を行うこととし、その方向性を「新琵琶湖博物館創造ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）としてまとめた。2013年度は、このビジョンを踏まえて「新琵琶湖博物館創造基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定した。策定にあたっては、2012年度に引き続いて、琵琶湖博物館協議会、また内外の関係者や広く県民一般との県民ワークショップ、外部有識者による新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議の結果を十分検討し、反映に努めた。

#### (1) 滋賀県議会環境・農水常任委員会への報告

滋賀県議会環境・農水常任委員会で検討いただいた。

2013年5月15日・11月13日・12月16日・2014年3月12日

#### (2) 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議の開催

有識者による、専門的・具体的検討のための検討会議を開催した。

①第1回	2013年6月20日	ビジョンと基本計画策定に向けて
②第2回	2013年8月1日・7日	現地視察、現状の議論
③第2-2回	2013年8月11日	ICT（情報通信技術）について
④第3回	2013年9月13日	中間とりまとめに向けた検討
⑤第4回	2013年12月22日	基本計画素案についての検討
⑥第5回	2014年2月25日	基本計画案についての検討
⑦第5-2回	2014年3月27日	ICT（情報通信技術）について

#### (3) 県民ワークショップの開催

「明日の琵琶湖博物館をみんなで語ろう」平成26年2月8日 参加者：42名

#### (4) アンケート・意見聴取の実施

○来館者アンケートや企業、大学生等にリニューアルに関するアンケートを実施した。

○広報アドバイザー、旅行社等から意見を聴取した。

#### (5) 「新琵琶湖博物館創造基本計画」の策定

琵琶湖博物館の『地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いていく』という使命を

達成するためには、「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動し、人づくりに貢献する博物館として、過去・現在・未来をとらえなおし、「湖と人間」の共存のあり方を新しい常設展示で提示していく必要があり、また、交流の場としての博物館から、地域での実践・行動を担う人が育つ博物館へと進化していく必要がある。

展示交流空間の再構築を通じてより多くの人びとに琵琶湖博物館を利用していただくことにより、地域の人びとの一人ひとりの心に「種子、挿し木、幼木」を渡していく博物館、親木となる博物館をめざす。そして、将来あるべき姿として、琵琶湖とその集水域および淀川流域の自然・歴史・暮らしへの理解が深まり、地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いた社会の実現、言わば『湖をめぐる博物館の「森」の誕生』をめざしていく。

琵琶湖博物館が、環境先進地域「関西」をリードする環境学習と情報の収集・発信の拠点として、また、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れた研究・交流のネットワーク施設としてその使命を果たすとともに、より多くの人びとに利用していただくことをめざし、「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定した。



## Ⅲ 環境の整備

### 1 拠点としての施設整備

#### (1) 利用者用施設の整備

経年に伴う社会情勢の変化や劣化により、改修が必要となった表示板や案内看板の現状確認を行い、より適切でわかりやすい内容や表示への更新を行った。

また、管内設備についても、利用者の利便性が図れるよう随時必要な修繕・更新を行った。

#### (2) 情報システムの整備

2012年に中枢機器の全面更新を行ったが、今年度は端末機器の更新を行った。

##### 1) 端末機器の更新

館職員が使用しているパソコン、プリンター等は5年契約のリースで調達している2014年4月9日にウィンドウズXPおよびMicrosoft Office 2003のサポートが終了し、以後の安全性が保障されなくなることから、2014年度はウィンドウズXP搭載機の全面入れ替えを行う予定である。2013年度の新規導入機器は次の通りである。

ノート型パソコン（ウィンドウズ7）	20台
デスクトップ型パソコン（ウィンドウズ7）	2台
カラーレーザープリンター	1台

#### (3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを年数回実施している。アンケートの実施は平日と休日を含む3日間連続で行い、観覧券発売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布し、また、アトリウムと玄関横の2カ所に記入用紙と回収箱を設置した。調査内容は来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式13項目、記述式2項目の全15項目からなる。設問の来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。

##### 1) 実績

今年度は2回、実施した。

第1回 2013年8月23日（金）～25日（日） 回答数 198件

第2回 2014年3月21日（金）～23日（日） 回答数 195件

##### 2) 結果

来館回数：例年と変わらない傾向をもち、「はじめて」の割合が44.9%、51.3%であり、「4回以上」の割合が30%弱であった。

情報源：来館のきっかけは例年同様に友人・知人、家族・親戚による口コミが39.7%と多かった。県や市町村の広報誌のほか、インターネット情報や旅行ガイドブックに情報が掲載されると効果がある。移動博物館は予想以上に低い。

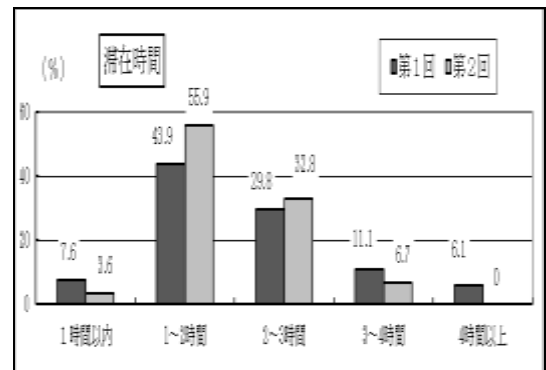
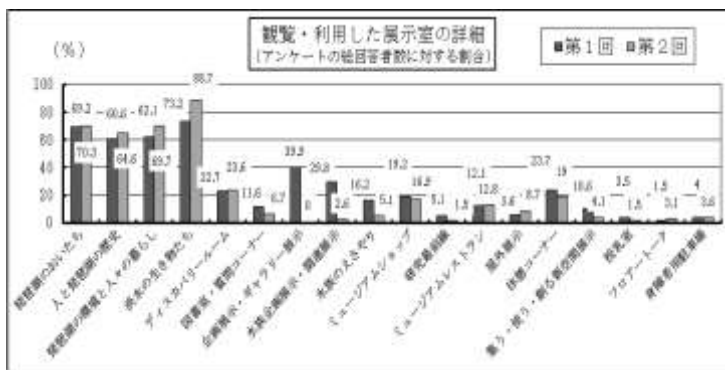
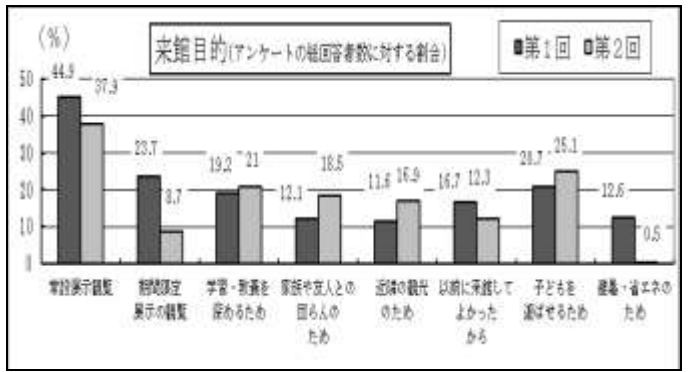
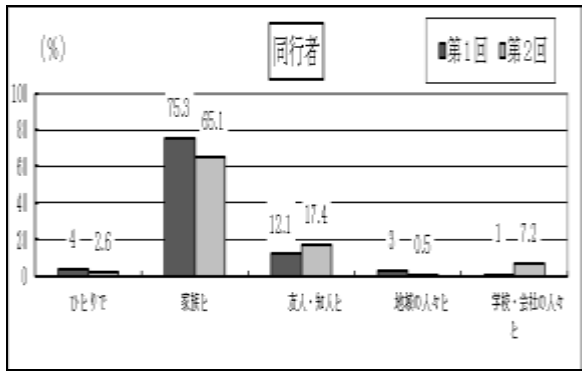
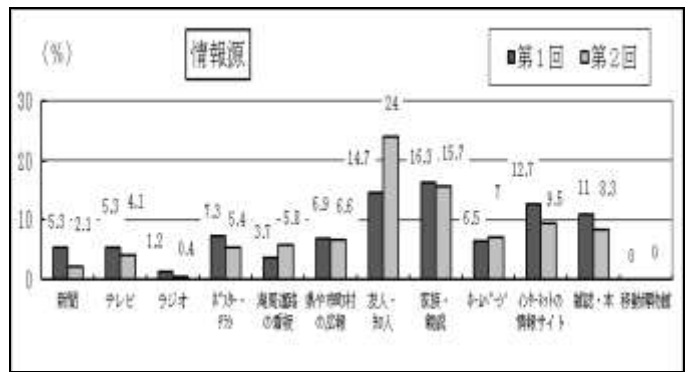
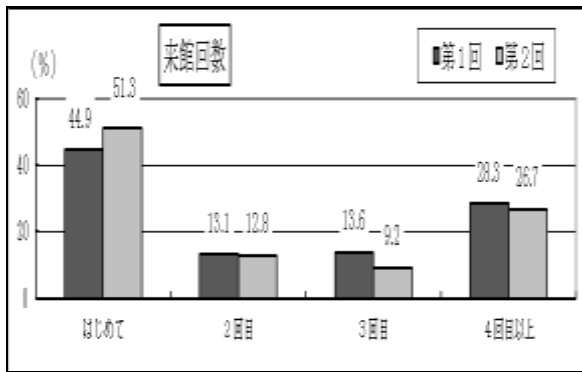
同行者・来館目的・滞在時間：常設展示を家族や友人と団らんとして活用する傾向をもつ。8月の調査では避暑・省エネ12.6%と例年通りで多く、節電クールライフキャンペーンの効果がみられる。また、学習や教養よりも子どもを遊ばせる場所として捉えられており、2-3時間より1-2時間と滞在時間が短くなってきている。

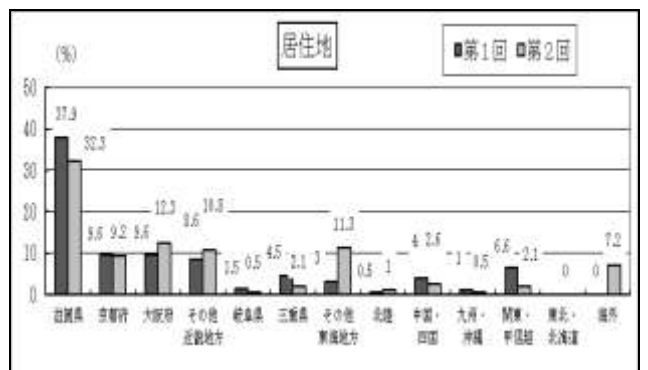
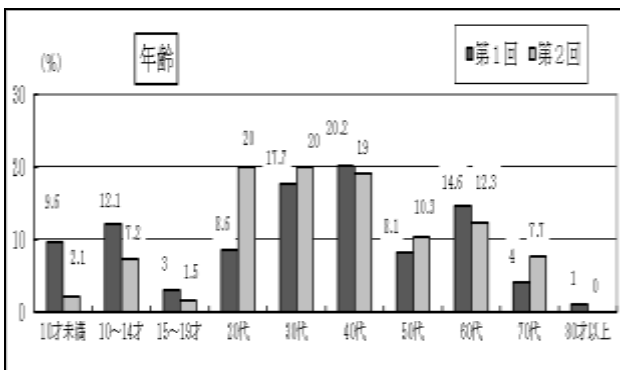
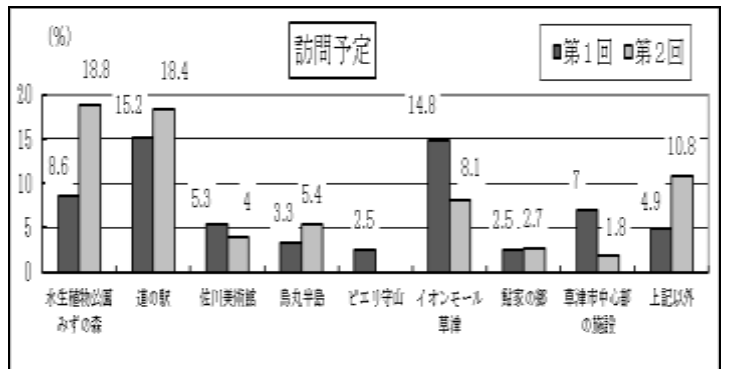
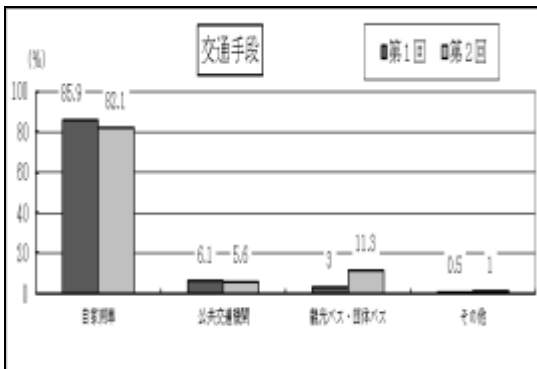
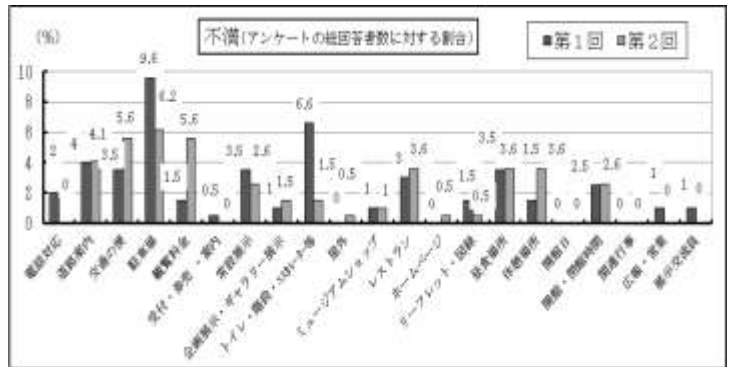
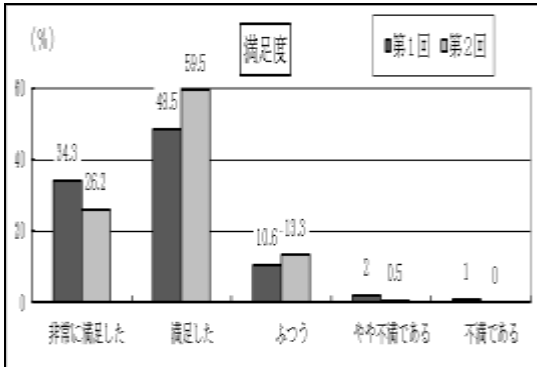
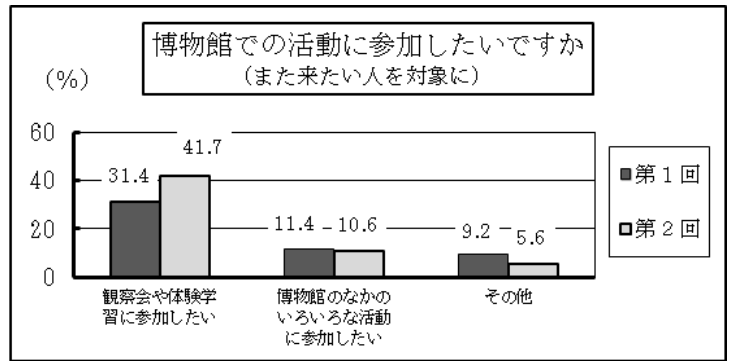
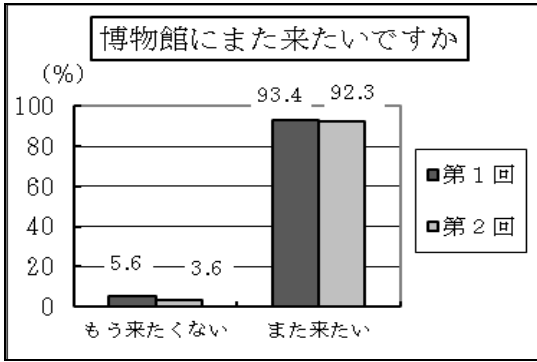
満足度：「非常に満足した」と「満足した」を合わせると82.8～85.7%の満足度を示しており、過去7年間80%以上の数値を保っている。「また来たい」が92.3～93.4%と例年並みの回答があり、博物館への期待が持続している。

不満：例年変わらず、不満対象としてあげられるのが駐車場6.2～9.6%、交通の便3.5～5.6%、道路案内4.0～4.1%、昼食場所、休憩場所、レストランが1.5～3.6%と高い割合をもつ。トイレ・階段・エスカレーター等も1.5～6.6%と高く、汚れや異臭など施設面での改善が求められる。また、観覧料金1.5～5.6%と高い割合が示されていることも注視すべきことである。

来館者：年齢別では20代～40代が中心で70%前後が家族と同行しているおり、これまでと同様に家族・親子での来館が多い結果となっている。住居地は例年同様に約3割強が滋賀県内である。昨年8月は節電クールライフキャンペーンの影響で50%を越える県民利用が見られたが、今年は37.9%の割合であった。

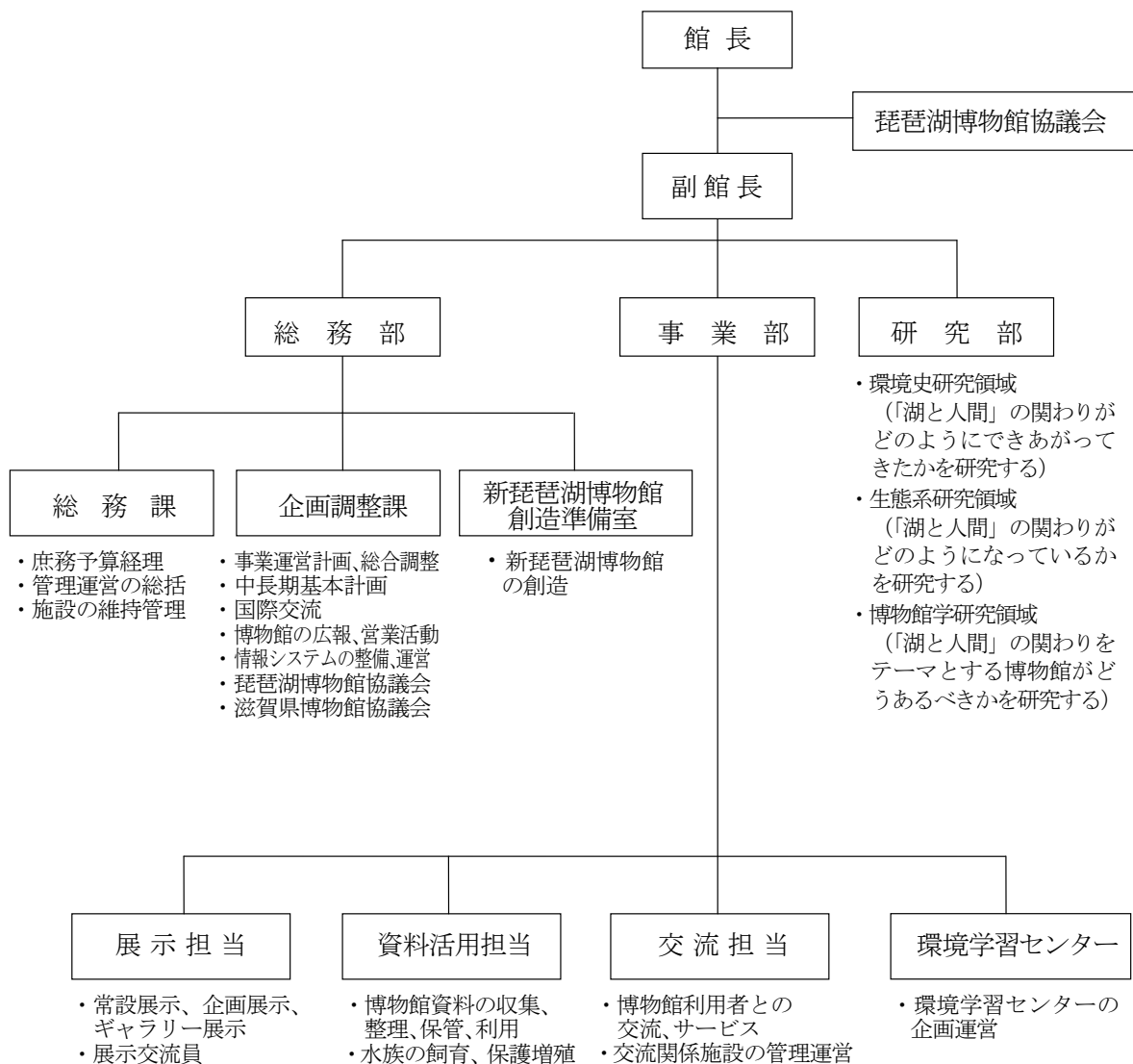
(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)





## 2 柔軟な運営組織

### (1) 組織



職員構成 (2013年10月1日現在；兼務・併任職員を含む)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	12	31	2	46	15	61

(2) 職員

(2013年10月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 中鹿 哲
- 主席参事 藤村 俊樹
- 上席総括研究員 藤岡 康弘
- 上席総括学芸員 用田 政晴
- 上席総括学芸員 高橋 啓一
- 上席総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー

総務部

○部長(事務取扱) 中鹿 哲

◇ 総務課

- 課長 田中 寿樹
- 課長補佐(兼) 森 俊彦
- 主幹 小島 和久
- 副主幹 清水 勝
- 副主幹 松井 智
- 主査 池本 佳子
- 主事 南 祐貴子

◇ 新琵琶湖博物館創造準備室

- 室長(兼) 藤村 俊樹
- 室長補佐 廣瀬 淳子
- 主幹(兼) 松本 寛
- (兼) 里口 保文
- (兼) 榊永 一宏
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 大久保実香

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 藤村 俊樹
- (兼) 山川千代美
- 課長補佐 森 俊彦
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 里口 保文
- (兼) 榊永 一宏
- (兼) 菅原 和宏
- (兼) 楊 平

事業部

○部長(兼) 松田 征也

◇ 展示担当

- GL(兼) 亀田佳代子
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス
- (兼) 澤邊久美子

◇ 資料活用担当

- GL(兼) 戸田 孝
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 金尾 滋文
- (兼) 大久保実香

◇ 交流担当

- GL(兼) 楠岡 泰
- 主任主事(併任) 藤橋 和弘
- 主任主事(併任) 蜂屋 正雄
- (兼) 安福 俊幸
- (兼) 水谷 智
- (兼) 井関 明子
- (兼) 老 文子
- (兼) 林 竜馬

環境学習センター

- 所長(事務取扱) 桑原 雅之
- 副参事 加藤 理

## 研 究 部

○部長（兼） 八尋 克郎

◇ 環境史研究担当

GL 総括学芸員 山川千代美  
 専門学芸員 里口 保文  
 主任学芸員 橋本 道範  
 学芸員 楊 平  
 学芸員 老 文子  
 主査（兼） 井関 明子  
 学芸技師 林 竜馬  
 学芸員 大久保実香

◇ 博物館学研究担当

GL 専門学芸員 大塚 泰介  
 専門学芸員 戸田 孝  
 主任学芸員 芦谷美奈子  
 主任学芸員 中藤 容子  
 学芸員 金尾 滋史  
 学芸員 澤邊久美子  
 （兼） 藤橋 和弘  
 （兼） 蜂屋 正雄

◇ 生態系研究担当

総括学芸員 松田 征也  
 総括学芸員 桑原 雅之  
 総括学芸員 八尋 克郎  
 専門員（兼） 安福 俊幸  
 専門学芸員 亀田佳代子  
 GL 専門学芸員 芳賀 裕樹  
 専門員（兼） 水谷 智  
 専門学芸員 草加 伸吾  
 専門学芸員 楠岡 泰  
 専門学芸員 中井 克樹  
 専門学芸員 榎永 一宏  
 主任学芸員 ロビン・ジェームス・スミス  
 主査 菅原 和宏

注) GL はグループリーダーを示す

## 嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	渡邊 潤子	資料標本整理
寺西 貞夫	広報・集客	宮本 知子	資料標本整理
中川 優	屋外展示運営	小嶋 陽太	交流事業
片淵 綾香	展示室運営	黄瀬 金司	学校学習
森 智美	展示室運営	高木 成美	図書資料整理
高石 清治	展示物維持補修	池田 勝	環境学習
吉崎 早苗	資料標本整理	布川 恵理	環境学習
秋山 廣光	資料標本整理	深田 元子	交流事業

## 特別研究員

朱 偉	北村 美香	柏尾 珠紀	舟尾 俊範	鈴木 隆仁	天野 一葉	黒岩 啓子
林 博通	植田 文雄	辻川 智代	中野 聰志	中野 正俊	太田 悠造	布谷 知夫
川那部浩哉	中島 経夫	前畑 政善				

## フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター

青山 喜博	浅井 良英	井野 勝行	乾 明美	梅村 元成	大西マサ子	大橋 義孝
奥村 恵子	奥村恵津子	角井 俊明	勝見 政之	椛島 昭紘	北側 忠次	京 美季男
久保 和友	口分田政博	小林 隆夫	笹井まち子	杉江ミサ子	多胡 好武	田中 昭一
棚橋 香織	谷村 啓子	津田久美子	土田 正文	中川 徳司	中島いづみ	中田 千佳
中田彩季波	中田 暁輔	中田 泰輔	中村 公一	野間 孝男	野間 鉄夫	端 久雄
橋本 利衛	筈井美智子	平井 政一	福岡 敏雄	古谷 善彦	保科 秀行	保科 雅子

保科 政秀	保科 明俊	前田 雅子	松浦すみ江	松本偉之助	松本 勉	水相 修躬
村上 靖昭	村野 やえ	安井加奈恵	山川 栄樹	山川 侑夏	山崎 千晶	山本 篤

◇はしかけ

愛須美由起	青山 喜博	秋山 茂也	芦田 弘美	東 まち子	穴蔵 雅彦	荒井 紀子
有田 重彦	安 翔大	安 炳文	安藤 周司	飯住 達也	石井 千津	石川 雅量
石角江里佳	石橋 昂大	石橋 英洋	石橋 要一	石丸 真菜	一木 彰	一色 厚志
居藤 恭吾	今井 洋	今枝 直樹	岩菅健太郎	岩菅 文予	岩西紗江子	上田 修三
上田 康之	宇尾 数行	梅村 元成	榎本 真司	遠藤 浩子	老 晴江	大菅 勝之
太田 文恵	大西 大輝	大西 敦士	大西 優羽	大西由紀子	大橋惣兵衛	大橋 洋
大橋 正敏	大依 久人	岡田さゆり	岡田 有矢	小川 雅広	小川 由佳	奥平 智博
小野 麻代	小野 元嗣	小野 悠斗	尾原 直行	角藤 将翔	片岡 庄一	片山 慈敏
片山 康夫	加藤美由紀	椛島 昭紘	綺田万紀子	神谷 悦子	河崎 凱三	川瀬 成吾
河田 航路	川田 裕元	河野小夜子	川南 仁	北川 幸一	北田 稔	北村 美香
木下多津江	木原 靖郎	木村 恵子	木村 美枝	木本 裕也	久保 玲子	熊谷 明生
熊谷 明美	倉田 忠彦	倉田 英恵	桑垣 瑞	桑田 向陽	國分 政子	小坂 育子
小谷 秋穂	小谷 朝日	小谷 伊吹	小谷 宰丈	小谷 菜々	後藤 真吾	小林 隆夫
小牟田敦子	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	斉藤 禎量	坂本 大介	佐々木亜弥子	佐々木信幸
佐々木則子	佐々木満保	佐々木幹朗	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐瀬 章男	笹生 正則
佐藤 洗介	佐藤 竣亮	佐藤 望	佐藤 義信	佐橋 保司	澤田 一弥	澤田 佳奈
澤田 知之	芝崎美世子	四畑 吉規	嶋村のぞみ	菅原 和博	杉山 國雄	鈴木 直子
大工 信隆	高田 正一	高田 昌彦	高原 正成	高村 洋子	高山 博好	田口 悠平
武田 繁	武田 広志	竹谷 満弘	竹元 冴矢	多胡 亮	多胡 好武	田坂 昭夫
田坂昂太郎	田坂早和子	田坂颯右介	立川 直樹	立石 文代	田所 孝子	田中 駿
田中 崇文	田中 智瑛	田中 治男	田中 雅也	田邊 穰	谷口 雅之	辻川 智代
津田 國史	津田久美子	寺尾 尚純	手良村昭子	手良村知功	手良村知央	徳田 隆博
徳永 成美	徳永 義利	戸田 歌子	戸田 博通	富 小由紀	富田久仁枝	中井 大介
中尾 京子	中尾 博行	長澤 京子	中田彩季波	中田 暁輔	中田 泰輔	中田 千佳
中西 寛子	中野 光議	中村 章子	中村 公一	中村 重信	中村 聡一	中山 法子
納屋内高史	奈良 翔平	西川 美喜	西崎嘉代子	西塚 由美	西村 有巧	西村 義隆
野々村誠一	野間 孝男	野村 昭夫	橋本 昭也	服部 彩乃	服部 隆義	服部 雅也
馬場 喜滉	土生 陽子	浜地トミ子	林 克子	原 啓子	肥田 嘉文	人見 幸恵
人見 竜樹	日比野愛子	肥山 陽子	平尾 武	廣瀬 範香	廣田 昌昭	福岡 敏雄
福永 和馬	藤井 晴美	藤井 優香	藤本 昭義	別所かおる	別所 宏二	堀 千重子
堀田 修身	堀田 博美	本田 英樹	前田 博美	前田 雅子	前畑 政善	松田 道一
松本 勉	丸尾 秀幸	丸尾 雅啓	水戸 涼乃	水戸 基博	水戸 涼介	南 和美
三村 武士	三宅 もえ	宮本 直興	村上美恵子	村上 靖昭	村田 博之	村野 やえ
村山 晃彦	村山 和夫	森 擴之	森野 泰行	安井加奈恵	安原 輝	柳内 由貴
柳原 徳子	矢野 修	矢野としこ	八尋 由佳	山川 茜	山川 栄樹	山川 和馬
山川佳那子	山川 侑夏	山口 幸江	山崎 千晶	山崎 三洋	山下 悟	山田 恵美
山田 和毅	山田 正樹	山中 裕子	山本皓一郎	山本つや子	山本 徹	山本 藤樹
山本 道子	吉井 隆	吉井 利典	吉田 達矢	吉野 彰一	吉野千栄子	米田 一紀
和田めぐみ	和田 至博	渡邊 和彦	渡辺圭一郎			

### 3 社会的支援と新しい経営

#### (1) 利用状況 (2013年度入館者数)

2013年度の来館者数は、36万8,210人となり、前年度と比べると5千人あまり増加した。来館者の状況を2012年度と比べると、有料/無料の別では、有料入館者数が増加し、個人/団体の別では、個人・団体とも増加した。また、未就学児/小学生・中学生/高校生・大学生/一般の別では、一般のみが減少している。月別でみると、年度当初の4月、5月は前年度を下回ったが、7月から開催された企画展示が好評であったこともあり、その後は増加に転じ、最終的には5千人を超える増加となった。

#### 1) 総入館者数

期 間：2013年4月1日～2014年3月31日

合 計：368,210人

開館日数： 310日

一日平均： 1,188人

月 平均： 30,684人

入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	42,065	20,630	62,695	17.0
小学生・中学生	43,449	62,552	106,001	28.8
高校生・大学生	4,636	5,303	9,939	2.7
一般	164,910	24,665	189,575	51.5
合 計	255,060	113,150	368,210	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)								総計(人)	一日当たり平均(人)	
		一般	高大学生	小中学生 (企画展)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあい サンデー等	体験学習	こどもの日	学校行事	小中学生 (常設展)	その他			無料計
2013.4	27	8,481	1,391	0	9,872	599	480	981	1	0	251	6,018	5,033	13,363	23,235	861
5	28	11,654	1,014	0	12,668	841	940	866	0	789	347	12,876	5,763	22,422	35,090	1,253
6	26	8,985	638	0	9,623	649	944	944	0	0	137	8,886	4,332	15,892	25,515	981
7	29	12,583	516	2,071	15,170	605	1,113	6,308	0	0	228	8,146	12,446	28,846	44,016	1,518
8	30	22,055	1,281	5,686	29,022	770	1,549	18,488	2	0	432	14,757	14,953	50,951	79,973	2,666
9	23	12,183	851	1,544	14,578	494	1,286	1,140	2	0	1,151	5,185	4,827	14,085	28,663	1,246
10	28	10,619	764	2,946	14,329	627	1,342	893	1	0	5,150	8,623	5,179	21,815	36,144	1,291
11	27	9,590	517	2,129	12,236	657	927	0	5	0	2,351	5,078	7,591	16,609	28,845	1,068
12	20	3,906	375	0	4,281	194	378	484	1	0	56	2,413	3,016	6,542	10,823	541
2014.1	21	5,807	373	0	6,180	499	387	402	1	0	30	2,772	3,699	7,790	13,970	665
2	24	6,116	322	0	6,438	417	529	971	1	0	102	4,029	4,044	10,093	16,531	689
3	27	10,238	776	0	11,014	872	1,084	868	1	0	0	4,413	7,153	14,391	25,405	941
計	310	122,217	8,818	14,376	145,411	7,224	10,959	32,345	15	789	10,235	83,196	78,036	222,799	368,210	1,188

\*家族ふれあいサンデー等：節電クールライフキャンペーン等による無料入場者を含む



2) 学校等入館者数

年 月	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計		
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	
4	全 体	14	1,426	14	1,460	4	967	1	27	4	414	37	4,294
	県 内	0	0	3	255	1	209	1	27	0	0	5	491
5	全 体	43	3,929	39	6,213	5	977	3	48	4	89	94	11,256
	県 内	5	324	1	42	1	281	2	33	1	38	10	718
6	全 体	40	2,930	32	4,136	3	106	4	99	4	164	83	7,435
	県 内	17	1,077	4	545	0	0	2	35	1	20	24	1,677
7	全 体	12	850	15	1,337	4	139	1	34	3	130	35	2,490
	県 内	1	12	3	323	3	99	0	0	1	109	8	543
8	全 体	0	0	5	289	9	541	0	0	4	124	18	954
	県 内	0	0	1	39	4	173	0	0	0	0	5	212
9	全 体	28	2,256	3	308	3	167	2	21	8	274	44	3,026
	県 内	14	963	0	0	3	167	2	21	1	41	20	1,192
10	全 体	165	12,552	6	599	4	341	5	90	4	161	184	13,743
	県 内	73	4,817	2	320	0	0	2	11	0	0	77	5,148
11	全 体	56	4,896	7	1,057	3	82	6	136	1	41	73	6,212
	県 内	30	2,356	4	116	2	46	4	83	0	0	40	2,601
12	全 体	14	1,016	3	504	3	81	1	22	2	81	23	1,704
	県 内	8	529	1	138	1	9	0	0	0	0	10	676
2014.1	全 体	10	766	1	11	1	29	0	0	2	139	14	945
	県 内	6	460	1	11	0	0	0	0	2	139	9	610
2	全 体	27	2,006	3	228	0	0	2	63	0	0	32	2,297
	県 内	16	1,124	2	160	0	0	2	63	0	0	20	1,347
3	全 体	3	152	3	172	1	156	0	0	1	20	8	500
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	全 体	412	32,779	131	16,314	40	3,586	25	540	37	1,637	645	54,856
	県 内	170	11,662	22	1,949	15	984	15	273	6	347	228	15,215

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2013.4	9,078	3,304	10,853	23,235
5	16,171	3,639	15,280	35,090
6	8,870	6,224	10,421	25,515
7	13,385	8,592	22,039	44,016
8	12,545	11,035	56,393	79,973
9	16,013	4,604	8,046	28,663
10	9,094	4,343	22,707	36,144
11	12,006	3,682	13,157	28,845
12	5,573	1,770	3,480	10,823
2014.1	6,752	3,347	3,871	13,970
2	8,302	3,007	5,222	16,531
3	10,521	5,256	9,628	25,405
計	128,310	58,803	181,097	368,210
構成割合	34.8%	16.0%	49.2%	100.0%

## (2) 広報活動

開館17年が経過し、入館者数も36万台へと減少しており、琵琶湖博物館の認知度が薄れてきた傾向が見られる。口コミによる認知度をあげる方法にも限界があり、有料広告や資料提供等を通じて多くの話題をメディアに提供して取り上げてもらうことで、広域に認知度をあげる広報活動を行ってきた。広告掲載10件、ラジオ広報2件、資料提供43件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ70件、新聞掲載250件、雑誌等掲載99件に取り上げられた。

### 1) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
2013年 6月	夏休みファミリーレジャー ガイド名古屋東海版	AB版カラー	1/2	東海	20万部
6月	Gocli (ゴクリ) 7月号僕たちの夏休み	B4タブロイド版	125×60mm	近畿+中国・四国の一部	6~8万部
8月	秋びあ関西版	A4版	1/4	関西・全国コンビニ等	8万部
9月	さんぽ旅関西版	AB版	1/4	関西・全国コンビニ等	7万部
11月	Gocli (ゴクリ) 11月号秋旅びわ湖	B4タブロイド版	125×60mm	近畿+中国・四国の一部	6~8万部
11月	Meets別冊よくばり旅	AB版	1/4	全国	12万部
2014年 1月	いきいき近江(滋賀県老人 クラブ連合会)	B4タブロイド版	1/8	滋賀県内	7万部
1月	るるぶ滋賀びわ湖	AB版	1/8	全国	10.8万部
2月	るるぶこどもとあそぼう名 古屋東海版	AB版	1/8	東海	11.7万部
3月	おでかけドライブ中部版	AB版	1/3	東海	6.4万部

### 2) ラジオ広報

時期	広報媒体	体裁	スペース	地域
8月	KBS 京都ラジオ	スポット、中継	各5分程度	近畿二府四県
9月	KBS 京都ラジオ	スポット、中継	各6分程度	近畿二府四県

### 3) 資料提供

提供日	件名
4月16日	トピック展示「天皇が記録した災害ー花園天皇の日記からー」を開催します
4月16日	琵琶湖博物館研究調査報告書の一部の号をインターネットページで公開しました
5月2日	ゴールデンウィーク・スペシャルイベント 『からすま半島スタンプラリー』を開催します!
5月21日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族トピック展示 ビワオオウズムシを初めて展示します!
5月30日	滋賀の田んぼに潜む巨大ミミズの参加型調査 『湖国ハッタミミズ・ダービー』を開催します!
6月6日	滋賀県内の「カタツムリ調査」への参加者募集!!
6月18日	滋賀県立琵琶湖博物館 「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」を開催します
6月20日	水族トピック展示 絶滅危惧種「イチモンジタナゴの稚魚」を展示します
6月26日	<環境政策課・琵琶湖博物館> 学芸員嘉田知事が琵琶湖の秘密や不思議を解説します!! 「移動博物館」 in 瀬田北中学校～「びわ湖の日」に嘉田知事とともに～

提供日	件名
7月 9日	滋賀県立琵琶湖博物館 第26回水族企画展示 水中の忍者たち～滋賀の水生昆虫～ を開催します
7月 9日	水族トピック展示 絶滅危惧種「カゼトゲタナゴの稚魚」を展示します
7月 16日	滋賀県立琵琶湖博物館 第21回企画展示 生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー を開催します
8月 2日	滋賀県立琵琶湖博物館 長期展示日本記録を大幅更新中！ 淡水に生息する珍しいクラゲ「マミズクラゲ」展示開始から1周年を迎えます
8月 6日	水族トピック展示 天然記念物「アユモドキ」の幼魚を展示します
8月 20日	2013年度 新琵琶湖学セミナー 「湖国、世界から学ぶ生物多様性」を開催します
8月 27日	滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の来場者数が3万人を突破しました！！
9月 6日	水族トピック展示 絶滅危惧種「ニッポンバラタナゴ」の稚魚を展示します
9月 6日	滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖で捕れた巨大ニホンウナギを展示します
9月 18日	株式会社ダイフクからの寄附目録贈呈式について
9月 24日	株式会社ダイフクからの寄附目録贈呈式について
10月 1日	水族トピック展示 絶滅危惧種「スイゲンゼニタナゴ」を展示します
10月 23日	滋賀県立琵琶湖博物館 西日本初！幻の魚「クニマス」を展示します
10月 24日	平成25年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
11月 14日	琵琶湖博物館 環境学習センター 「ちっちゃな子どもの自然遊び」の広場づくりを始めます！
11月 26日	湖南省博物館と琵琶湖博物館との連携協力に関する協定調印式について
12月 4日	琵琶湖博物館 環境学習センター “淡海こどもエコクラブ活動交流会”の開催
12月 12日	滋賀県立琵琶湖博物館 「第4回琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催します
12月 19日	巡回展 「アケボノゾウ発掘から20年 -新たな発見を求めて-」を開催します
12月 19日	新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議を開催します
1月 15日	県内で100種目のトンボが発見されました
1月 15日	オオサンショウウオの身体測定を行います
1月 16日	琵琶湖博物館リニューアル県民ワークショップ 参加者(1日モニター)を募集します
1月 31日	琵琶湖博物館が所蔵する「重要文化財 東寺文書」3点を展示します
2月 10日	水族トピック展示 琵琶湖固有種「アナンデールヨコエビ」を展示します
2月 14日	琵琶湖博物館 第2回水族バックヤード探検を開催します
2月 14日	旬のさかなたち「ヒワラ(寒鮒)」を展示します
2月 14日	日中共同博物館・大学講演会 『魚(ぎょ)米(まい)之(の)郷(さと)を語るー太湖・洞庭湖の水辺の暮らしー』の開催
2月 21日	琵琶湖博物館 「びわ博 春のプレミアムレストラン」開催！

提供日	件名
2月21日	平成25年度第2回 滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
2月21日	新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議を開催します
3月6日	「私の自宅は博物館 ー西川嘉廣さんとヨシ博物館ー」の展示と交流会を開催します
3月11日	滋賀県立琵琶湖博物館水族トピック展示 琵琶湖固有種「ビワオオウズムシ」を展示します
3月24日	琵琶湖博物館ギャラリー展示 「ボーンコレクターズ ー骨に魅せられてー」を開催します

#### 4) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	備考
4/2	おうみ発 610	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」	NHK 大津	草加伸吾専門学芸員	
4/11	おうみ発 610	クイズで知るびわ湖(予告)	NHK 大津		
4/13	クイズで知るびわ湖	びわ湖の生物や歴史などに関するクイズ	NHK 大津	桑原雅之総括学芸員 楠岡泰専門学芸員	公開収録
4/6 ~ 27	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
4/6 ~ 18	関西おでかけガイド	からすま半島の生きもの調査(春の鳥)	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
4/30	ぼじたまミュージアム	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」	京都テレビ	草加伸吾専門学芸員	
5/11 ~ 6/8	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくる」、 「魚の解剖にチャレンジしよう」	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
5/11 ~ 22	関西おでかけガイド	からすま半島の生きもの調査(魚と漁具)	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
5/14	知ったかぶりカイツブリにゅーす	石けん運動について	びわ湖放送	芳賀裕樹専門学芸員	
5/22 ~ 6/4	原田伸郎のこの街ええなあ #22 滋賀県草津市編	琵琶湖博物館の紹介	eo 光チャンネル	菅原和宏主査	
6/2	サイエンス ZERO	在来コイ特集	NHK Eテレ	中井克樹専門学芸員	
6/	桂三弥と愉快的仲間たち メッチャあそびより	琵琶湖博物館の紹介	三重県名張市ケーブルテレビ	菅原和宏主査	
6/9 ~ 22	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！」	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
6/15 ~ 7/6	関西おでかけガイド	あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
6/22 ~ 7/10	関西おでかけガイド	夏休み自由研究講座	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送
6/22 29	かがく de ムチャミタス	カタツムリ特集	テレビ大阪 びわ湖放送	菅原和宏主査	
6/23	おうみ発 610	ビワオオウズムシ	NHK 大津	菅原和宏主査	
6/28	ぐるっと関西おひるまえ	あさひるばん	NHK	菅原和宏主査	
6/29 ~ 7/17	関西おでかけガイド	からすま半島で楽しもう 「初心者のためのふなずし作り体験」	NHK	菅原和宏主査	データ文字 放送

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	備考		
7	1	笑福亭晃瓶のほっかほっかラジオ 嘶の朝ごはん	ハッタミミズダービー	KBS 京都ラジオ	大塚泰介専門学芸員	電話生出演	
7	3	おうみ発 610 おうみ探検隊	日本最長のミミズを探せ!	NHK 大津	大塚泰介専門学芸員		
7	4	Begin Japanology	桶風呂の使い方と目的、外来魚に対する取り組み、固有種のオオナマズとビワマス	NHK ワールド (海外向け)	楊平学芸員		
7	9	Begin Japanology	桶風呂の使い方と目的、外来魚に対する取り組み、固有種のオオナマズとビワマス	NHK BS (国内向け)	楊平学芸員		
7	13 ～ 9	1	関西おでかけガイド	水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
7	16	FUN × FUN Museum!!	琵琶湖博物館の紹介と企画展示「生きものがたり」	FM 石川	菅原和宏主査	電話生出演	
7	18	よ～いドン! 「関西ちなみにガイド<琵琶湖>」	展示・バス天井	関西テレビ	菅原和宏主査		
8	1	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	ディスカバリールーム	NHK	菅原和宏主査		
8	6	キラりん滋賀ニュース	マミズクラゲ	びわ湖放送	楠岡泰専門学芸員		
8	13	おうみ発 610	マミズクラゲ	NHK 大津	楠岡泰専門学芸員		
8	13	ニュース	マミズクラゲ	NHK 大津	楠岡泰専門学芸員		
8	19	月曜から夜ふかし	新種発見 昨年度のギャラリー展示関係	日本テレビ	楠岡泰専門学芸員		
8	31	お昼のニュース	アユモドキ	NHK	菅原和宏主査		
8	31 ～ 9	28	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「光とかげで写真を撮ろう ～水草編～」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
9	8	ニュース	巨大ウナギ	びわ湖放送	菅原和宏主査		
9	19	ニュース	巨大ウナギ	関西テレビ	菅原和宏主査		
10	3	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	貝類 (セタシジミ)	NHK 大津	松田征也総括学芸員		
10	4	ネタあさ	企画展示「生きものがたり」と関連イベント	えふえむ草津	澤邊久美子学芸員		
10	19 ～ 26	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「ハンモックで遊ぼう」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送	
10	26	ニュース	クニマス	NHK 大津	藤岡康弘上席総括研究員		
10	30	かんさい情報ネットten「若一光司のミステリーファイル」	マミズクラゲ	読売テレビ	松田征也総括学芸員		
10		嵐・梅屋のロッターズ☆ジャーニー (滋賀編)	水族展示室	スカパー	菅原和宏主査		
11	1	アンカー	琵琶湖の外来植物について	関西テレビ	芦谷美奈子主任学芸員		
11	2 ～ 23	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「綿にふれてみよう」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送	
11	6	ニュース	クニマス	びわ湖放送	松田征也総括学芸員		

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	備考
11 24 ～ 12 14	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「水鳥を観察しよう～色とりどりの冬の鳥たち～」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
12 3	おうみ発 610	保護増殖センターの紹介	NHK 大津	菅原和宏主査	生中継
12 4	おうみ発 610	アユの漁獲量	NHK 大津	菅原和宏主査	
12 5	おうみ発 610 クイズ で知るびわ湖	ウナギ	NHK 大津	菅原和宏主査	
12 10	おうみ発 610	ヒウオ	NHK 大津	菅原和宏主査	
12 11	関西のニュース	ヒウオ	NHK 大津	菅原和宏主査	
12 17	ぐるっと関西	ヒウオ	NHK 大津	菅原和宏主査	
12 21 ～ 1 25	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「博物館でスゴクをつくろう～B 展示室編～」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
12 21 ～ 2 2	関西おでかけガイド	ギャラリー展示「アケボノゾウ発掘から 20 年 – 新たな発見を求めて –」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
12 23	キラりん滋賀ニュース	ギャラリー展示「アケボノゾウ発掘から 20 年 – 新たな発見を求めて –」	びわ湖放送	山川千代美総括学芸員	
1 18 ～ 2 5	関西おでかけガイド	からすま半島で楽しもう「重要文化財を読んでみようー中世古文書入門ー」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
1 26	かんさい人物ファイル アジアに夢中!	カンボジア全土で淡水魚調査を行う、元琵琶湖博物館飼育員の佐藤智之さんを紹介	NHK 大津	金尾滋史学芸員	
1 20	おうみ発 610	オオサンショウウオの測定	NHK 大津	菅原和宏主査	
1 20	7時のニュース	オオサンショウウオの測定	NHK 大津	菅原和宏主査	DVD あり
1 31	おうみ発 610	からすま半島で楽しもう「水族バックヤード探検」	NHK 大津	松田征也総括学芸員	
2 1 ～ 22	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「廃油石けんを作ろう」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
2 1 ～ 4 6	関西おでかけガイド	トピック展示「近江はトンボの宝庫」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
2 6	すまたん	琵琶湖八珍 魚の映像	読売テレビ	菅原和宏主査	
2 23 ～ 3 22	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「偏光スコープを作ろう」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
2 22 ～ 3 23	関西おでかけガイド	からすま半島で楽しもう「からすま半島のミステリー観察会」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
2 28	キラりん滋賀フライデー	旬の魚 ヒワラ	びわ湖放送	菅原和宏主査	
3 8	花映かタイムズ	水族展示室、ディスカバリールーム	中部日本放送	菅原和宏主査	DVD あり
3 8	映画「偉大なる、しゅららぼん」	トンネル水槽、ピワマス、オオナマズ、ギンブナ、ギギ、外来魚撮影	アスミックエース	菅原和宏主査	
3 18	キラりん滋賀ニュース	プレミアムレストラン	びわ湖放送	加藤理副参事	
3 22 ～ 5 6	関西おでかけガイド	ギャラリー展示「ボーンコレクターズ – 骨に魅せられて –」	NHK	菅原和宏主査	データ文字放送
3 27	おうみ発 610	ギャラリー展示「ボーンコレクターズ – 骨に魅せられて –」	NHK 大津	高橋啓一上席総括学芸員	

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	3	タイムリーな展示 大人も楽しめる 琵琶湖博物館新ビジョン策定	京都新聞
4	3	植物標本 3 万点、調査研究の軌跡 日野町出身橋本忠太郎 琵琶湖博物館で寄贈記念展	中日新聞
4	5	[展覧会]「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
4	6	南湖の水草激減 琵琶湖博物館調査 12 年・平均の 3 割 低い透明度影響か 芳賀裕樹 専門学芸員の話	京都新聞
4	8	湖国の植物研究の先人 橋本忠太郎偉業紹介琵琶湖博物館で企画展 草加伸吾専門学芸員のコメント	毎日新聞
4	9	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈22〉 進化の過程世界で調査 アシナガバエが示すもの 榊永一宏専門学芸員、橋本忠太郎の足跡展示 「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」と題したギャラリー展示開催	毎日新聞
4	11	植物標本に込めた情熱 琵琶湖博物館橋本忠太郎の資料 600 点 草加伸吾専門学芸員のコメント	読売新聞
4	13	[湖岸より]〈180〉 ため池で見つけた宝物 金尾滋史学芸員	中日新聞
4	14	平和堂財団・環境保全活動支援 今年度 37 団体に助成、贈呈式で昨年度助成された団体の琵琶湖博物館「はしかけ」の「田んぼの生きもの調査グループ」代表前田雅子さんが活動を報告	毎日新聞
4	18	琵琶湖博物館で企画展 湖国博物学の先駆者 県内の植物採集 詳細地図や絶滅種標本 橋本忠太郎の功績紹介 草加伸吾専門学芸員の話	京都新聞
4	18	「石橋」「まんぼ」の撮影 20 年 石橋愛好家森野秀三さん琵琶湖博物館で展示	毎日新聞 (オー！ミー)
4	23	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈23〉 開発とは異質な積極性 自然の利用 より巧みに 橋本道範主任学芸員、「天皇が記録した災害-花園天皇の日記から-」と題したトピック展示を開催	毎日新聞
4	23	研究報告ネットで公開 琵琶湖博物館、過去 20 年分 里口保文専門学芸員のコメント	中日新聞
4	23	親子で自然とふれあい 琵琶湖博物館で体験プログラムわくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」開催 草加伸吾専門学芸員のコメント	読売新聞 (しが県民情報)
4	25	琵琶湖博物館で花園天皇の日記展示 完全複製品 地震など災害記録	毎日新聞
4	27	[湖岸より]〈181〉 内湖を「沢」と呼んだころ 篠原徹館長	中日新聞
4	27	古代ゾウ掘るぞー 20 年前化石発見の多賀町 80 人団結きょうから調査 琵琶湖博物館も協力	朝日新聞
4	28	「日吉大社芸術祭」境内で展示、川那部浩哉元琵琶湖博物館館長がシンポジウムで「アートと自然環境」をテーマに議論	毎日新聞
5	5	水生植物公園みずの森と琵琶湖博物館の「からすま半島スタンプラリー」 草津で明日まで実施	中日新聞
5	10	花園天皇の日記模本琵琶湖博物館で展示 鎌倉期の災害、自筆で克明 橋本道範主任学芸員のコメント	京都新聞
5	10	180 万年前地層化石ザクザク 多賀の古代ゾウ発掘調査⇒鹿の骨・琥珀など 300 点発見 多賀町立博物館や琵琶湖博物館で分析し、成果をまとめる予定	朝日新聞
5	10	[展覧会]「天皇が記録した災害-花園天皇の日記から-」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
5	11	[湖岸より]〈182〉 発掘をみんなでもう一度 里口保文専門学芸員	中日新聞
5	11	[須磨海浜水族園 亀崎園長のあっぱれ！水の動物たち]三重県の水産総合研究センター増殖研究所で琵琶湖博物館から譲り受け繁殖させた貴重な在来種のコイを須磨海浜水族園で展示	毎日新聞
5	12	魚の解剖できるかな 琵琶湖博物館で子供たち体験	産経新聞
5	12	天災記した「好学の君主」花園天皇の日記複製、琵琶湖博物館で展示 橋本道範主任学芸員のコメント	読売新聞
5	14	魚の内臓「ぶによぶによだ」 琵琶湖博物館で外来魚を解剖するイベント「魚の解剖にチャレンジしよう」が開かれ親子連れや国際協力機構 (JICA) の研修員が参加	読売新聞
5	21	[みんなおいでよ]わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
5	21	天皇が記した災害 日記の複製琵琶湖博物館で展示	中日新聞
5	21	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈24〉 水田にすむ小さなエビ 地域で異なる生息種、滋賀県では？ マーク・J・グライガー上席総括学芸員、橋本忠太郎の足跡展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」と題したギャラリー展示開催	毎日新聞
5	22	ピワオオウズムシ琵琶湖博物館で初の生体展示 琵琶湖博物館のコメント 〈写真資料提供：『ピワオオウズムシ』〉	中日新聞
5	25	[湖岸より]〈183〉 唯一残されたムラサキ 草加伸吾専門学芸員	中日新聞
5	27	「びわこ虫」増加の兆し 水草の激減影響か 琵琶湖博物館の調査によると昨年は水草が過去 10 年の平均値の 3 分の 1 程度にまで激減	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	28	琵琶湖固有種ピワオオウズムシ神秘の生態観察して 琵琶博が採取し公開、飼育法を模索	京都新聞
5	28	外来魚で環境問題学ぶ、わくわく探検隊「さかなの解剖にチャレンジしよう」琵琶湖博物館で開催 藤橋和弘主任主事の話	読売新聞（しが県民情報）
5	29	湖底の不思議な生物ピワオオウズムシ展示 琵琶湖博物館 桑原雅之総括学芸員が調査中偶然捕獲	毎日新聞
6	1	[湖岸より]<184> 湖上を制した豪族の墓か 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
6	1	[湖国の人たち]琵琶湖の水草異変探る 52カ所で重量測定 芳賀裕樹専門学芸員	毎日新聞
6	2	県内のカタツムリ種類や分布を調査 琵琶湖博物館募る	京都新聞
6	4	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<25> 回復すべき自然の姿とは 湖沼に眠るタイムカプセル開く 林竜馬学芸技師、橋本忠太郎の足跡展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」と題したギャラリー展示開催	毎日新聞
6	6	ピワオオウズムシ「生きたまま」展示 琵琶湖博物館 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	朝日新聞
6	6	「琵琶湖の華」丸子船 江戸時代に繁栄、模型や道具など紹介する企画展「丸子船～江戸時代の琵琶湖舟運～」が長浜城歴史博物館で開催、琵琶湖博物館の収蔵資料などから船道具を実物展示	毎日新聞
6	6	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」開催案内	毎日新聞（オー！ミー）
6	14	希少巨大ミミズ探せ 分布調査へ、研究者ら「湖国ダービー」企画 大きさが比較できる写真を撮り、事務局の琵琶湖博物館へ送付	京都新聞
6	15	[湖岸より]<185> カエルの子 上陸可能か 中井克樹専門学芸員	中日新聞
6	17	「ゆりかご」で稚魚観察 東近江の水田 親子ら学習会 琵琶湖博物館専門員の解説もあり、魚以外の生物も数多く生息していることを学ぶ	京都新聞
6	18	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<26> 観察会のもつチカラ「幻の会」地域と守る 金尾滋史学芸員、あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！の開催案内	毎日新聞
6	21	イチモンジタナゴ 琵琶湖の希少魚見て、琵琶湖博物館独自飼育 稚魚の一部披露	中日新聞
6	22	[大きな湖小さな生命～びわこからの報告～]<上> 「生物多様性」世界が熱視線 徹底調査7年 50もの新種発見 金尾滋史学芸員の話とマーク・グライガー上席総括学芸員のコメント	産経新聞
6	23	[大きな湖小さな生命～びわこからの報告～]<中> 研究者の尽きぬ努力と好奇心 解剖、スケッチ積み重ね新種発見 ロビン・スミス主任学芸員と鈴木隆仁特別研究員の話	産経新聞
6	23	巨大ミミズ見つけて 琵琶湖博物館情報提供呼び掛け 大塚泰介専門学芸員のコメント	中日新聞
6	24	[大きな湖小さな生命～びわこからの報告～]<下> 琵琶湖史見直し～新たな挑戦 微小生物の可能性、人類の未来照らす 高橋啓一上席総括学芸員の話	産経新聞
6	24	モリアオガエル泡のゆりかご 各地から産卵の便り 中井克樹専門学芸員の話	朝日新聞
6	25	絶滅危惧コイ科「イチモンジタナゴ」の稚魚誕生し展示 県立琵琶湖博物館	毎日新聞
6	28	富士山世界遺産登録への道 裏話交え紹介「びわ湖の森の生き物研究会」琵琶湖博物館で開催	読売新聞
6	28	湖国の自然と森考えよう「びわ湖の森の生き物研究会」琵琶博で30日	京都新聞
6	29	[湖岸より]<186> 水田に浮くイチョウウキゴケの謎 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞
7	2	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<27> 湧水地域住民が守る主体的・持続的に活動 用田政晴上席総括学芸員、あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！の開催案内	毎日新聞
7	2	[A+1 イベント]「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」開催案内 / 「びわ湖の日」催し多彩、琵琶湖博物館の移動博物館で嘉田知事が瀬田北中学校の生徒に琵琶湖の魅力を語る	朝日新聞
7	2	知事、学芸員役で解説 大津瀬田北中に琵琶湖博物館の移動博物館を開設	中日新聞
7	4	[探Qしが]湖上に残った山頂、島に 琵琶湖の島について里口保文専門学芸員の話	読売新聞
7	5	[遊覧選]「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」開催案内	中日新聞
7	5	[まちかど]「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」開催案内	京都新聞
7	5	[イベント]「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」開催案内	読売新聞（しが県民情報）
7	7	夜の琵琶博「楽しい」 骨格標本や昆虫観察会	京都新聞
7	10	「氷河時代」人と共に 特別展「マンモス YUKA」 -シベリアの永久凍土から現れた少女マンモス- 取材協力：高橋啓一上席総括学芸員	読売新聞
7	12	彦根28日、博物館夏祭り 魚に触ってみてね 琵琶湖博物館は「お魚タッチコーナー」を設置	中日新聞
7	13	[湖岸より]<187> 研究手助けも博物館の役割 八尋克郎総括学芸員 / 体長2センチ赤く輝くハッチョウトンボ 金尾滋史学芸員のコメント	中日新聞



月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	15	水生昆虫、カゼトゲタナゴ 絶滅危惧の生物紹介 琵琶湖博物館で展示 担当者のコメント <写真資料提供：『タガメ』『カゼトゲタナゴの稚魚』>	中日新聞
7	15	琵琶湖博物館をはじめ、県内の11博物館、28日に「夏祭り」	京都新聞
7	19	「博物館夏祭り」ドウタクくんも、「博物館による環境と科学のフェスティバル」琵琶湖博物館など9館参加 / 「遊・You・友」「生きものがたり」開催案内	朝日新聞
7	19	[ウィークエンドガイド]安土城考古博物館講座「琵琶湖固有魚の謎と魅力」(講師松田征也総括学芸員) 開催案内	産経新聞
7	23	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<28> ビワマス取り巻く生態系 人間の活動との関係探る 桑原雅之総括学芸員、企画展示「生きものがたり」開催案内	毎日新聞
7	23	生物多様性知ろう 琵琶湖博物館 標本、剥製1000点 企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」開催	中日新聞
7	26	親子で楽しめる多彩な催し 魚に触れたり工作体験、28日に彦根で県内の博物館等連携の「博物館夏祭り」開催 琵琶湖博物館が「お魚タッチコーナー」を設置	毎日新聞
7	26	博物館利用促進で県内の大学や自治体で作る「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」(理事長・川口清史立命館大学長)と県博物館協議会(会長・篠原徹琵琶湖博物館館長)が連携協定で締結 川口理事長と篠原会長のコメント / 「遊覧選」博物館夏まつり」開催案内	中日新聞
7	26	人材育成など協力 県内大学と博物館が協定 川口理事長(立命館大学長)と篠原会長(琵琶湖博物館館長)のコメント	京都新聞
7	27	[湖岸より]<188> 博物館OBの役割 戸田孝専門学芸員 / 湖魚料理どれが好き?安土城考古博物館“八珍” 選びの投票実施 百八十五種類の湖魚料理を紹介した冊子を琵琶湖博物館などに設置	中日新聞
7	27	あす彦根で博物館夏祭り 琵琶湖博物館など11施設が参加	産経新聞
7	28	上空から“大パノラマ” 草津で熱気球体験 琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森があるからすま半島を180人が訪れる	産経新聞
7	30	国の絶滅危惧種カゼトゲタナゴ稚魚見て 20年前から人口繁殖、30匹ふ化 草津琵琶湖博 <写真資料提供：『カゼトゲタナゴの稚魚』> / 節電へ文化施設開放 県、今夏も実施 琵琶湖博物館など4カ所で平日無料	京都新聞
8	3	「神出鬼没」マミズクラゲ 飼育1年世界記録級 琵琶湖博物館「生態解明したい」 楠岡泰専門学芸員の話	京都新聞
8	6	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<29> 南湖で繁茂する沈水植物 30年間の衰退期を経て復活 芳賀裕樹専門学芸員、	毎日新聞
8	7	美しい細密画杉野さん作品展 琵琶湖博物館で昆虫標本作りをしながら細密画を描く	毎日新聞
8	8	琵琶湖の漁業 歴史紹介 県立安土城考古博物館の夏季特別展「華麗なる漁と美味なる食」で琵琶湖博物館所蔵の漁具などを紹介	読売新聞
8	8	飼育困難の淡水性マミズクラゲ 継続展示記録を更新中 琵琶湖博物館担当者のコメント <写真資料提供：『マミズクラゲ』『ポリプ』>	中日新聞
8	9	友好事業で来日 中国の小中学生 楠岡泰専門学芸員の指導でプランクトン生態学ぶ 琵琶湖博物館	京都新聞
8	10	[湖岸より]<189> 低い山に登る楽しみ 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞
8	12	滋賀・琵琶湖博物館 マミズクラゲ展示世界記録更新中 本来の生息環境に近づけ1年突破 楠岡泰専門学芸員のコメント <写真資料提供：『マミズクラゲ』『ポリプ』>	産経新聞
8	13	涼求め客、ごまんと 滋賀県は県内四つの県立文化施設で平日入館料を無料にするキャンペーンを2年前から実施 琵琶湖博物館では7月の入館者が前年より約1割増加	毎日新聞
8	14	絶滅危惧種の「アユモドキ」琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供：『アユモドキの幼魚』>	中日新聞
8	15	生物多様性を考えるテーマ展示 「生きものがたー生物多様性 湖国から 世界からー」を琵琶湖博物館で開催 中井克樹専門学芸員のコメント	毎日新聞 (オー！ミー)
8	17	猛暑明暗 琵琶湖博物館無料で盛況、救急搬送者数が過去最高 / 「自由研究見つけた!」<2> 剥製に学ぶ地球環境 琵琶湖博物館	中日新聞
8	17	日韓の小中学生スポーツで交流 滋賀を訪れる韓国の子どもたちは比叡山延暦寺や琵琶湖博物館も見て回る	朝日新聞
8	19	夏の展示鮮やか 生命の輝き水彩画に 琵琶湖博物館で六年間昆虫標本制作などに従事した杉野さん近江八幡で個展	中日新聞
8	20	琵琶湖南湖の水草繁茂、湖面覆う勢い 悪臭、漁業に支障 県に除去要請続々 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	中日新聞
8	21	みんなで選ぶ 琵琶湖八珍 湖魚料理投票 琵琶湖博物館などにあるパンフレットでも応募可	読売新聞
8	22	マミズクラゲ展示1年突破 琵琶湖博物館で“世界新” 湖沼イメージ 水質や餌のサイズ配慮 <写真資料提供：『マミズクラゲ』>	読売新聞
8	22	ドジョウの仲間 珍魚アユモドキ 琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供：『アユモドキの幼魚』>	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	22	びっくり ピンク色のバツタ発見 金尾滋史学芸員の話	中日新聞
8	24	カタツムリ見つけて 琵琶湖博物館で今月末まで調査 〈写真資料提供：『ヒラヒダリマキマイマイの殻』『クロイワマイマイの殻』〉	読売新聞
8	24	[湖岸より]〈190〉 生き物の多様性とは 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
8	26	船に乗ってぐるり琵琶湖の環境学ぶ親子ら 74 人 琵琶湖博物館などを見学	中日新聞
8	27	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈30〉 広がる「はしかけ」活動 地域の価値、自ら発見 高橋啓一上席総括学芸員、新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」開催案内	毎日新聞
8	27	03 年「琵琶湖守る 1 万人の誓い」琵琶湖博物館で展示してきたタイムカプセル初開封	京都新聞
8	28	冬の鳥カワアイサ 夏の宇治川になぜ 亀田佳代子専門学芸員の話	朝日新聞 (南京都版)
8	29	琵琶湖遊覧船で水の学習 小学生親子ら 150 人参加 琵琶湖博物館でビワマスやビワコオオナマズなど固有種について説明を受ける	読売新聞
8	31	酷暑 京滋記録ずくめ 熱中症搬送 3 割増/琵琶博、最多の来館者	京都新聞
8	31	[湖岸より]〈191〉 歴史教科書から地域学ぶ 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
9	1	琵琶湖八珍選ぼう!! 安土城考古博物館「食べて湖を身近に」パンフレットは琵琶湖博物館で入手できる	朝日新聞
9	7	重さ 3.7 キロ! 巨大ウナギお目見え 琵琶博きょうから公開 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
9	7	琵琶湖の主お目見え巨大ニホンウナギ きょうから博物館で展示 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞
9	10	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈31〉 琵琶湖の「秘密の花園」植物進化の謎 解く鍵に 芦谷美奈子主任学芸員	毎日新聞
9	11	全長 117 センチ巨大ウナギ 琵琶湖で捕獲 琵琶湖博物館で公開中 金尾滋史学芸員のコメント	毎日新聞
9	12	[探Q しが]郷土の味 セタシジミ 粟津貝塚を再現した琵琶湖博物館の展示の写真	読売新聞
9	13	県内で絶滅「ニッポンバラタナゴ」琵琶湖博物館が人工繁殖 金尾滋史学芸員のコメント 〈写真資料提供：『ニッポンバラタナゴの稚魚』〉	産経新聞
9	13	湖国の治水 未来図は 〈写真資料提供：『1959 年の伊勢湾台風で浸水した近江八幡市の水茎干拓地』〉	朝日新聞
9	13	湖魚料理「八珍」どれだ? 安土城考古博 185 品で人気投票、投票用紙付きパンフレットを琵琶湖博物館で配布中	京都新聞
9	14	[湖岸より]〈192〉 姿消した水中の忍者たち 金尾滋史学芸員	中日新聞
9	16	[湖国探研]〈61〉 地域の課題に照準 学生の力“触媒”に活性化 元琵琶湖博物館学芸員 脇田健一龍谷大学教授	京都新聞
9	17	[ひとまち交差点]太古の象に夢をはせ アケボノゾウ化石発見から 20 年 多賀町立博物館が琵琶湖博物館などの協力を得て調査団を結成 琵琶湖博物館「はしかけ」木本裕也さんのコメント、高橋啓一上席総括学芸員のコメント	読売新聞 (しが県民情報)
9	23	[湖国探研]〈62〉 過疎の町 生活や風習に注目 消滅危機の文化を記録 大久保実香学芸員	京都新聞
9	26	交流体験事業生かす ダイフク寄付琵琶湖博物館に 32 万円	中日新聞
9	28	1.16 メートル巨大ウナギ 琵琶湖博物館あすまで展示 琵琶湖博物館のコメント	読売新聞
9	28	[湖岸より]〈193〉 半栽培のヤナギタゲ 篠原徹館長	中日新聞
10	2	琵琶湖関連機関の連携強化 県の試験研究機関(琵琶湖博物館など 9 機関)と関係部局の担当者を結集させ総合的施策へ新組織	読売新聞
10	2	琵琶湖研究「選択と集中」へ 県、県立試験研究機関と知事部局で連絡会議を新設	毎日新聞
10	4	絶滅危惧のタナゴを展示草津・琵琶湖博物館 背びれに黒い斑点 担当者のコメント 〈写真資料提供：『スイゲンゼニタナゴ』〉	中日新聞
10	6	琵琶湖博物館のマミズクラゲ 飼育 1 年超「世界初」 楠岡泰専門学芸員のコメント 〈写真資料提供：『マミズクラゲ』〉	朝日新聞
10	6	県施設(琵琶湖博物館など 4 施設)開放節電に効果 夏休み期間中 1 日平均 2,768 人	読売新聞
10	8	19 日に滋賀の伝統料理体験教室 琵琶湖博物館が参加者募集	産経新聞
10	12	[湖岸より]〈194〉 博物館の周りにすむ生きものたち 澤邊久美子学芸員	中日新聞
10	24	[通風筒]琵琶湖博物館が 2010 年に生息が確認されたクニマスを展示 〈写真資料提供：『クニマス』〉 / アユ減少など環境課題 県 4 部局 複合的に対策 来年度、琵琶湖博物館など九つの試験研究機関と連絡会議設立へ	中日新聞
10	24	[十字路]約 70 年ぶりに生息が確認された「クニマス」を琵琶湖博物館で展示 琵琶湖博物館のコメント 〈写真資料提供：『クニマス』〉	産経新聞 (夕刊)
10	25	琵琶湖の環境 横断研究 県、新組織を創設	朝日新聞
10	26	生物多様性テーマに琵琶湖博物館企画展	産経新聞
10	26	ぎょぎょ! 「クニマス」生体展示 県立琵琶湖博物館で西日本初 来月 24 日まで 琵琶湖博物館の話 〈写真資料提供：『クニマス』〉	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	26	幻のクニマス生体展示 草津できょうから西日本で初めて 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
10	26	[湖岸より]〈195〉 軽石のゆくえ 里口保文専門学芸員	中日新聞
10	27	水田生物テーマ研究発表を募集 琵琶博で12月22日開催	京都新聞
10	31	感性のまま表現楽しんで ふらっと美の間 県庁のほか琵琶湖博物館など10施設151点に拡大	読売新聞
11	5	[みんなおいでよ]「朽木観察会」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
11	7	泳ぐクニマス 西日本初展示 県立琵琶湖博物館	読売新聞
11	9	[湖岸より]〈196〉 「八重のドクダミ」 草加伸吾専門学芸員	中日新聞
11	16	幻の魚クニマス 西日本初@草津 県立琵琶湖博物館・24日まで 藤岡康弘上席総括研究員のコメント	朝日新聞
11	20	湖南省トップ、友好30年で来県「環境・経済 交流促進を」 琵琶湖博物館と湖南省博物館が職員との交流や共同研究、資料の交換といった連携を深めるための協定を結ぶ	朝日新聞
11	20	〈写真資料提供:『ピワコオオナマズ』〉 水銀、食物連鎖で濃縮オオナマズにアユの32倍 滋賀県立大、琵琶湖で調査	朝日新聞(夕刊)
11	20	中国・湖南省訪問団、来県「湖が縁、で友好 協定30周年記念 琵琶湖博物館と湖南省博物館が交流推進の覚書締結	毎日新聞
11	20	県と湖南省友好30周年 省長と知事が懇談 女性同士の交流を確認 琵琶湖博物館と湖南省博物館も学術的相互協力の協定を締結	中日新聞
11	20	「30年の交流 次世代に」県と中国・湖南省節目祝う 式典では琵琶湖博物館と湖南省博物館の学術的相互協定も締結	京都新聞
11	23	[湖岸より]〈197〉 写真がつなぐ博物館と人 金尾滋史学芸員	中日新聞
11	24	ピワマス保護方策探る 米原でシンポ さかなクン講演、PR約束 パネル討論に桑原雅之総括学芸員らが参加	読売新聞
11	24	生物多様性の活動表彰、地域の連携目指す 琵琶湖博物館などの研究者らが審査し、優れた取り組みには「しが生物多様性大賞」を贈る	京都新聞
11	25	常陸宮ご夫妻、発明創作展を視察 26日に県立琵琶湖博物館を視察	読売新聞
11	25	常陸宮ご夫妻が子らの作品見学 発明クラブ展など出席 26日近畿地方発明表彰式などに出席し琵琶湖博物館を見学	朝日新聞
11	25	常陸宮ご夫妻来県 あすまで、県内 琵琶湖博物館を視察	毎日新聞
11	25	ピワマス遡上復活願う 米原でシンポ さかなクン講演など 琵琶湖博物館学芸員や市民団体メンバーと公開討論	京都新聞
11	25	常陸宮ご夫妻が県内入り 小中学生の発明品ご鑑賞 琵琶湖博物館など県内各地を視察	産経新聞
11	26	県発明協会70周年常陸宮ご夫妻出席 26日に琵琶湖博物館を視察し、同日帰京	読売新聞
11	27	琵琶湖博物館を視察 常陸宮ご夫妻 篠原徹館長や学芸員らの案内で琵琶湖の航空写真や淡水魚の展示などを見て回られた	読売新聞
11	27	常陸宮ご夫妻琵琶湖博物館を見学 嘉田由紀子知事や篠原徹館長らの案内で館内の展示を見学 展示の案内役を務めた用田政晴上席総括学芸員のコメント	産経新聞
11	28	中国・湖南省と学術交流 琵琶湖博物館が協定締結、観光船ビアンカの船上で篠原徹琵琶湖博物館館長と陳建明館長が調印式	中日新聞
11	29	亀岡アユモドキ国繁殖へ 琵琶湖博物館が繁殖に成功している八木産とは遺伝子が異なる亀岡産の個体の保全に向けて環境省近畿地方環境事務所は水族館での飼育繁殖に取り組むことを決めた	京都新聞
11	30	[湖岸より]〈198〉 効果大きい資料DB化 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
11	30	琵琶湖博物館 湖南省博物館と連携協定 研究者交流や資料交換	京都新聞
12	3	しが生物多様性大賞 20日まで候補募集 滋賀経済同友会関係者や県職員、琵琶湖博物館の学芸員らが審査し、来年3月4日に表彰予定	中日新聞
12	8	ピワマス温暖化悪影響 多賀で琵琶博藤岡康弘上席総括研究員が講演 サケ類と比較、謎も紹介	京都新聞
12	8	ピワマスの謎紹介 多賀で「びわ湖の森の生き物研究会」事務局長 藤岡康弘琵琶湖博物館上席総括研究員が講演	中日新聞
12	14	[湖岸より]〈199〉 ヨシの季節のおわり 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞
12	16	冬の湖岸水鳥観察 草津の琵琶湖博物館周辺で同博物館と日本野鳥の会滋賀支部の共催で家族連れや愛好家など約40人が参加	朝日新聞
12	18	琵琶湖博物館リニューアル 世界初のアクアリウムも 開館17年目県が素案公表	毎日新聞
12	20	[遊覧選]「県立琵琶湖博物館 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会」開催案内	中日新聞
12	22	[追跡滋賀]県立琵琶湖博物館28年度に開設20周年 祝「成人」リニューアル検討 世界初「微生物シアター」など	産経新聞
12	23	日本最長ミミズ 生体など報告 琵琶博で水田生物研究会 シンポでは大塚泰介専門学芸員が「湖国ハタミミズ・ダービー」の中間報告	京都新聞
12	23	「アケボノゾウ」がいた時代 草津・県立琵琶湖博物館で展示会	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	26	新名物「琵琶湖八珍」 ニゴロブナ・ビワマス…固有種中心 普及へ食の旅計画 <写真資料提供：『ニゴロブナ』『ビワマス』『ホンモロコ』>	朝日新聞
12	26	[湖国 2013 年回顧]8 月琵琶湖博物館のマミズクラゲの展示が世界でも例のない長期間展示	京都新聞
1	1	琵琶湖保全 新研究機構設立へ 琵琶湖環境科学センターや琵琶湖博物館など県 9 機関連携在来魚現探る	京都新聞
1	4	琵琶湖の味 未来担う新ブランド「八珍」漁業・観光 <写真資料提供：『ニゴロブナ』『ビワマス』『ホンモロコ』『ハス』『スジエビ』『イサザ』『コアユ』『ビワヨシノボリ』>	朝日新聞
1	7	琵琶博リニューアル素案 微生物シアターや淡水アザラシ展示 体験型、交流も強化	京都新聞
1	9	琵琶湖八珍 「素材」対象に選定 定着目指す 県ミュージアム活性化推進委員会(会長：篠原徹琵琶湖博物館館長) がビワマス・コアユ・ニゴロブナ・ハス・ホンモロコ・イサザ・ビワヨシノボリ・スジエビを推すことを決めた	毎日新聞
1	10	県立琵琶湖博物館 発掘 20 年企画展 アケボノゾウ化石 30 点 最新の調査結果なども紹介 林竜馬学芸師のコメント	読売新聞
1	10	琵琶湖博物館大規模改装へ 2016~20 年整備湖と人との関わりに焦点	中日新聞
1	11	[湖岸より]<200> 日本の馬化石の歴史は謎 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞
1	13	[データで読む滋賀]琵琶湖の固有種 61 種類 多様な環境 断トツ首位 外来種増加で生態系悪化も 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
1	14	館内の展示見てすぐろく作ろう 25 日、琵琶湖博物館	読売新聞
1	16	[おでかけカレンダー]「巡回展アケボノゾウ発掘から 20 年」開催案内	毎日新聞 (オー！ミー)
1	17	県の新年度予算各部局要求 5166 億円 県立琵琶湖博物館の展示替えなどで琵琶湖環境部 12.8%増	読売新聞
1	17	[展覧会]「アケボノゾウ発掘から 20 年-新たな発見を求めて-」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
1	19	嘉田由紀子知事 3 期目に意欲？任期満了まで半年大津で政治塾 女性の就業相談などソフト施策に加え琵琶湖博物館の改装設計などハード事業も積極的に進める方針	中日新聞
1	20	[十字路]琵琶湖博物館で飼育されているオオサンショウウオの“身体測定”を実施	産経新聞 (夕刊)
1	21	オオサンショウウオ大きさ“暫定日本一” 琵琶湖博物館飼育、137 センチ 桑原雅之の総括学芸員のコメント	読売新聞
1	21	琵琶湖博物館オオサンショウウオ、飼育では国内最大 3 月認定 身体測定全長 137 センチ、体重 28.4 キロ 担当者のコメント	朝日新聞
1	21	日本一？オオサンショウウオ 琵琶博 身体測定 137 センチ 桑原雅之の総括学芸員のコメント	京都新聞
1	21	琵琶湖博物館オオサンショウウオ“身体測定”137 センチ日本一に迫る 菅原和宏主査のコメント	中日新聞
1	22	琵琶博の林遊び好評 幼児対象、敷地内実験工房を拠点に 自然への興味育む 子育て支援にも 加藤理副参事のコメント	京都新聞
1	24	県内トンボ 100 種標本全て見せます 琵琶湖博物館あすから展示	中日新聞
1	25	琵琶博リニューアル意見交換に参加募る 8 日ワークショップ / 滋賀はトンボの宝庫 100 種類スナアカネで到達 琵琶湖博物館できょうから展示 八尋克郎総括学芸員のコメント <写真資料提供：『スナアカネ』>	京都新聞
1	25	[湖岸より]<201> ふゆみずたんぼの生き物たち 大塚泰介専門学芸員	中日新聞
1	28	リニューアルの意見交換会参加者を募集 県立琵琶湖博物館	産経新聞
1	29	改装案に市民の声を 琵琶湖博物館来月催し、参加募る / 南湖で大繁殖県が対策に力 背の高い水草湖面から“顔” 従来より背丈が高くなったことが琵琶湖博物館の調査でわかる	中日新聞
1	29	希少トンボの生態小学生兄弟が解明「自然科学コン」入賞 専門家注目 県立琵琶湖博物館の共同研究「2010 年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」にも参加	毎日新聞
1	31	滋賀の博物館・美術館逸品展 来月 2 日まで京都文化博物館 会場には琵琶湖博物館のビワコオオナマズのはく製などが展示	毎日新聞
1	31	[遊・You・友]「すばらしき石橋展」開催案内	朝日新聞
2	1	[湖岸より]<202> 博物館の「国勢調査」 戸田孝専門学芸員	中日新聞
2	1	[まちかど]「すばらしき石橋展」開催案内	京都新聞
2	3	こども環境会議 渋川生き物絵図など展示 みんなの好きな場所守って	毎日新聞
2	3	全国の石橋写真紹介 琵琶湖博物館で開催	中日新聞
2	7	東寺文書で読み解く中世 琵琶湖博物館 国重文、3 点展示 橋本道範主任学芸員のコメント	中日新聞
2	10	[味の私記]ふなずし家族とのハレの日 志村ふくみさんのふなずしへの思い 琵琶湖博物館のふなずしのコメント	読売新聞 (夕刊)
2	11	県、積極型 5153 億円 新年度予算案 琵琶湖博物館の展示内容の入れ替えなど映像投影設備などの設計費に 5800 万円を投じる	読売新聞
2	11	[みんなおいでよ]わくわく探検隊「廃油石けんを作ろう」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	11	俣約一転 積極型に暮らし安心3本柱 14年度県予算案 琵琶湖博物館の展示再構築など	中日新聞
2	14	琵琶湖博物館で固有種「アナンデルヨコエビ」展示 体長1センチ 泳ぐ姿人気 ブログで話題、再び展示 菅原和宏主査のコメント <写真資料提供：『アナンデルヨコエビ』>	京都新聞
2	15	[湖岸より]<203> 不便だが足りないものがない暮らし 高橋啓一 上席総括学芸員	中日新聞
2	15	[かいつぶり]琵琶博 20年へ	京都新聞
2	16	[まちかど]わくわく探検隊「廃油石けんを作ろう」開催案内	京都新聞
2	17	北湖湖底に生息 ヨコエビを展示 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『アナンデルヨコエビ』>	中日新聞
2	18	琵琶湖博物館で淡水魚の生態・飼育学ぶ 松田征也総括学芸員の案内で「水族バックヤード体験」 / 「石橋は文化財」保存を 全国80か所現地調査 来月2日まで琵琶湖博物館で写真展開催中	読売新聞(しが県民情報)
2	18	中国の博物館長ら湖辺の暮らし語る 来月22日、琵琶博	京都新聞
2	21	篠原琵琶博館長、芭蕉や蕪村の句題材に「酒薫旅情 琵琶湖が誘う酒と肴の俳諧民俗誌」を刊行 湖国飲酒文化随筆集に	京都新聞
2	22	琵琶湖固有種のアナンデルヨコエビ人気 ダンゴムシ?「かわいい」 琵琶湖博物館で来月2日まで 桑原雅之総括学芸員のコメント <写真資料提供：『アナンデルヨコエビ』>	毎日新聞
2	22	湖魚やシカ肉料理味わって 14、15日に琵琶湖博物館で「びわ博 春のプレミアムレストラン」開催、参加者募集	京都新聞
2	23	水槽の裏側見たい!琵琶湖博物館 親子60人探検「水族バックヤード体験」	朝日新聞
2	23	琵琶湖博物館「裏側」楽しむ 親子連れが見学「水族バックヤード体験」	中日新聞
2	27	びわ湖レイクサイドマラソン ゴール地点は県立琵琶湖博物館のある烏丸半島	毎日新聞
3	1	[湖岸より]<204> 湖魚料理が伝える琵琶湖の魅力 金尾滋史学芸員	中日新聞
3	1	草津の琵琶湖博物館展示「かわいい」入館者に好評 琵琶湖固有種 体長1センチ「アナンデルヨコエビ」 桑原雅之総括学芸員のコメント <写真資料提供：『アナンデルヨコエビ』>	産経新聞
3	2	県と湖南省の交流祝い22日に講演会「魚米之郷を語る」 琵琶湖博物館で開催	中日新聞
3	4	[みんなおいでよ]「からすま半島のミステリー観察会」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
3	5	琵琶湖の環境研究機構(琵琶湖博物館など9機関と県庁の関係部局が参加) 議長に副知事	朝日新聞
3	5	しが生物多様性大賞 「カスミサンショウウオ保護活動」「草津市や琵琶湖博物館などと共同で地域企業が水辺の調査研究を進める活動」「野洲市家棟川をビワマスが棲める環境にしようという活動」など3件	中日新聞
3	8	先進のトンボ研究結果県内生息100種類目「スナアカネ」発見 琵琶湖博物館で展示	産経新聞
3	12	[カメラウーマンまみが行く]琵琶湖博物館飼育員、魚より人気? 水槽掃除	中日新聞
3	14	「ヨシ博士」情熱の遺品 伐採道具やノート 琵琶博で40点展示 橋本道範主任学芸員のコメント	京都新聞
3	14	在来魚復活へ9機関連携 県が26年度「琵琶湖研究機構」創設 琵琶湖博物館など9機関と本庁の琵琶湖環境部が参加	
3	15	[湖岸より]<205> 「魚米の郷」～日中講演会を開催 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
3	16	スポーツと文化に力 県新年度体制 琵琶湖研究で連携も 琵琶湖博物館など9機関と県庁の関係部局が参加する「琵琶湖環境研究推進機構(仮称)」を設置	毎日新聞
3	17	[クラブ]骨格標本作り楽しむ 琵琶湖博物館を拠点に「ほねほねくらぶ」 3月25日からギャラリー展示「ボーンコレクターズ～骨に魅せられて～」を開催	中日新聞
3	18	「ヨシ博物館」40点で再現 西川さん収集品 琵琶湖博物館で展示 橋本道範主任学芸員のコメント	読売新聞
3	18	夜の琵琶湖博物館でディナー 県産食材コースに舌鼓	中日新聞
3	18	「湖の幸」フルコース堪能 琵琶湖博物館ワイン手に水槽ツアーも	産経新聞
3	19	「魚米の郷」語る 22日、日中共同博物館・大学講演 琵琶湖博物館で開く	毎日新聞
3	20	琵琶湖固有種のプラナリア「ピワオオウズムシ」展示 <写真資料提供：『ピワオオウズムシ』>	中日新聞
3	21	[まちかど]「ボーンコレクターズ～骨に魅せられて～」開催	京都新聞
3	26	小学校に眠る民具調査 草津の男性データベース化へ 地域の財産 交流に活用 琵琶湖博物館はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」が協力	京都新聞
3	29	[湖岸より]<206> 近江の伝統野菜「日野菜」 篠原徹館長	中日新聞
3	29	琵琶湖固有種「ピワオオウズムシ」常設展示へ飼育法模索 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞
3	29	22年間で40万人利用 ふれあいの里あす閉館 2千点を超える資料の多くは琵琶湖博物館に引き取ってもらう方向で交渉中	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	30	動物や魚の骨格標本 市民らコツコツ制作展示 「ボーンコレクターズ～骨に魅せられて～」開催	読売新聞

## 6) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-、わくわく探検隊「ほねで遊ぼう！」の案内	子供の科学 4月号
4	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-、わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」「琵琶湖の模型をつくろう」「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう!」、体験教室「田んぼ体験」、講座「はしかけ登録講座」「琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 1: 植物化石 2: 地層」、観察会「春満開の綿向山登山」「日野で植物観察会」、からすま半島で楽しもう「魚の寄生虫を調べよう!」「からすま半島の生きもの調査(魚と漁具)」の案内	れいかる (湖国文化情報) 5・6月号 vol. 74
4	2人で行くデートスポット、エリアでめぐる滋賀の旅 琵琶湖博物館の紹介	滋賀県観光情報 数字でめぐる滋賀の旅
4	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-、わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」「琵琶湖の模型をつくろう」、体験教室「田んぼ体験」の案内	博物館研究 5月号
4	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」の案内	子供の科学 5月号
4	ギャラリー展示案内 十禅師出身の植物学者 橋本忠太郎の紹介	広報 ひの
4	[Information] ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」の案内	リビング滋賀 4/6号
4	琵琶湖博物館の水族展示紹介	水族館ぴあ「北海道から沖縄まで全国の海中世界徹底ガイド115スポット」
4	日帰り、ドライブへ 遠足気分て湖国のミュージアム巡り 琵琶湖博物館の紹介	ふたりのオフタイム (関西版)
4	滋賀巡り 琵琶湖博物館のギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」の案内	ゴクリ 4月号
4	[インタビュー] ヤンマーミュージアムのピオトープ 陸続きではないおかげで、琵琶湖本来の植物相に近い環境に新たな発見が生まれるはず。澤邊久美子学芸員	Duet 2013春 vol.109
4	琵琶湖博物館がやってきた! 移動博物館とワークショップ (会場: 立命館守山中学校・高等学校)	ルシオールアートキッズフェスティバル 2013 チラシ
4	琵琶湖博物館がやってきた! 移動博物館とワークショップ (会場: ピアザ淡海)	ラ・フォル・ジュルネ びわ湖2013 チラシ
5	[情報ひろば] わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」「魚の解剖にチャレンジしよう」「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう!」、からすま半島で楽しもう「からすま半島の生きもの調査(魚と漁具)」の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) 5・6月号 vol. 143
5	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-、わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう!」、体験教室「田んぼ体験」、講座「琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 2: 地層」の案内	博物館研究 6月号
5	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」の案内	子供の科学 6月号
5	[5月6月の特別展] ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎 -植物研究にかけた情熱-」の案内	全科協ニュース vol. 43 No. 3
5	外来生物法改正 「法改正をまず評価。次は実効性のある行動計画・侵略的外来種リストを実現すること」 中井克樹専門学芸員	(ノーバスネットニュースマガジン)にぎやかな水辺
5	滋賀のいいところお見せします! 琵琶湖博物館の紹介	まっぷる 滋賀びわ湖 長浜・彦根・大津
5	巨大な魚のトンネルは必見 琵琶湖博物館の紹介	Leaf 京都・滋賀 家族でおでかけ124
5	「こどもの日」琵琶湖博物館など県立施設無料開放! / 催し物「琵琶湖の模型をつくろう」の開催案内	滋賀報知新聞 (5/2、5/16)
6	水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、企画展示「生きものがたり -生物多様性 湖国から 世界から-」、体験教室「田んぼ体験」、観察会「漁船に乗ってピワマス漁をみてみよう」、講座「夏休み自由研究講座」「琵琶湖の生き立ちをさぐる方法3: 花粉化石」の案内	博物館研究 7月号
6	企画展示「生きものがたり -生物多様性 湖国から 世界から-」の案内	子供の科学 7月号
6	催し物「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」、からすま半島で楽しもう「初心者のためのふなずし作り体験」の案内	びいめーる vol. 92

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
6	水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」、観察会「漁船に乗ってピワマス魚をみてみよう」、「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」、からすま半島で楽しもう「初心者のためのふなずし作り体験」「回転実験室で水槽実験を!」「からすま半島の生きもの調査(夏の虫)」「プランクトンでアート」、講座「琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 3:花粉化石 4:足跡化石」「夏休み自由研究講座」、指導者向け博物館活用講座「生き物の飼い方」、体験教室「田んぼ体験」の案内	れいかる(湖国文化情報) 7・8月号 vol.75
6	催し物 わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」の案内	にゅーすもりやま No.562
6	Information 催し物「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」の紹介	ピースマム・ベビー夏号! vol.21
7	県立文化施設無料開放 / [情報ひろば]催し物「夏休み自由研究講座」、指導者向け博物館活用講座「生き物の飼い方」の案内	滋賀プラス1(県広報誌) 7・8月号 vol.144
7	水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	博物館研究 8月号
7	企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	子供の科学 8月号
7	[7月8月の特別展]水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	全科協ニュース vol.43 No.4
7	夏休みわくわくエコ体験!環境学習イベント情報	広報くさつ No.1091
7	体験講座イベント情報 企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」、水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、からすま半島で楽しもう「回転実験室で水槽実験を!」「からすま半島の生きもの調査(夏の虫)」「プランクトンでアート」の案内	くさつ・エコミュージアム 夏休みわくわくエコ体験!
7	【夏休みチャレンジ】 水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、 企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」、「田んぼ体験」、「夏休み自由研究講座」、フィールド観察会(夏)、からすま半島で楽しもう 【秋からチャレンジ】 わくわく探検隊、フィールド観察会(秋・冬) 【申し込んでみよう】 琵琶湖博物館団体向け学習体験	しがこども体験学校(2013年度版)
7	琵琶湖 水あそび大作戦!! 琵琶湖博物館の紹介	Gran Resort 2013.7
7	催し物「夏休み自由研究講座」の案内	でんごんぼん 16号(草津コミュニティ支援センター)
7	催し物「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」「初心者のためのふなずし作り体験」の案内	にゅーすもりやま No.564
7	[PaPa & Kids in shiga] 琵琶湖博物館の来館者のパパとキッズを紹介 / 夏休み子どもの学び&体験「からすま半島の生きもの調査(夏の虫)」の案内	リビング滋賀 7/13号、7/20号
7	夏休み計画 企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	ゴクリ 7号
8	水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、 企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」、 体験教室「田んぼ体験」、 わくわく探検隊「光とかがいで写真をとろう ～水草編～」、 からすま半島で楽しもう「昔のくらしをインタビュー」、 講座「琵琶湖の生き立ちをさぐる方法 5:動物化石」の案内	博物館研究 9月号
8	企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	子供の科学 9月号
8	烏丸半島で琵琶湖の自然を観察 琵琶湖博物館の紹介	ポップリード 8月号 vol.45
8	琵琶湖博物館の紹介	SAVVY 8月号
8	催し物「光とかがいで写真をとろう ～水草編～」の案内	びいめーる vol.92
8	琵琶湖博物館の「マミズクラゲ」展示 1年を超え日本記録更新中 / 琵琶湖博物館が9月1日まで 天然記念物「アユモドキ」幼魚展示	滋賀報知新聞(8/18、8/25)
8	企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」、 水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、観察会「ピワマスの採卵現場を見学してみませんか」、からすま半島で楽しもう「昔のくらしをインタビュー」「からすま半島の生きもの調査(秋の植物)」、 講座「琵琶湖の生き立ちをさぐる方法5:動物化石」「はしかけ登録講座」、 体験教室「田んぼ体験」、わくわく探検隊「光とかがいで写真をとろう ～水草編～」「秋の色をさがしてみよう」「ハンモックで遊ぼう」、 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性(全3回)」の案内	れいかる(湖国文化情報) 9・10月号 vol.76

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
9	[情報ひろば] 企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) 9・10月号 vol.145
9	企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」、体験教室「田んぼ体験」、わくわく探検隊「秋の色をさがしてみよう」「ハンモックで遊ぼう」、観察会「ピワマスの採卵現場を見学してみませんか」の案内	博物館研究 10月号
9	企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	子供の科学 10月号
9	夏休みイベント情報、企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」、水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」、からすま半島で楽しもう「プランクトンでアート」、講座「琵琶湖の生きものをさぐる方法4：足跡化石」、体験教室「田んぼ体験」案山子づくりの案内	日経サイエンス 9月号
9	[9月10月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	全科協ニュース vol.43 No.5
9	わくわく探検隊「秋の色をさがしてみよう」「ハンモックで遊ぼう」の案内	でんごんぼん 17号 (草津コミュニティ支援センター)
9	[叶え人]繁殖が困難な魚種の繁殖方法を確立させて、毎年同じ程度の数を保てるようにすることが目標です 琵琶湖博物館水族展示飼育技師 池田康秀	求人わーくめーる[京都・滋賀] vol.29
9	News&Topics Study体験教室「田んぼ体験」の案内	Chekipon vol.79
9	巨大ウナギが大人気 琵琶湖博物館で29日まで展示中 彦根市の漁師が寄贈	滋賀報知新聞 (9/15)
9	秋の満腹♪ドライブBOOK 琵琶湖博物館とバス天井の紹介	関西ウォーカー
9	足を延ばして烏丸半島へ 琵琶湖博物館と企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	滋賀たび 2013AUTUMN (JR西日本)
9	滋賀の思いっきり遊び場リスト 琵琶湖博物館の紹介	Leaf 11月号
10	企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」、体験教室「田んぼ体験」、新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」(全3回)、指導者向け博物館活用講座「土の中の生き物」、観察会「秋の里山を歩こう」の案内	博物館研究 11月号
10	企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	子供の科学 11月号
10	企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」、観察会「秋の里山を歩こう」「朽木観察会」、からすま半島で楽しもう「回転実験室で琵琶湖の物理学を考えよう」「からすま半島の水鳥を観察してみよう」、指導者向け博物館活用講座「土の中の生き物」、体験教室「田んぼ体験」、わくわく探検隊「秋の色をさがしてみよう」「綿にふれてみよう」「水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～」、新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」(全3回)の案内	れいかる (湖国文化情報) 11・12月号 vol.77
10	催し物「ハンモックで遊ぼう」の案内	びいめーる vol.92
10	琵琶湖博物館で20日まで 絶滅危惧種「スイゲンゼニタナゴ」展示	滋賀報知新聞 (10/13)
11	[情報ひろば] わくわく探検隊「秋の色をさがしてみよう」「綿にふれてみよう」「水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～」の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) 11・12月号 vol.146
11	わくわく探検隊「水鳥を観察しよう」、からすま半島で楽しもう「からすま半島の水鳥を観察してみよう」、体験教室「田んぼ体験」の案内	博物館研究 12月号
11	企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	子供の科学 12月号
11	[11月12月の特別展] 企画展示「生きものがたり ー生物多様性 湖国から 世界からー」の案内	全科協ニュース vol.43 No.6
11	西日本で初めて 琵琶湖博物館で幻の魚「クニマス」展示	滋賀報知新聞 (11/7)
11	関西文化の日参加施設情報 (入館無料施設リスト)	関西文化の日
12	わくわく探検隊「博物館でスゴロクをつくろう」、体験教室「田んぼ体験」、からすま半島で楽しもう「水族バックヤード探検」の案内	博物館研究 1月号
12	催し物 わくわく探検隊「博物館でスゴロクをつくろう～B展示室編～」の案内	子供の科学 1月号
12	催し物 からすま半島で楽しもう「むかしのくらし体験」「水族バックヤード探検」「重要文化財を読んでみよう」、体験教室「田んぼ体験」、わくわく探検隊「博物館でスゴロクをつくろう」「廃油石けんを作ろう」の案内	れいかる (湖国文化情報) 1・2月号 vol.78



月	記事テーマ	掲載雑誌社名
12	滋賀県立琵琶湖博物館の「交流活動」	CANDANA No. 256
12	催し物「琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび」「水族バックヤード探検」の案内	びいめーる vol.95
12	催し物 わくわく探検隊「水鳥を観察しよう」、 からすま半島で楽しもう「からすま半島の水鳥を観察してみよう」の案内	にゅーすもりやま No. 573
12	ママ友とおでかけ 草津ドライブ編 琵琶湖博物館の紹介	ピースマム滋賀（合併特大号 BABY&KIDS） vol. 24
12	滋賀の発見コラム おすすめスポット 体験型博物館で琵琶湖を身近に感じる 琵琶湖博物館の紹介	しがなび2014
1	「情報ひろば」からすま半島で楽しもう「水族バックヤード探検」「重要文化財を読んでみよう」の案内	滋賀プラス1（県広報誌） 1・2月号 vol.147
1	ギャラリー展示「アケボノゾウ発掘から20年—新たな発見を求めて—」、 わくわく探検隊「廃油石けんを作ろう」、体験教室「田んぼ体験」、 からすま半島で楽しもう「重要文化財を読んでみよう」「水族バックヤード探検」の案内	博物館研究 2月号
1	ギャラリー展示「アケボノゾウ発掘から20年—新たな発見を求めて—」、 わくわく探検隊「博物館でスゴロクをつくろう～B展示室編～」の案内	子供の科学 2月号
1	琵琶湖博物館の紹介	湖南地域！ええとこクイズラリー
1	琵琶湖博物館の紹介	るるぶこどもとあそび！名古屋東海'14-'15
1	おでかけインフォメーション からすま半島で楽しもう「水族バックヤード探検」の案内	しがでのおでかけ 1月号
1	ご当地講座「琵琶湖博物館学芸員に学ぶ琵琶湖とフナと鮒ずしと」の案内	JEUGIA カルチャーセンター チラシ
1	わくわく探検隊「廃油石けんを作ろう」の案内	でんごんぼん 19号（草津コミュニティ支援センター）
1	安土城考古博物館と琵琶湖博物館が中心となって活動する「滋賀県ミュージアム活性化推進委員会」 湖魚料理を通して琵琶湖の魅力を体感「琵琶湖八珍」として発信する取り組みをスタート	リビング滋賀 1/11、1/18号
1	県立図書館土曜サロン講演会「ピワマスの魅力と謎」（講師）藤岡康弘 上席総括研究員	オージス（大津地域みっちゃく生活情報誌）2月号 vol.15
2	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて—」、 わくわく探検隊「偏光スコープを作ろう」、体験教室「田んぼ体験」、「はしか登録講座」、「からすま半島のミステリー観察会」の案内	博物館研究 3月号
2	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて—」の案内	子供の科学 3月号
2	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて—」、 からすま半島で楽しもう「からすま半島のミステリー観察会」、体験教室「田んぼ体験」、 わくわく探検隊「偏光スコープを作ろう」の案内	れいかる（湖国文化情報） 3・4月号 vol.79
2	催し物「琵琶湖博物館の森でちっちゃなこどものしぜんあそび」「水族バックヤード探検」の案内	びいめーる vol.96
2	琵琶湖博物館の紹介	ぴあ こどもとおでかけ365日（関西版）
2	催し物「水族バックヤード探検」の案内	にゅーすもりやま No. 564
3	「情報ひろば」講演会「魚米之郷を語る」「春のプレミアムレストラン」の案内	滋賀プラス1（県広報誌） 3・4月号 vol.148
3	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて—」の案内	博物館研究 4月号
3	ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて—」の案内	子供の科学 4月号
3	「3月4月の特別展」ギャラリー展示「ボーン コレクターズ 一骨に魅せられて—」の案内	全科協ニュース vol.44 No.2
3	琵琶湖博物館の紹介	Leaf 京都・滋賀キッズと楽しむおでかけスポット184 5月号
3	わくわく探検隊「偏光スコープを作ろう」の案内	でんごんぼん 20号（草津コミュニティ支援センター）

### (3) 予算

2013年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	107,766,316
財 産 収 入	459,390
諸 収 入	9,773,646
合 計	117,999,352

2013年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	355,195,687
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、 水族飼育	105,645,260
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	88,763,545
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	30,304,262
環境学習推進費	環境学習センターの運営	951,461
	合 計	580,860,215

## 4 存在基盤の確立

### (1) 琵琶湖博物館協議会

#### 第1回

開催日時 2013年11月6日（水） 13:30～16:30  
 場 所 琵琶湖博物館セミナー室  
 議 題 ①琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について  
 ②その他

#### 第2回

開催日時 2014年3月6日（木） 14:00～16:30  
 場 所 琵琶湖博物館セミナー室  
 議 題 ①新琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について  
 ②琵琶湖博物館中長期基本計画2013年度行動計画の実績・評価および2014年度行動計画について

#### 第9期委員

（任期：2012年9月1日～2014年8月31日）

氏 名	区分	現 職（2014年3月現在）
北島 泰雄	学校教育	草津市立常盤小学校 校長
河上 哲昭	学校教育	野洲市立中主中学校 校長
津屋 結唱子	家庭教育	滋賀次世代文化芸術センター 副代表
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
伴 修平	学識者	滋賀県立大学環境科学部 教授
西川 輝昭	学識者	東邦大学理学部 教授
市川 憲平	学識者	姫路市立水族館 館長
菊池 玲奈	学識者	結・社会デザイン事務所 代表
松江 仁	学識者	京都放送（KBS京都） 滋賀支社長
廣畑 諭	学識者	パナソニック（株）アプライアンス社 総務グループひろげるエコ推進チーム チームリーダー
出口 晶子	学識者	甲南大学文学部 教授
中田 春美	学識者	近江歴史回廊倶楽部
山本 尚三郎	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 副理事長
小田 典宏	学識者	公募委員
前田 雅子	学識者	公募委員

### (2) 企画・計画

#### 1) 第三段階（2011年度～2015年度）活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。2013年度は計画の第三段階にあたり、地域の人々が博物館と対話することを通して、地域を再発見することを促し、琵琶湖博物館がこの活動を応援することで共に成長することができる機能（対話と応援ができる博物館）の強化に向けた取り組みを行っている。

第三段階は新琵琶湖博物館の創造に向けた準備期間としても位置づけられており、リニューアルを視野に入れた事業の実施に努めたところであり、また、新琵琶湖博物館創造基本計画に報告されているとおり、開

館以降 17 年間の取り組みの実績と課題を整理し、第三段階の総仕上げを目指し、2014 年度の行動計画を作成した。

## 2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、口コミを促す働きかけ」を戦略として効果的な広報を展開した。広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問、ホテル・旅館・道の駅等にポスター・チラシの配布、大型集客施設での常設展示の紹介展示設置などを行ってきた。報道機関への資料提供に加え、ビジターズビューロー等と連携し、広域的な広報活動を展開するとともに、琵琶湖博物館への誘客活動を行った。

特に 2013 年度は、アンケート結果等で有効とされている「口コミ」による広報の拡大に向けて、新たな取り組みとして、スマートフォン用のホームページを新たに開発した。また、既存のホームページも見やすさや魅力の点から見直しを行い、多くの人アクセスのしやすい魅力的なホームページ作りを行った。さらに「地域発見!参加型移動博物館」を展開し、ラジオを活用した有料広告を行い、併せて「イナズマロックフェスティバル」などイベントへの出展や、イオンモール草津など大型集客施設で紹介展示を行うなど、琵琶湖博物館の PR を行った。

これらの活動については、広報調整会議において、従来の広報戦略を評価し、リニューアルを見据えた広報戦略について検討を行った。

## IV 2013 年度をふり返って

### 1 研究部

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、地域の人びととともに行う研究調査成果の公表8件、統合研究による成果を活かした共同研究1件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業20件が目標値であった。地域の人びととともに行う研究については、水田生物研究会などで20件の研究成果を公表し目標値を達成した。また、統合研究による成果を活かした共同研究、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業についても目標値を達成した。科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に5件が採択され、採択率26.3%であった。継続もあわせると13件が採択されており、都道府県立の博物館では一位の採択件数である。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、学術論文21件、専門分野の著述57件、一般向けの著述40件、学会発表は53件であった。研究成果の発信数は全体的に昨年度の数字を下回った。新琵琶湖博物館創造の基本計画の策定と重なったことが原因の一つとして考えられるが、事業と研究のバランスをとりながら研究成果の発信を続けていく必要がある。中日新聞連載コラム「湖岸より」や毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などに執筆連載するなど、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることが重要であり、今後も継続させ、その充実を図ってきたい。県が海外に向け琵琶湖情報発信ツールの一つとして『Lake Biwa Guidebook』を発行し、当館から8人の学芸職員が専門分野を担当した。今後更に、海外へ琵琶湖の価値を発信する活動も継続していくことが大切である。

また、本年度は昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーは、企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」と連動して、生物多様性についての理解をより深めてもらうことを目指して実施した。9月、10月、11月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行った。11月の最終回では「生きもののめぐみ、今・むかし」というテーマでシンポジウムを行った。合計146名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

### 2 事業部

#### (1) 展示

第21回琵琶湖博物館企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」は、当館の収蔵資料をはじめ、多くの博物館、動物園等の施設の協力を得て貴重な標本や資料を多数展示し、67,347人という歴代三位の入場者数を数えた。企画展示関連の水族トピック展示では、再発見された生きたクニマスを展示し、約1か月で2万人弱の来場者数を得た。水族企画展示「水中の忍者たち～滋賀の水生昆虫～」では、7万人程度の来場者があり、いずれも好評であったことがうかがえる。また、ギャラリー展示では、「近江の博物学者 橋本忠太郎ー植物研究にかけた情熱ー」において、地元日野町の方々や学校・公民館等との協力による貴重な資料の展示を行った。「アケボノゾウ発掘から20年ー新たな発見を求めてー」では、県内博物館の共催・協力による巡回展を、また、「ボーン コレクターズー骨の魅力に魅せられてー」においては、琵琶湖博物館はしかけ「ほねほねくらぶ」の活動紹介を行った。集う・使う・創る新空間でも、様々な特性を持つ団体による13件の利用があり、より幅広い地域や活動を紹介する展示を行うことができた。

## (2) 資料の整備・活用

2013年度は、大口の寄託資料として、ヨシ博物館（近江八幡市）の閉館および建物の老朽化が深刻化したことにより、資料の緊急に受入れの必要が生じ、幸いにも平成25年度文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）による事業の一環として実施することができた。また、昆虫資料の大型コレクション（村山コレクション）に関するデータベース情報の公開が実現し、企画展示で展示した魚たちの電子図鑑も新規に追加公開が実現するなど、地道な資料整備活動が着実に進行している。いずれも、まだまだ未整理や未公開の状態にあるものが多く、さらに着実に進行させていくことが今後の課題である。

その一方で、資料収蔵設備の経年劣化による収蔵環境の悪化は深刻になりつつあり、収蔵庫温湿度の安定的な制御が困難になったり、収蔵庫空間に発生した虫の管理に苦慮したりすることが増えるという形で顕在化してきている。そこで、この状況に対して対症療法ではなく根本から対処する方法を探るべく「資料収蔵環境改善プロジェクト」を立ち上げ、まず今年度は資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案のとりまとめを行った。これにより、資料収蔵環境を今後も良好に維持していくために必要なことを整理することができたので、今後はこれをどのようにして具体的に進めていくか、特に予算が不十分な中で何を優先して進めていくかが課題となる。

## (3) 交流・サービス活動

2013年度の観察会・見学会ではリニューアルを考慮に入れ、博物館館内、屋外展示、烏丸半島など博物館周辺を重点地域として実施した。また、各地域で実施した観察会6件すべてで他団体と共同で実施した。

学校連携事業では学校行事で来館する児童生徒数は前年度とほぼ同数で減少傾向に歯止めがかかった状況であるが、学校数は43校も減少した。体験学習は前年度比17%増で、ここ何年も増加傾向にある。需要があることは喜ばしいが、人手の問題や空間的制約があるので、展示室を利用した手間がかからないプログラムの開発などが必要となる。

サテライト博物館では、彦根市立若葉小学校から高月の田園空間博物館総合案内所に移設し、初めて学校以外の施設で展示を行った。能登川東小学校では地元のシルバー人材センターの方がミュージアムの運営に協力してくださっており、琵琶湖博物館で展示作りのワークショップを開催した。

「フィールドレポーター」制度では「カタツムリ調査」や「小さい冬見つけた調査」を実施した。登録者数は111名でここ2年ほど増加傾向にある。

「はしかけ」制度については、「湧水の会」が解散したが、「暮らしをつづる会」および「タンポポ調査はしかけ」が新たに結成された。

## 3 総務部

### (1) 来館者の状況

琵琶湖博物館の来館者数は、開館以来、減少傾向にあったが、2005・2006年度には、当館の広報経営戦略に沿った活動の展開、開館10周年記念イベントや黄色のナマズの捕獲・展示などの話題性もあり増加に転じた。しかし、2007年度には再び減少し、それ以降、「あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう！」や7・8月実施の「クールライフキャンペーン」などの取組による一時的な回復は見られたが、総じて来館者数の減少傾向が続いていた。

これまでの減少の要因として、当館近隣での大型商業施設や類似施設の相次ぐオープンなどの外的要因が考えられるが、開館後に蓄積された調査研究・収藏品などの成果に基づく展示替えなど、県民にわかりやすく、タイムリーな情報発信の機会がなかったことも大きな要因と考えられる。

現在、博物館リニューアルを計画しており、今後、順次改修を行っていくが、リニューアルが完成するまでの間にも、来館者に満足していただけるような取り組みを行って、来館者の増加につなげていきたい。

## (2) 来館者サービスの向上

当館の来館者はリピーターの方の利用が多いことから、2004年4月より1年間に何回でも観覧できる年間観覧券(年間パスポート)の販売を開始し、2013年度では233人(対前年10人減)に購入があり、延べ1,024回の来館があった。さらに2009年11月から行っている年間観覧券購入時に常設展示観覧招待券を1枚進呈するサービスも継続しており、顧客の定着化を図りつつ、新規顧客開拓への呼び水になるものとして、両制度とも引き続き取り組んでいきたい。

また、関西元気文化圏推進協議会が主催する「関西文化の日」事業への参加を行い、11月16・17の両日、常設展示観覧料を無料とする取り組みを実施し4,884人の来館があった。

## (3) 広報戦略と情報発信

今年度は新琵琶湖博物館創造を見据えた新たな広報戦略を策定した。「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、口コミを促す働きかけ」を戦略として効果的な広報を展開する予定である。これまでの広報活動のほか、広報担当職員による県内外小中学校訪問、大型集客施設での移動博物館の展開などを行ってきたが、今年度はアンケート結果等で有効とされている「口コミ」による広報の拡大に向けて、新たな取り組みとして、スマートフォン用のホームページを開発した。また、既存のホームページも見やすさや魅力の点から見直しを行い刷新した。こうした結果、来館者数の減少に一定の歯止めをかけることができたのではないかと考えている。

また、琵琶湖博物館の魅力を伝え、新規来館者やリピーターを確保していくため、これまでの広報戦略の弱点を検証し、ターゲット層を明確にし、ターゲットごとのきめ細かい広報を展開していく広報戦略について検討し、一定の方向性を示すことができた。今後は、リニューアルを見据え、琵琶湖博物館のブランドの再構築に努め、各種媒体と連携した効果的な広報活動を行う必要がある。

こういった広報活動の重要なポイントとなる情報発信については、最近の継続的な問題になっている端末機器群の運用が財政事情により困難になってきていること、発信情報と双方向情報交換との連携が巧くしていないことの2点については、今年度も大きく変わっていない。

インターネットによる館外向けサービスとして、イベントや研究成果の情報発信、各種質問への対応や収蔵品データベース、電子図鑑の維持管理を行った。また、ホームページの更新頻度を維持し、情報を迅速かつ効率的に発信できる体制を確保することにより、効果的な情報発信を行うことができた。さらに、ホームページの見直しを行い、魅力的なサイトとなるよう努めたところである。

近年の情報通信環境の多様化に伴い、さまざまな媒体が用いられるようになってきている。そのため、博物館諸事業にかかる情報発信も、博物館独自のシステムを利用したインターネットサイトだけではなく、新たな媒体の利用を考慮しながら戦略的に運営することが求められている。

## (4) 施設整備

これまでに必要な修繕、更新を行ってきたものの、建築後15年以上が経過し、設備機器の多くが耐用年数の末期をむかえている。当館内の温度管理や空調関係の主軸となる熱源機械設備の大規模改修を行ったものの、抜本的な見直しを検討すべき時期が迫っており、他の設備機械も含めた全体的な改修計画に取り組む必要がある。

## (5) 国際提携

2013年度は滋賀県と中国湖南省の友好提携30周年にあたり、それを記念する事業が県をあげて実施された。その一環として、当館では11月に湖南省博物館と今後の研究連携等について協定を締結し、移動博物館を湖南省長沙市内で開催した。さらに繋げて、来年度に行う企画展示「(仮)琵琶湖・洞庭湖・太湖一水辺の暮らし」の準備を行っている。また、第1期リニューアル(水族展示)で予定している新コーナー「古代湖

の世界」にかかるバイカル湖の固有種展示について協力を得るため、バイカル博物館との交流を進めている。

#### (6) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」の新しい共存関係を築くことを目的に平成 8 年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題が顕在化し、また、暮らしと環境に対する県民の考え方が多様化し、地域での取り組みも活発化している。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかかわりを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要がある。

こうしたことから、2012 年度に新琵琶湖博物館創造準備室を立ち上げ、2013 年 3 月にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」を、2014 年 3 月に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定した。

今後、リニューアルを段階的に実施することとし、第 1 期リニューアルに向け、開館 20 周年にあたる 2016 年を目途に、C 展示室と水族展示のリニューアル実施設計に取り組む。



琵琶湖博物館 年報 18号

2013年度

平成26年(2014年)12月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地  
電話 077-568-4811